Canon

IXY 600F

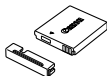
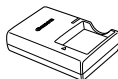
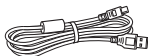
カメラユーザーガイド

- ご使用前に必ず本書および、本書の「安全上のご注意」をお読みください。
- 本書をよく読んで、正しくお使いください。
- 将来いつでも使用できるように大切に保管してください。

日本語

カメラと付属品の確認

お使いになる前に、次のものが入っていることを確認してください。
万が一、不足のものがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。

カメラ

バッテリーパック NB-4L
（端子カバーつき）

バッテリーチャージャー
CB-2LV

インターフェースケーブル
IFC-400PCU

リストストラップ
WS-DC11

カメラユーザーガイド
（本書）

DIGITAL CAMERA
Solution Disk

保証書

サポートガイド

電子マニュアルについて

CD-ROM内の「Readme」フォルダに、次の電子マニュアル（PDF形式）が入っています。ソフトウェアをインストールすると、電子マニュアルがパソコン内にコピーされ、デスクトップのショートカットアイコンをクリックして参照できるようになります。

- **ソフトウェアガイド**

  付属のソフトウェアを使うときにお読みください。

- メモリーカードは付属されていません（p.16）。
- 電子マニュアル（PDF形式）をご覧になるには、Adobe Readerが必要です。

はじめにお読みください

- 必ず事前に試し撮りをし、撮影後は画像を再生して画像が正常に記録されていることを確認してください。万が一カメラやメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの取り込みができなかったときの記録内容の補償については、ご容赦ください。
- このカメラで記録した画像は、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限していることがありますのでご注意ください。
- このカメラの保証書は国内に限り有効です。万が一、海外旅行先で故障や不具合が生じたときは、帰国したあと、別紙の修理受付センターへご相談ください。
- 液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており99.99%以上の有効画素がありますが、画素欠けや、黒や赤の点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録される画像には影響ありません。
- 液晶モニターに保護シートが貼られているときは、はがしてからご使用ください。
- このカメラは、長い時間お使いになっていると、カメラの温度が高くなることがあります。これは故障ではありません。

撮　る

見　る

動画を撮る／見る

印刷する

残　す

その他

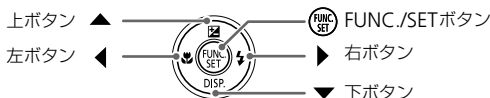
目次

6 動画のいろいろな機能を使ってみよう 103

7 いろいろな再生と編集機能を使ってみよう 113

8 印刷してみよう 141

このガイドの記載について

- カメラのボタンやスイッチは、ボタンやスイッチに表記されている絵文字を使って示しています。
- 撮影モード、画面に表示される絵文字や文言は、[ ] つきで示しています。
- 十字キー、FUNC./SET（ファンクション/セット）ボタンは、それぞれ次の絵文字で示しています。

- ：注意事項を示しています。
- ：困ったときに手助けとなる内容を示しています。
- ：上手に使うためのヒントを示しています。
- ：補足説明を示しています。
- （p.xx）：参照ページを示しています。xxはページ数を示しています。
- すべての機能が初期状態になっていることを前提に説明しています。
- このカメラで使えるメモリーカードのことを「カード」と表記しています。

安全上のご注意

- ご使用の前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、製品を正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。
- 別売アクセサリーをお持ちのときは、付属の使用説明書もあわせてご確認ください。

⚠ 警告 死亡または重傷を負う可能性がある内容です。

- **ストロボを人の目に近づけて発光しない。**

視力障害の原因となります。特に、乳幼児を撮影するときは1 m以上離れてください。

- **お子様や幼児の手の届くところで保管しない。**

ストラップ：誤って首に巻き付けると、窒息することがあります。

- **指定外の電源は使わない。**
- **分解、改造したり、加熱しない。**
- **落とすなどして強い衝撃を与えない。**
- **落下などで破損したときは、内部には触れない。**
- **煙が出ている、異臭がするなどの異常が発生したときは使わない。**
- **アルコール、ベンジン、シンナーなどの有機溶剤で手入れしない。**
- **水や海水などの液体で濡らさない。**
- **内部に液体や異物などを入れない。**

感電、火災の原因となります。
万が一、液体や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、その後必ずバッテリーを取り出してください。
バッテリーチャージャーが液体で濡れたときは、コンセントから抜いて、お買い上げになった販売店または修理受付センターにご相談ください。

- **指定外のバッテリーは使わない。**
- **バッテリーは火に近づけたり、火の中に投げ込まない。**
- **電源プラグを定期的に抜き、その周辺およびコンセントにたまったホコリや汚れを乾いた布で拭き取る。**
- **濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。**
- **コンセントや配線器具の定格を超える使いかたをしない。また、電源プラグが傷んでいたり、差し込みが不十分なまま使わない。**
- **電源プラグや端子に金属製のピンやゴミを付着させない。**

バッテリーが破裂や液漏れし、けがや周囲を汚す原因となったり、火災、感電の原因となることがあります。万が一、電解液が漏れ、衣服、皮膚、目、口についたときは、ただちに洗い流してください。

- **カメラの使用が禁止されている場所では、カメラの電源を切る。**

カメラが発生する電磁波により、計器や機器に影響を与える恐れがあります。特に飛行機内や医療機関など、電子機器の使用が制限されている場所では十分注意してください。

- **付属のCD-ROMは、CD-ROM対応ドライブ以外では絶対に再生しない。**

音楽用CDプレーヤーで再生してヘッドフォンなどを使用したときは、大音量により聴力障害の原因となります。また、音楽用CDプレーヤーで使用したときは、スピーカーなどの破損の原因となります。

注意 傷害を負う可能性がある内容です。

- **ストラップで下げているときは、他のものに引っ掛けたり、強い衝撃や振動を与えない。**
- **レンズを強く押したり、ぶつけたりしない。**

けがやカメラの故障の原因となることがあります。

- **液晶モニターに強い衝撃を与えない。**

液晶モニターが割れると、破片でけがをすることがあります。

- **ストロボを指や布などで覆ったまま、発光させない。**

やけどや故障の原因となることがあります。

- **次の場所で使用・保管しない。**
  - **直射日光のあたるところ**
  - **40度を超える高温になるところ**
  - **湿気やホコリの多いところ**

バッテリーの液漏れ、発熱、破裂により、感電、やけど、けが、火災の原因となることがあります。

カメラやバッテリーチャージャーが熱により変形することがあります。

- **長時間画面を見ていると、不快感を感じることがありますのでご注意ください。**

注意 物的損害を負う可能性がある内容です。

- **カメラを強い光源（晴天時の太陽など）に向けない。**

撮像素子が損傷することがあります。

- **砂浜や風の強い場所で使うときは、カメラの内部にホコリや砂が入らないようにする。**

故障の原因となることがあります。

- **ストロボに汚れやホコリなどの異物がついたときは、綿棒などで取り除く。**

そのまま発光させると、発光熱により、付着物の発煙や故障の原因となることがあります。

- **使用しないときは、カメラからバッテリーを取り出して保管する。**

カメラにバッテリーを入れたままにしておくと、液漏れにより故障の原因となることがあります。

- **バッテリーを廃却するときは、接点にテープを貼るなどして絶縁する。**

他の金属と接触すると、発火、破裂の原因となることがあります。

- **バッテリーチャージャーは、使用しないときや充電が終わったときは、コンセントから外す。**
- **布などをかけたまま充電しない。**

長時間接続しておくと、発熱、変形して火災の原因となることがあります。

- **ペットの近くにバッテリーを置かない。**

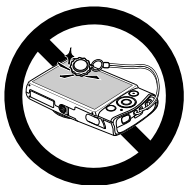
バッテリーに噛みついたとき、バッテリーの液漏れ、発熱、破裂により、故障や火災の原因となることがあります。

- **ズボンのポケットにカメラを入れたまま椅子などに座らない。**

液晶モニターの破損の原因となります。

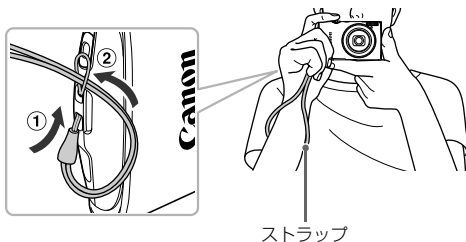
- **かばんにカメラを入れるときは、硬いものが液晶モニターにあたらないようにする。**
- **ストラップにアクセサリーをつけない。**

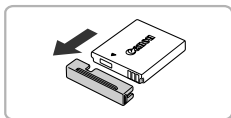
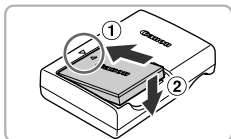
硬いものが液晶モニターにあたると破損の原因になります。

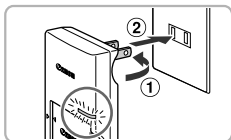
1

さっそくカメラを使ってみよう

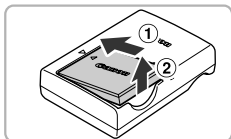
この章では、撮影前の準備、AUTO（オート）モードでの撮影、画像を見る、消すの一連の操作について説明しています。また章の後半では、動画を撮る、見る方法や、パソコンに画像を取り込む方法について説明しています。

ストラップを取り付ける／カメラを構える

- 付属のストラップをカメラに取り付け、撮影時にはカメラを落とさないように、手首に通してお使いください。
- 撮影するときは、脇をしめてカメラが動かないようにしっかりと構え、ストロボに指がかからないようにしてください。

充電する

カメラに付属のバッテリーチャージャー（充電器）を使って、バッテリーを充電します。お買い上げ時はバッテリーが充電されていませんので、必ず充電してからお使いください。

1 カバーを外す

2 バッテリーを取り付ける

- バッテリーとバッテリーチャージャーの▲をあわせて、①の方向へ押しながら、②の方向へ取り付けます。

3 充電する

- プラグを①の方向へおこして、②コンセントに差し込みます。
- ▶ 充電がはじまり、ランプがオレンジ色に点灯します。
- ▶ 充電は、約1時間30分で完了し、ランプが緑色に点灯します。

4 バッテリーを取り外す

- バッテリーチャージャーをコンセントから抜き、①の方向へ押しながら、②の方向へ取り外します。

バッテリーを保護し、性能の劣化を防ぐため、24時間以上連続して充電しないでください。

撮影できる枚数と時間

撮影枚数＊1		約210枚
動画撮影時間＊2		約40分
	連続時＊3	約1時間10分
再生時間		約4時間

＊1 撮影枚数は、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。
＊2 カメラの初期状態で、撮影/一時停止、電源の入/切、ズームなどの操作をしたときの時間です。
＊3「一度に撮影できる時間まで撮影」、「自動停止」を繰り返したときの時間です。

- 撮影枚数や撮影時間は、撮影条件により少なくなることがあります。

バッテリーの残量表示

バッテリーの状態は、画面にマークやメッセージで表示されます。

画面表示	内容
	十分です。
	少し減っていますが、まだ使えます。
（赤く点滅）	残量が少なくなってきました。充電してください。
[バッテリーを交換してください]	残量がありません。すぐに充電してください。

こんなときは？

- バッテリーがふくらむ
  バッテリー特性のため安全上は問題ありません。ただし、バッテリーがふくらむことでカメラに入らなくなったときは、別紙の修理受付センターへご相談ください。
- 充電したのにすぐ使えなくなる
  バッテリーの寿命です。新しいバッテリーをお買い求めください。

バッテリーとバッテリーチャージャーの上手な使いかた

- 充電は使う前日か当日にする
  充電したバッテリーは、使わなくても自然放電によって少しずつ残量が減っていきます。
  充電したバッテリーは、▲が見えるようにカバーを取り付けます。

- 長期間保管する
  バッテリーを使い切ってカメラから取り出し、カバーをつけて保管してください。バッテリーを使い切らずに長期間（1年くらい）保管すると、バッテリー寿命を縮めたり、性能が劣化することがあります。
- バッテリーチャージャーを海外で使う
  バッテリーチャージャーは、AC 100 – 240 V 50/60 Hzの地域で使えます。プラグの形状があわないときは、市販の電源プラグ変換アダプターを使ってください。海外旅行用の電子式変圧器は故障の原因になりますので絶対に使わないでください。

使えるカード（市販品）を確認する

以下のカードが容量に制限なくお使いになれます。

- SD（エスディー）メモリーカード*
- SDHC（エスディーエイチシー）メモリーカード*
- SDXC（エスディーエックスシー）メモリーカード *
- Eye-Fi（アイファイ）カード

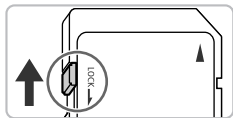
* SD規格に準拠したカードです。カードによっては、正しく動作しないことがあります。

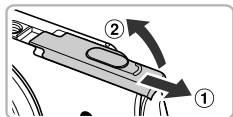
お使いのOSのバージョンによっては、SDXCメモリーカードをカードリーダー（市販品）に差しても、認識されないことがあります。必ずOSの対応状況を事前にご確認ください。

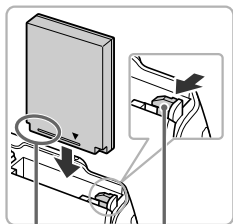
Eye-Fiカードについて

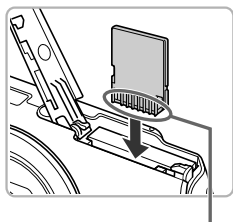
本製品は、Eye-Fiカードの機能（無線送信を含む）を保証するものではありません。カードに関する不具合は、カードメーカーにお問いあわせください。
また、Eye-Fiカードの使用には、多くの国や地域で認可が必要であり、認可を取得していないものの使用は認められていません。使用が認められているかご不明の場合は、カードメーカーにご確認ください。

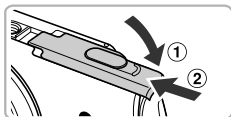
バッテリーとカードを入れる

付属のバッテリーとカード（市販品）をカメラに入れます。

1 カードのスイッチを確認する

- スイッチがあるカードでは、スイッチが下（「LOCK」側）になっていると撮影できません。「カチッ」と音がするまでスイッチを上に動かします。

2 ふたを開ける

- ①の方向にふたを動かして、②の方向へふたを開けます。

3 バッテリーを入れる

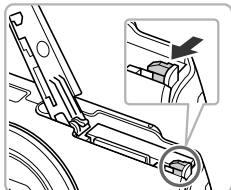
- バッテリーを図の向きにして、バッテリーロックを矢印の方向へ動かし、「カチッ」と音がしてロックされるまで差し込みます。
- 間違った向きでバッテリーを入れるとロックされません。必ずバッテリーがロックされる正しい向きで入れてください。

4 カードを入れる

- カードを図の向きにして、「カチッ」と音がするまで差し込みます。
- カードは、必ず正しい向きで入れてください。間違った向きで入れると、カメラの故障の原因となります。

5 ふたを閉める

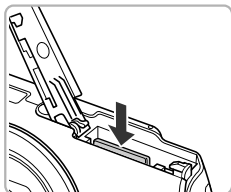
- ふたを①の方向にたおして押さえたまま、②の方向へ「カチッ」と音がするまで動かして閉めます。

［カードがロックされています］が表示された

スイッチのあるカードでは、スイッチが「LOCK」側になっていると、画面に［カードがロックされています］と表示され、撮影することや撮影した画像を消すことができません。

バッテリーとカードを取り出す

バッテリーを取り出す

- ふたを開け、バッテリーロックを矢印の方向に動かします。

▶ バッテリーが出てきます。

カードを取り出す

- 「カチッ」と音がするまでカードを押し込み、ゆっくり指を離します。

▶ カードが出てきます。

1枚のカードに撮影できる枚数

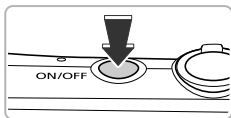
カード	4 GB	16 GB
撮影枚数	約1231枚	約5042枚

- カメラが初期状態での枚数です。
- 撮影枚数は、カメラの各種設定、被写体、カードにより変わります。

撮影できる枚数を確認するには？

撮影できる枚数は、カメラを撮影モード（p.26）にすると画面で確認できます。

日付／時刻を設定する

はじめて電源を入れると、日付／時刻の設定画面が表示されます。撮影した画像には、ここで設定した日付／時刻をもとにした日時の情報が記録されます。必ず設定してください。

1 電源を入れる

- 電源ボタンを押します。
- ▶［日付/時刻］画面が表示されます。

2 日付／時刻を設定する

- ◀か▶を押して項目を選びます。
- ▲か▼を押して設定します。
- すべての項目を設定したら、(FUNC/SET) を押します。

3 自宅のエリアを設定する

- ◀か▶を押して自宅のあるエリアを選びます。

4 設定を終える

- (FUNC/SET) を押すと設定されて、確認画面が表示されたあと、撮影画面に戻ります。
- 電源ボタンを押すと電源が切れます。

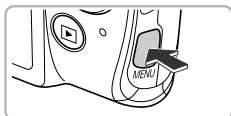
? 電源を入れるたびに［日付/時刻］画面が表示されるときは？

日付／時刻や自宅エリアを設定しないと、電源を入れるたびに［日付/時刻］画面が表示されます。正しく設定してください。

サマータイムの設定

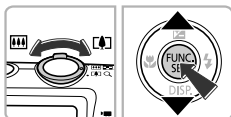
p.20の手順2で［ ］を選び、▲か▼を押して［ ］にすると、サマータイム（1時間プラスされます）に設定されます。

日付／時刻を変える

日付／時刻を、現在の設定から変えられます。

1 メニューを表示する

- MENUボタンを押します。

2 ［日付/時刻］を選ぶ

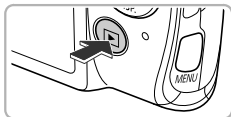
- ズームレバーを動かして、［ ］タブを選びます。
- ▲か▼を押して［日付/時刻］を選び、 を押します。

3 日付／時刻を変える

- p.20の手順2の操作で設定します。
- MENUボタンを押すと、メニュー画面が消えます。

日付／時刻用電池について

- カメラには日付／時刻用電池（バックアップ電池）が内蔵されています。バッテリーを取り出してから約3週間は、設定した日付／時刻が保持されます。
- 日付／時刻用電池は、充電したバッテリーをカメラに入れるか、ACアダプターキット（別売）（p.203）を使うと、カメラの電源を入れなくても約4時間で充電されます。
- 日付／時刻用電池がなくなると、カメラの電源を入れたときに［日付 / 時刻］画面が表示されます。p.20の手順で正しく設定してください。

表示言語を選ぶ

画面に表示される言語を変えられます。お買い上げ時は日本語に設定されています。

1 再生モードにする

● ▶ボタンを押します。

2 設定画面を表示する

● (FUNC/SET)を押したまま、すぐにMENUボタンを押します。

3 言語を設定する

● ▲▼◀▶を押して言語を選び、(FUNC/SET)を押します。

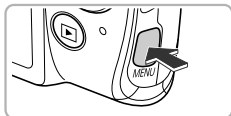
▶ 表示言語が設定され、設定画面が消えます。

(FUNC/SET)を押したら時計画面が表示された？

手順2の操作で(FUNC/SET)を押してから、MENUボタンを押すまでの間隔が長いと、時計表示になります。時計表示になったときは(FUNC/SET)を押して時計表示を消して、もう一度手順2の操作を行います。

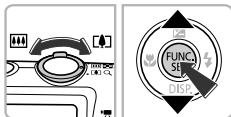
言語設定は、MENUボタンを押すと表示されるメニュー画面で、[ƳƬ] タブの［言語 ］を選んで設定することもできます。

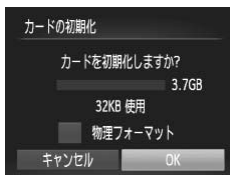
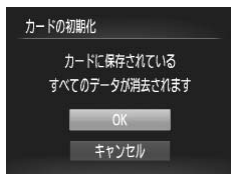
カードを初期化する

新しく買ったカードや他のカメラやパソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）することをおすすめします。
初期化するとカード内のすべてのデータは消され、もとに戻すことはできません。十分に確認してから初期化してください。
また、Eye-Fiカード（p.175）では、初期化する前にカード内のソフトウェアをパソコンにインストールしてください。

1 メニューを表示する

- MENUボタンを押します。

2 ［カードの初期化］を選ぶ

- ズームレバーを動かして、［ƳT］タブを選びます。
- ▲か▼を押して［カードの初期化］を選び、(FUNC/SET)を押します。

3 ［OK］を選ぶ

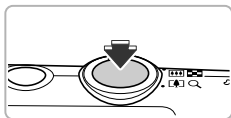
- ◀か▶を押して［OK］を選び、(FUNC/SET)を押します。

4 初期化する

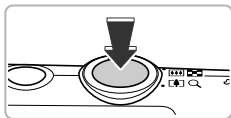
- ▲か▼を押して［OK］を選び、(FUNC/SET)を押すと初期化がはじまります。
- 初期化が終わると［カードの初期化が完了しました］が表示されますので、(FUNC/SET)を押します。

カード内のデータは、初期化や消去をしてもファイル管理情報が変わるだけで、完全には消えません。カードを譲渡や廃棄するときは注意してください。廃棄するときはカードを破壊するなどして、個人情報の流出を防いでください。

- 初期化の画面で表示されるカードの総容量は、カードに表記されている容量よりも少なくなることがあります。
- カメラが正しく動作しない、カードへの画像記録／再生時の読み出しや連続撮影速度が遅くなった、動画撮影が途中で止まるなどのときは、物理フォーマットをしてください（p.159）。

シャッターボタンの押しかた

ピントが合った画像を撮るために、必ずシャッターボタンを浅く押す「半押し」をしてピントを合わせてから、「全押し」して撮影します。

1 半押し（浅く押してピントを合わせる）

- 電子音が「ピピッ」と2回鳴り、ピントが合った位置にAFフレームが表示されるまで、浅く押します。

2 全押し（そのまま深く押して撮影する）

▶ シャッター音が鳴り、撮影されます。

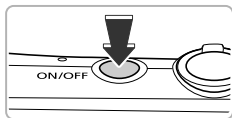
- シャッター音が鳴っている間は撮影中のため、カメラを動かさないように注意してください。

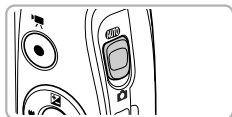
? シャッター音の長さが変わる？

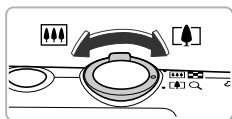
- 撮影にかかる時間は、撮影シーンにより変わるため、シャッター音の長さが変わることがあります。
- シャッター音が鳴っている間にカメラを動かしたり、被写体が動いたりすると、ブレの原因になりますので注意してください。

シャッターボタンを半押ししないで撮影すると、ピントが合わない画像になることがあります。

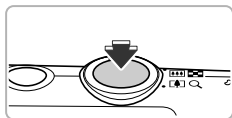
撮る（こだわりオート）

カメラが被写体や撮影状況を判別するため、シーンに最適な設定でカメラまかせの全自動撮影ができます。

1 電源を入れる

- 電源ボタンを押します。
- ▶ 起動画面が表示されます。

2 AUTO モードにする

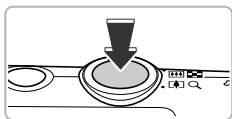
- モードスイッチを AUTO にします。
- カメラを被写体に向けると、シーンを判別するため動作音（カチカチ）がします。
- ▶ 画面の右上にカメラが判別したシーンと手ブレ補正のアイコンが表示されます（p.184、185）。
- ▶ 被写体が検出されたときは、フレームが表示されてピントを合わせます。

ズームバー

3 撮りたいものの大きさを決める

- ズームレバーを [♠] 側に押すと撮りたいものが大きくなり、[♠♠♠] 側に押すと小さくなります（ズームの位置を示すズームバーが表示されます）。

4 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。

AFフレーム

▶ピントが合うと電子音が「ピピッ」と2回鳴り、ピントが合った位置にAFフレームが表示されます。
複数のAFフレームが表示されたときは、表示されたすべてのAFフレームにピントが合っています。

5 撮影する

- シャッターボタンを全押しして、撮影します。
- ▶シャッター音が鳴り、撮影されます（暗いところでは自動的にストロボが光ります）。
- ▶撮影した画像は、約2秒間表示されます。
- 画像が表示されている状態でも、シャッターボタンを押すと、次の撮影ができます。

❓ こんなときは？

- **思いどおりの色調や明るさで撮影されない**
  画面に表示されるシーンのアイコン（p.184）が、実際のシーンと異なることや、思いどおりの効果で撮影されないことがあります。そのときは、**P**モード（p.81）で撮影することをおすすめします。
- **カメラを被写体に向けると、白や灰色のフレームが表示される**
  カメラが主被写体と判断した顔やものには白のフレーム、複数の顔が検出されたときはその他の顔に灰色のフレームが表示され、一定の範囲で追尾します。ただし、被写体が動いていると判別したときは、灰色のフレームが消えて、白のフレームだけになります。
- **撮りたい被写体にフレームが表示されない**
  被写体が検出されずフレームが表示されなかったり、背景などにフレームが表示されることがあります。そのときは、**P**モード（p.81）で撮影することをおすすめします。

- **シャッターボタンを半押ししたときに、青色のフレームが表示される**
  被写体が動いていると判別したときは、青色のフレームが表示され、ピントと露出を合わせ続けます（サーボAF）。
- **[ ]が点滅表示する**
  手ブレしやすいので、カメラが動かないように、三脚などでカメラを固定してください。
- **音が鳴らない**
  ▼ボタンを押したまま電源を入れたため、音が鳴らなくなりました。音が鳴るように設定するには、MENUボタンを押して、[ ]タブの［消音］を選び、◀か▶を押して［しない］を選びます。
- **ストロボが光ったのに暗い画像になる**
  被写体までの距離が遠すぎます。ズームレバーを 側に押してもっとも広角側にしたときは約50 cm – 4.0 m、[ ]側に押してもっとも望遠側にしたときは約50 cm – 2.0 mの範囲で撮影してください。
- **シャッターボタンを半押ししたときに、電子音が「ピッ」と1回鳴る**
  撮りたいものが近すぎる可能性があります。ズームレバーを 側に押してもっとも広角側にしたときで約1 cm以上、[ ]側に押してもっとも望遠側にしたときは約1 m以上離れて撮影してください。
- **シャッターボタンを半押ししたときに、ランプ（前面）が点灯する**
  暗いところでの撮影では、目が赤く写るのを緩和したり、ピントを合わせるために、ランプが点灯することがあります。
- **撮影しようとしたら、[ ]が点滅表示されて撮影できない**
  ストロボ充電中です。充電が終わると撮影できます。

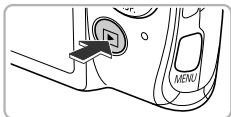
画面に表示されるアイコンは？

カメラが判別したシーンや手ブレ補正の種類を示すアイコンが表示されます。表示されるアイコンについては「シーンのアイコン」（p.184）、「手ブレ補正アイコン」（p.185）を参照してください。

ピントを合わせたい被写体を選ぶ（キャッチAF）

▲を押して［ ］を表示したあと、被写体に［ ］が重なるようにカメラを動かして、シャッターボタンを半押しすると、青色のフレームが表示され、ピントと露出を合わせ続けます（サーボAF）。シャッターボタンを全押しして撮影します。

見る

撮影した画像を画面で見ることができます。

1 再生モードにする

- ▶ボタンを押します。
- ▶ 最後に撮影した画像が表示されます。

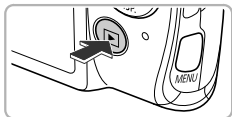
2 画像を選ぶ

- ◀を押すと最後に撮影した画像から、新しい順に表示されます。
- ▶を押すと古い画像から順に表示されます。
- ◀か▶を押したままにすると、画像を一列に表示しながら素早く探せます。(FUNC SET)を押すと1枚表示に戻ります（p.114）。
- 約1分経過するとレンズが収納されます。
- レンズが収納されているときは、もう一度▶ボタンを押すと電源が切れます。

撮影モードに切り換える

再生モードの状態でシャッターボタンを半押しすると撮影モードになります。

消す

不要な画像を1枚ずつ選んで消せます。消した画像はもとに戻すことはできません。十分に確認してから消してください。

1 再生モードにする

- ▶ボタンを押します。
- ▶ 最後に撮影した画像が表示されます。

2 消したい画像を選ぶ

- ◀か▶を押して画像を選びます。

3 消す

- (FUNC/SET)を押したあと、▲か▼を押して［🗑］を選び、もう一度(FUNC/SET)を押します。

- ［消去しますか?］が表示されたら、◀か▶を押して［消去］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 表示していた画像が消えます。
- 中止するときは、◀か▶を押して［キャンセル］を選び、(FUNC/SET)を押します。

動画を撮る

カメラが被写体や撮影状況を判別するため、シーンに最適な撮影ができます。音声はステレオで記録されます。
なお、長時間の撮影を繰り返し行うと、カメラの温度が高くなることがあります。これは故障ではありません。

撮影できる時間

1 AUTOモードにして撮りたいものの大きさを決める

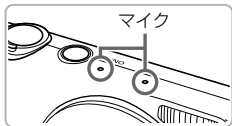
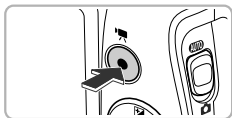
- p.26の手順1～3の操作で撮りたいものの大きさを決めます。
- 撮影できる時間は、画面で確認できます。

2 撮影する

- 動画ボタンを押します。
- 画面上下に黒い帯が表示されます。この部分は撮影できません。

撮影時間

▶ 電子音が「ピッ」と1回鳴って撮影がはじまり、［●録画］と撮影時間が表示されます。

- 撮影がはじまったら、動画ボタンから指を離します。
- 撮影中に構図を変えると、ピント位置、明るさ、色あいが自動的に調整されます。
- 撮影中はマイクをふさがないでください。
- 動画ボタン以外を操作すると、操作音も録音されます。

3 撮影を終える

- 動画ボタンをもう一度押します。
- ▶ 電子音が「ピピッ」と2回鳴り、撮影が終わります。
- ▶ カード容量がいっぱいになると、自動的に撮影が終わります。

撮影中に撮りたいものの大きさを変える

撮影中にズームレバーを操作すると、撮りたいものの大きさを変えることができます。ただし、操作音は録音されます。

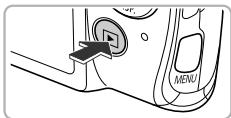
- モードスイッチが AUTO のときは、カメラが判別したシーンを示すアイコンが表示されます（p.184）。ただし、「動いているときのアイコン」は表示されません。また、シーンによっては、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。
- 撮影中に構図を変えて、色あいが最適にならないときは、動画ボタンを一度押して撮影を止めてから、もう一度撮影してください（画質が［1920］のときのみ（p.108））。
- モードスイッチが ◘ の位置にあっても、動画ボタンを押すと動画を撮影できます（p.103）。

撮影できる時間

カード	4 GB	16 GB
撮影時間	約14分34秒	約59分40秒

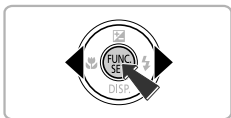
- 連続撮影時間は約10分です。
- カードによっては、連続撮影時間に満たなくても、撮影が終わることがあります。SDスピードクラス6以上のカードを使用することをおすすめします。

動画を見る

撮影した動画を画面で見ることができます。

1 再生モードにする

- ▶ボタンを押します。
- ▶ 最後に撮影した画像が表示されます。
- ▶ 動画には［SET 🎥］が表示されます。

2 再生する動画を選ぶ

- ◀か▶を押して再生する動画を選び、(FUNC. SET)を押します。

3 再生する

- ▲か▼を押して［▶］を選び、(FUNC. SET)を押します。
- ▶ 動画が再生されます。
- 音量は▲か▼を押して調節します。
- (FUNC. SET) を押すと一時停止し、動画操作パネルが表示されます。◀か▶を押して［▶］を選び、(FUNC. SET)を押すと再開します。
- ▶ 再生が終わると［SET 🎥］が表示されます。

? パソコンで動画を見るには？

付属のソフトウェアをインストールしてください（p.35）。

- パソコンで動画を再生すると、パソコンの環境によっては「フレーム（コマ）落ちする」、「滑らかに表示されない」、「音声が途切れる」ことがあります。付属のソフトウェアを使ってカードに動画を書き戻し、カメラで再生してください。なお、カメラをテレビにつなぐとより大きな画面で鑑賞できます。

パソコンに取り込んで見る

付属のソフトウェアを使って、カメラで撮影した画像をパソコンに取り込んで見ることができます。すでにキヤノン製コンパクトデジタルカメラに付属のソフトウェアをお使いのときは、付属のCDで最新のソフトウェアを上書きインストールしてください。

パソコンに必要なシステム構成

Windows

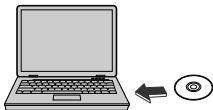
OS	Windows 7（SP1を含む） Windows Vista SP2 Windows XP SP3
機種	上記OSがプリインストールされていて、USBポートが標準装備されていること
CPU	静止画Pentium 1.3 GHz以上、動画Core2 Duo 2.6 GHz以上
RAM	Windows 7（64bit）：2 GB以上 Windows 7（32bit）、Windows Vista（64bit、32bit）： 静止画1 GB以上、動画2 GB以上 Windows XP：静止画512 MB以上、動画2 GB以上
インターフェース	USB
ハードディスク空き容量	420 MB以上*
ディスプレイ	1,024 x 768ドット以上

* Windows XPでは、Microsoft .NET Framework 3.0（最大500 MB）以上のインストールが必要です。お使いの環境によっては、インストールに時間がかかることがあります。

Macintosh

OS	Mac OS X v10.5 ― v10.6
機種	上記OSがプリインストールされていて、USBポートが標準装備されていること
CPU	静止画Intelプロセッサー、動画Core2 Duo 2.6 GHz以上
RAM	Mac OS X v10.6：静止画1 GB以上、動画2 GB以上 Mac OS X v10.5：静止画512 MB以上、動画2 GB以上
インターフェース	USB
ハードディスク空き容量	480 MB以上
ディスプレイ	1,024 x 768ドット以上

ソフトウェアをインストールする

ここでは、Windows VistaとMac OS X v10.5を使って説明をしています。

1 CDをパソコンのドライブに入れる

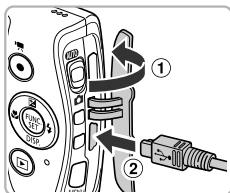
- 付属のCD（DIGITAL CAMERA Solution Disk）（p.2）をパソコンのドライブに入れます。
- Macintosh では、CD を入れるとデスクトップ上に表示されるCDアイコンをダブルクリックして開き、表示される［ ］をダブルクリックします。

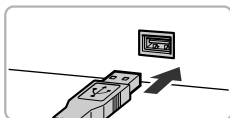
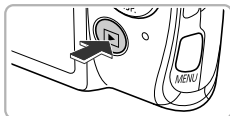
2 インストールする

- Windows では［おまかせインストール］をクリックし、Macintoshでは［インストール］をクリックして、表示される画面にしたがって操作を進めます。
- Windowsではユーザーアカウント制御の画面が表示されたら、メッセージにしたがって進めます。

3 インストールを終える

- Windowsでは［再起動］、または［完了］をクリックして、デスクトップ画面が表示されたらCDを取り出します。
- Macintosh ではインストールを終えると表示される画面の［完了］をクリックして、デスクトップ画面が表示されたらCDを取り出します。

画像を取り込む／見る

1 カメラとパソコンをつなぐ

- カメラの電源を切ります。
- ふたを開き（①）、付属のインターフェースケーブル（p.2）の小さい方のプラグを図の向きにして、カメラの端子にしっかりと差し込みます（②）。

- インターフェースケーブルの大きい方のプラグをパソコンのUSB端子に差し込みます。パソコンのUSB端子については、パソコンの使用説明書を参照してください。

2 電源を入れてCameraWindow（カメラウィンドウ）を表示する

- ▶ボタンを押して電源を入れます。

- Windowsでは、表示される画面の［画像をキヤノンカメラからダウンロードします］をクリックして、カメラとパソコンが通信できる状態になると、CameraWindowが表示されます。
- Macintoshでは、カメラとパソコンが通信できる状態になると、CameraWindowが表示されます。

CameraWindow

3 画像を取り込む

- ［カメラ内の画像の取り込み］をクリックしたあと、［未転送画像を取り込む］をクリックします。
- ▶ 画像がパソコンに取り込まれて、「ピクチャ」フォルダ内に撮影日ごとのフォルダに分けられて保存されます。

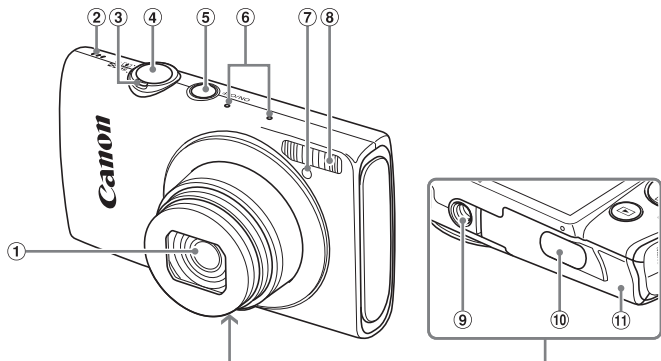
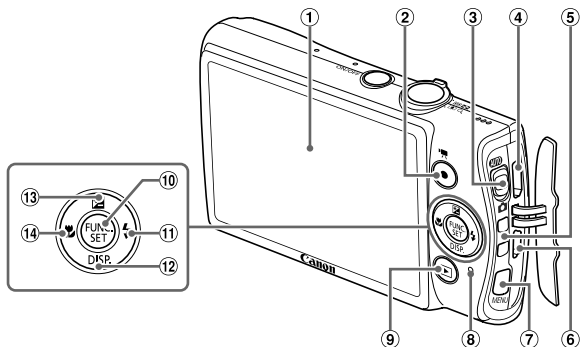
● 取り込みが完了したら CameraWindow を閉じ、カメラの▶ボタンを押して電源を切ってからケーブルを抜きます。
● パソコンで画像を見る操作は、「ソフトウェアガイド」（p.2）を参照してください。

- Windowsで手順2の操作をしても画面が表示されないときは、［スタート］メニュー▶［すべてのプログラム］▶［Canon Utilities］▶［CameraWindow］▶［CameraWindow］を選びます。
- Macintoshで手順2の操作をしてもCameraWindowが表示されないときは、Dock（デスクトップ下部に表示されるバー）の［CameraWindow］アイコンをクリックします。
- Windows 7をお使いのときは、次の手順でCameraWindowを表示します。
  ① タスクバーの［ ］をクリックします。
  ② 表示された画面で、［ ］のプログラムを変更するためのリンクをクリックします。
  ③［画像をキヤノンカメラからダウンロードします］を選び、［OK］をクリックします。
  ④［ ］をダブルクリックします。
- 付属のソフトウェアの画像取り込み機能を使わなくても、カメラとパソコンをつなぐだけで画像を取り込むことができますが、次のような制限事項があります。
  - カメラとパソコンをつないでから操作できるようになるまで、数分かかることがあります。
  - 縦位置で撮影した画像が横位置になって取り込まれることがあります。
  - 保護した画像が、パソコン側で解除されることがあります。
  - OSのバージョンや使用するソフトウェア、ファイルサイズによっては、画像や画像に付属する情報が正しく取り込まれないことがあります。
  - 動画編集や書き戻しなど、付属のソフトウェアの機能が一部使えなくなることがあります。

2

もっとカメラを知ってみよう

この章ではカメラの各部のなまえや画面の表示内容のほか、各種の基本的な操作方法について説明しています。

各部のなまえ

① レンズ
② スピーカー
③ ズームレバー
撮影時：[♠]（望遠）／[♠♠♠]（広角）（p.26、32、53）
再生時：Q（拡大）／▦（インデックス）（p.114、120）
④ シャッターボタン（p.25）
⑤ 電源ボタン（p.20）
⑥ マイク（p.31）
⑦ ランプ（前面）（p.55、73、74、75、165、165）
⑧ ストロボ（p.52、83、100）
⑨ 三脚ねじ穴
⑩ DCカプラー端子カバー（p.174）
⑪ カード／バッテリー収納部ふた（p.17）

① 画面（液晶モニター）（p.42、183、186）
② 動画ボタン（p.31、103）
③ モードスイッチ
④ HDMI TM端子（p.171）
⑤ ストラップ取り付け部（p.13）
⑥ A / V OUT（映像／音声出力）・DIGITAL（デジタル）端子（p.36、142、170）
⑦ MENU（メニュー）ボタン（p.45）
⑧ ランプ（背面）（p.43）
⑨ ▶（再生）ボタン（p.29、113）
⑩ FUNC./SET（ファンクション／セット）ボタン（p.44）
⑪ ⚡（ストロボ）（p.52、83、100）／▶ボタン
⑫ DISP.（ディスプレイ）（p.42）／▼ボタン
⑬ ±（露出補正）（p.83）／▲ボタン
⑭ 🌷（マクロ）（p.90）／◀ボタン

モードスイッチ

撮影モードの切り換えは、モードスイッチで行います。

AUTO ― カメラまかせの全自動撮影（p.26）ができます。

📷 ― 撮影シーンに最適な撮影（p.62）や各種機能を設定してさまざまな撮影ができます（p.81）。

画面の表示

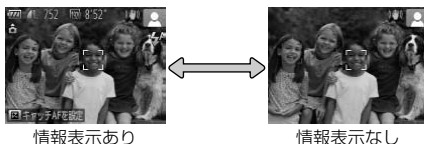
表示の切り換え

画面表示は、▼を押して切り換えます。画面に表示される情報の詳細については、p.183を参照してください。

撮影時

情報表示あり　　情報表示なし

再生時

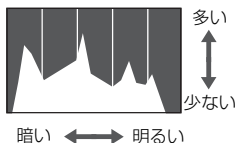
情報表示なし　　簡易情報表示　　詳細情報表示　　ピント位置確認表示（p.119）

撮影直後の画面表示も、▼を押して切り換えられます。ただし、簡易情報表示にはなりません。最初に表示される画面は、MENUボタンを押して［📷］タブの［レビュー情報］で変えられます（p.166）。

撮影時の暗い場所での画面表示

暗い場所では、自動的に画面が明るくなって構図確認しやすくなります（ナイトビュー機能）。ただし、撮影される画像の明るさとは異なるほか、粗い感じ、またはややぎこちない表示になることがあります（記録される画像に影響はありません）。

再生時の高輝度（ハイライト）警告

「詳細情報表示」（p.42）にすると、画像上の白トビした部分が点滅表示されます。

再生時のヒストグラム

- 「詳細情報表示」（p.186）のグラフは、画像中の明るさの分布を示したヒストグラムというグラフです。横軸は明るさ、縦軸は明るさごとの量を示していて、露出の傾向を確認できます。

ランプの表示

カメラ背面のランプ（p.41）は、カメラの状態に連動して、点灯／点滅状態が変わります。

色	状態	操作状態
緑	点灯	パソコン接続時（p.36）、ディスプレイオフ時
	点滅	起動中、カードへの記録／読み出し中、各種通信中、長秒時露光中（p.77）

ランプ（背面）が緑色に点滅しているときは、「電源を切る」、「カード／バッテリー収納部のふたを開ける」、「振動や衝撃を与える」ことは絶対にしないでください。画像、カメラ、カードが壊れることがあります。

FUNC.メニューの基本操作

よく使う機能は、FUNC.メニューで設定できます。
なお、表示されるメニュー項目や項目は、選んでいる撮影モード（p.190～191）や再生モード（p.196）によって変わります。

1 FUNC.メニューを表示する

- (FUNC/SET)を押します。

項目

メニュー項目

2 メニュー項目を選ぶ

- ▲か▼を押してメニュー項目を選び、(FUNC/SET)か▶を押します。
- メニュー項目によっては画面が切り換わり、設定する項目もあります。

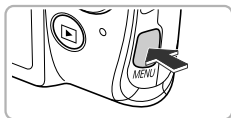
3 項目を選ぶ

- ▲か▼を押して項目を選びます。
- MENUが表示される項目では、MENUボタンを押して設定することができます。
- メニュー項目に戻るときは、◀を押します。

4 設定を終える

- (FUNC/SET)を押します。
- ▶ 撮影画面に戻り、設定した項目が画面に表示されます。

メニューの基本操作

カメラの各種機能をメニューで設定できます。メニュー項目はタブで撮影［■］や再生［▶］などの系統に分けられています。なお、表示される項目は、選んでいる撮影モードや再生モード(p.192〜195)によって変わります。

1 メニューを表示する

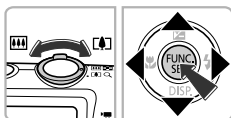
● MENUボタンを押します。

2 タブを選ぶ

● ズームレバーを動かすか◀か▶を押して、タブを選びます。

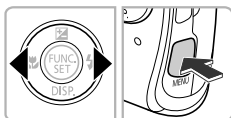
3 項目を選ぶ

● ▲か▼を押して項目を選びます。

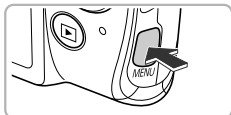
● 項目を選んだあと、(FUNC/SET)か▶を押すと画面が切り換わり、設定する項目もあります。

4 内容を選ぶ

● ◀か▶を押して内容を選びます。

5 設定を終える

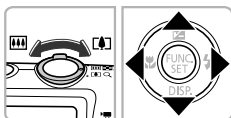
● MENUボタンを押すと通常の画面に戻ります。

音の設定を変える

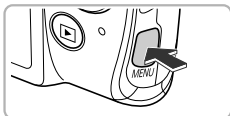
各ボタンを押したときや撮影のときに鳴る音を、鳴らないようにしたり、音量を変えたりできます。

音を鳴らさない

1 メニューを表示する

- MENUボタンを押します。

2 ［消音］を選ぶ

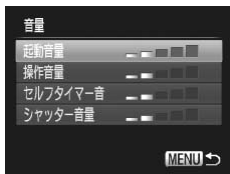
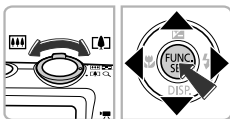
- ズームレバーを動かして、［YT］タブを選びます。
- ▲か▼を押して［消音］を選び、◀か▶を押して［する］を選びます。
- MENUボタンを押すと、通常の画面に戻ります。

- ▼を押したまま電源を入れても、音を鳴らさないようにできます。
- 音を鳴らさないようにしたときは、動画を再生したとき（p.33）の音声も鳴らなくなります。動画再生中に▲を押すと音声が鳴り、▲か▼を押すと音量を調整できます。

音量を変える

1 メニューを表示する

● MENUボタンを押します。

2 ［音量］を選ぶ

● ズームレバーを動かして、［ƳƬ］タブを選びます。

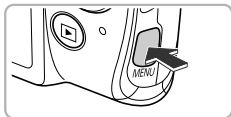
● ▲か▼を押して［音量］を選び、(FUNC/SET)を押します。

3 音量を変える

● ▲か▼を押して項目を選び、◀か▶を押して音量を変えます。

● MENUボタンを2回押すと、通常の画面に戻ります。

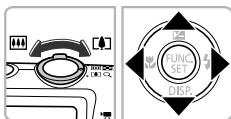
画面の明るさを変える

画面の明るさを、2種類の方法で変えられます。

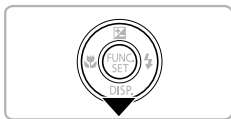
メニューで変える

1 メニューを表示する

- MENUボタンを押します。

2 [液晶の明るさ] を選ぶ

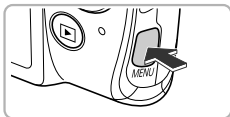
- ズームレバーを動かして、[ff] タブを選びます。
- ▲か▼を押して [液晶の明るさ] を選びます。

3 明るさを変える

- ◀か▶を押して明るさを変えます。
- MENUボタンを2回押すと、通常の画面に戻ります。

▼を押して変える

- ▼を1秒以上押したままにします。
- ▶ 画面が最高の明るさになります（[ff] タブの [液晶の明るさ] 設定は無効になります）。
- もう一度▼を1秒以上押したままにすると、もとの明るさに戻ります。

- 次回電源を入れたときは、[ff] タブで設定されている明るさになります。
- [ff] タブの [液晶の明るさ] を最高の明るさに設定しているときは、▼を押しても明るさは変わりません。

カメラの設定を初期状態に戻す

カメラの設定を誤って変えてしまったときは、初期状態に戻せます。

1 メニューを表示する

● MENUボタンを押します。

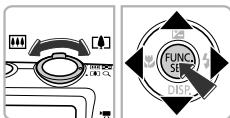
2 ［カメラ設定初期化］を選ぶ

● ズームレバーを動かして、［ƳT］タブを選びます。

● ▲か▼を押して［カメラ設定初期化］を選び、(FUNC/SET)を押します。

初期設定

初期設定に戻しますか?

キャンセル　OK

3 初期状態に戻す

● ◀か▶を押して［OK］を選び、(FUNC/SET)を押します。

▶ カメラが初期状態に戻ります。

? 初期状態に戻らない機能は？

- ［ƳT］タブの［日付/時刻］（p.21）、［言語］（p.22）、［起動画面］に登録した画像（p.160）、［エリア設定］（p.164）、［ビデオ出力方式］（p.170）
- マニュアルホワイトバランスで記憶した白データ（p.84）
- ワンポイントカラー（p.69）、スイッチカラー（p.70）で指定した色
- モードスイッチを📷にして設定した撮影モード（p.61）

節電機能（オートパワーオフ）

バッテリーの消耗を防ぐため、カメラを操作しない状態で一定の時間がたつと、自動的に画面を消したり、電源を切ったりする機能です。

撮影モードでの節電機能

約1分間カメラを操作しないと画面が消え、さらに約2分たつとレンズが収納されて電源が切れます。画面が消えた状態でもレンズが出ているときは、シャッターボタンを半押し（p.25）すると画面が表示され、撮影できます。

再生モードでの節電機能

約5分間カメラを操作しないと、電源が切れます。

- 節電機能を切ることができます（p.163）。
- 画面が消えるまでの時間を変えられます（p.163）。

時計機能

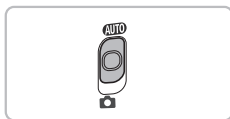
現在の時刻を確認できます。

- (FUNC/SET)を押したままにします。
- ▶ 現在の時刻が表示されます。
- 時刻表示中にカメラを縦にすると縦表示になります。◀か▶を押すと表示色を変えることができます。
- もう一度(FUNC/SET)を押すと時刻表示が消えます。

(FUNC/SET)を押したまま電源を入れることで、時刻表示にすることもできます。

3

よく使う機能で撮ってみよう

この章では、ストロボを光らせないようにしたり、セルフタイマーなど、よく使う機能について説明しています。

- AUTOモードになっていることを前提に説明しています。AUTOモード以外で使うときは、それぞれの機能がどのモードで使えるか確認してください（p.188～193）。

ストロボを光らせない

ストロボを光らせないで撮影することができます。

1 ▶を押す

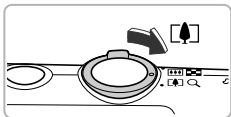
2 [⊛] を選ぶ

- ◀か▶を押して [⊛] を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 設定されると [⊛] が表示されます。
- 戻すときは、上記の操作で [⚡A] を選びます。

? [ブレ警告] が点滅表示したときは？

手ブレしやすい暗い場所では、シャッターボタンを半押ししたときに、画面に [ブレ警告] が点滅表示されます。カメラが動かないように三脚などで固定してください。

被写体をもっと拡大する（デジタルズーム）

光学ズームで被写体が大きく撮れないときは、デジタルズームを使って最大約32倍まで拡大できます。

1 ズームレバーを[🌲]側に押す

- ズームできるところまでレバーを押したままにします。
- ▶ 画像が粗くならない最大の倍率になるとズームが止まり、レバーから指を離すとズーム倍率が表示されます。

倍率

2 もう一度[🌲]側に押す

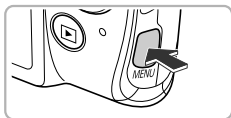
- ▶ デジタルズームで被写体がさらに拡大されます。

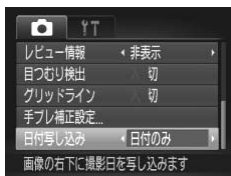
デジタルズームを切る

デジタルズームを使わないようにするには、MENUボタンを押して、［📷］タブの［デジタルズーム］を選び、［切］を選びます。

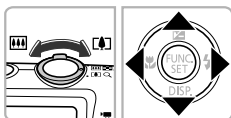
- 光学ズームとデジタルズームをあわせた焦点距離は以下のとおりです（35mmフィルム換算）。
  28 – 896 mm（光学ズーム時は28 – 224 mm）
- 設定した記録画素数（p.59）とデジタルズームの倍率によっては、ズーム倍率が青色で表示されて画像が粗くなります。

日時を入れる

画像の右下に撮影日時を記録できます。ただし、記録された撮影日時は画像から消せません。あらかじめ日付／時刻が正しく設定されていることを確認してください（p.20）。

1 メニューを表示する

● MENUボタンを押します。

2 ［日付写し込み］を選ぶ

● ズームレバーを動かして、［●］タブを選びます。

● ▲か▼を押して［日付写し込み］を選びます。

3 設定する

● ◀か▶を押して［日付のみ］か［日付+時刻］を選びます。

● MENUボタンを押して撮影画面に戻ります。

▶ 設定されると［日付］が表示されます。

4 撮影する

▶ 撮影した画像の右下に、撮影日または撮影日時が記録されます。

● 戻すときは、手順3の操作で［切］を選びます。

撮影日を入れずに撮った画像でも、次の方法で撮影日を入れて印刷できます。ただし、撮影日を入れて撮った画像に、撮影日を入れる指定をすると、重複して印刷されることがあります。

- **印刷指定（DPOF）機能を使って印刷する（p.149）**
- **付属のソフトウェアを使って印刷する**
  「ソフトウェアガイド」（p.2）を参照してください。
- **プリンターの機能を使って印刷する（p.142）**

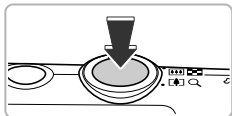
セルフタイマーを使う

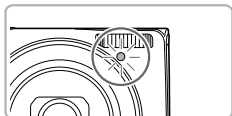
集合写真などで撮影する人も一緒に写るときは、シャッターボタンを押してから約10秒後に撮影されるセルフタイマーを使って撮影します。

1 ［ ］を選ぶ

- (FUNC/SET)を押したあと、▲か▼を押して［ ］を選び、もう一度(FUNC/SET)を押します。

2 ［ ］を選ぶ

- ▲か▼を押して［ ］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 設定されると［ ］が表示されます。

3 撮影する

- シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。
- ▶ タイマーがはじまるとランプ（前面）が点滅して、電子音が鳴ります。
- ▶ 撮影の2秒前になると、ランプ（前面）の点滅（ストロボ発光時は点灯）と電子音が速くなります。
- タイマーがはじまったあとに撮影を中止するときは、MENUボタンを押します。
- 戻すときは、手順 2 の操作で［ ］を選びます。

セルフタイマーを使って手ブレを防ぐ

シャッターボタンを押してから約2秒後に撮影するため、シャッターボタンを押すときのカメラのブレを防ぐことができます。

[Ċ2] を選ぶ

- p.55の手順1～2の操作で［Ċ2］を選びます。
- ▶ 設定されると［Ċ2］が表示されます。
- p.55の手順3の操作で撮影します。

セルフタイマーの時間と撮影枚数を変える

撮影されるまでのタイマー時間（0 – 30秒）と、撮影枚数（1 – 10枚）を設定できます。

1 [ĊC] を選ぶ

- p.55の手順1～2の操作で［ĊC］を選び、MENUボタンを押します。

2 設定する

- ▲か▼を押して［時間］または［枚数］を選びます。
- ◀か▶を押して数値を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 設定されると［ĊC］が表示されます。
- p.55の手順3の操作で撮影します。

- 撮影枚数を2枚以上にしたときは、露出や色あいは1枚目の撮影で固定されます。また、ストロボが光るときや撮影枚数が多いときは撮影間隔が長くなったり、カード容量がいっぱいになると自動的に撮影が終わります。
- タイマー時間を2秒以上にしたときは、撮影の2秒前にランプの点滅（ストロボ発光時は点灯）と電子音が速くなります。

縦横比（アスペクト比）を変える

画像の縦横の比率を変えられます。

1 ［4:3］を選ぶ

- (FUNC/SET)を押したあと、▲か▼を押して［4:3］を選び、もう一度(FUNC/SET)を押します。

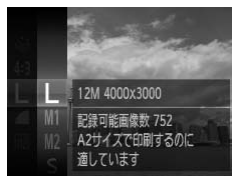
2 項目を選ぶ

- ▲か▼を押して項目を選び、(FUNC/SET)を押します
- ▶ 設定されると画面の縦横比が変わります。
- 戻すときは、手順 2 の操作で［4:3］を選びます。

16:9	HD（ハイビジョン）対応テレビなどと同じ縦横比です。HD対応テレビなどのワイド画面へ表示するときに適しています。
3:2	35mmフィルムと同じ縦横比です。2L判、はがきなどでの印刷に適しています。
4:3	このカメラの画面と同じ縦横比です。 L判やA判などでの印刷に適しています。
1:1	正方形です。

［4:3］以外では、［デジタルズーム］が［切］に固定されるため、デジタルズーム（p.53）は使えません。

記録画素数（画像の大きさ）を変える

画像の記録画素数を4種類から選べます。

1 記録画素数を選ぶ

- (FUNC/SET)を押したあと、▲か▼を押して［ L ］を選び、もう一度(FUNC/SET)を押します。

2 項目を選ぶ

- ▲か▼を押して項目を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 設定した項目が表示されます。
- 戻すときは、手順1〜2の操作で［ L ］を選びます。

圧縮率（画質）を変える

圧縮率を2種類から選べます。高画質から順に［ファイン］（ファイン）、［ノーマル］（ノーマル）となります。

1 圧縮率を選ぶ

- (FUNC/SET)を押したあと、▲か▼を押して［ファイン］を選び、もう一度(FUNC/SET)を押します。

2 項目を選ぶ

- ▲か▼を押して項目を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 設定した項目が表示されます。
- 戻すときは、手順1〜2の操作で［ファイン］を選びます。

記録画素数と圧縮率を選ぶときの目安（縦横比4:3のとき）

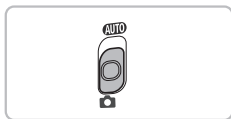
記録画素数（ピクセル）	圧縮率	1画像の容量（約・KB）	1枚のカードに撮影できる枚数（約・枚）	
			4 GB	16 GB
L（ラージ）12M/4000x3000		3084	1231	5042
		1474	2514	10295
M1（ミドル1）6M/2816x2112		1620	2320	9503
		780	4641	19007
M2（ミドル2）2M/1600x1200		558	6352	26010
		278	12069	49420
S（スモール）0.3M/640x480		150	20116	82367
		84	30174	123550

- 表内の数値は当社測定条件によるもので、被写体やカードの銘柄、カメラ設定などにより変わります。
- 表内の数値は画像の縦横比が4:3のときの値です。縦横比を変えると（p.58）、4:3のときよりも1画像の容量が小さくなるため、撮影できる枚数は多くなります。ただし、［M2］では16:9にすると1画像の記録画素数が1920 x 1080になるため、4:3より容量が大きくなります。

用紙の大きさで選ぶときの目安（縦横比4:3のとき）

- ［S］は、電子メールで画像を送るときなどに適しています。

いろいろなシーンや、いろいろな効果をつけて撮ってみよう

この章では、いろいろなシーン別での撮影方法や、いろいろな効果をつける方法について説明しています。

いろいろなシーンで撮る

撮影シーンにあったモードを選ぶと、最適な撮影ができるようにカメラが自動的に設定を行います。

1 モードにする

- モードスイッチをにします。

2 撮影モードを選ぶ

- (FUNC/SET)を押したあと、▲か▼を押して［P］を選び、もう一度(FUNC/SET)を押します。
- ▲か▼を押して撮影モードを選び、(FUNC/SET)を押します。

3 撮影する

人を撮る（ポートレート）

- 人をやわらかい感じで撮影できます。

子供やペットを撮る（キッズ&ペット）

- 子供やペットなど動きまわる被写体でも、シャッターチャンスを逃さずに撮影できます。
- 被写体からは、もっとも広角側にしたときで約1 m以上、もっとも望遠側にしたときで約3 m以上離れて撮影してください。

三脚を使わずに夜景を撮る（手持ち夜景）

- 連続撮影した画像を合成することにより、手ブレやノイズを軽減して夜景をきれいに撮影できます。
- 三脚を使って撮影するときは、AUTOモードで撮影することをおすすめします（p.26）。

暗い場所で撮る（ローライト）

- 暗い場所でも手ブレや被写体ブレをおさえて撮影できます。

砂浜で撮る（ビーチ）

- 太陽の光の反射が強い砂浜で、人を明るく撮影できます。

木々や葉を色鮮やかに撮る（新緑/紅葉）

- 新緑や紅葉、桜など自然の木々や葉を、色鮮やかに撮影できます。

雪景色で撮る（スノー）

- 雪景色を背景に、人を明るく自然な色あいで撮影できます。

▒ 花火を撮る（打上げ花火）

- 打上げ花火を色鮮やかに撮影できます。

- ［▒］モードでは連続撮影するため、撮影中はカメラをしっかり構え続けてください。
- ［▒］モードでは手ブレを防ぐため、三脚などでカメラが動かないように固定してください。また、三脚などでカメラを固定するときは、［手ブレ補正］を［切］にして撮影することをおすすめします（p.167）。

- ［▒］［▒］モードでは、撮影シーンによってはISO感度（p.85）が高くなるため、画像が粗くなることがあります。
- ［▒］モードでは、ブレが大きすぎるなど、シーンによっては合成できなかったり、思いどおりの効果が得られないことがあります。
- ［▒］モードでは、記録画素数は［ M ］（1984 x 1488画素）に固定されます。

効果をつけて撮る

いろいろな効果をつけて撮影することができます。

1 撮影モードを選ぶ

- p.62 の手順 1 ～ 2 の操作で撮影モードを選びます。

2 撮影する

［ ］［ ］［ ］［ ］［ ］モードでは、シーンによっては思いどおりの効果が得られないことがあるので、事前に試し撮りをすることをおすすめします。

鮮烈な色で撮る（極彩色）

- 色の濃さを強調して、高彩度の鮮烈な色で撮影できます。

イラスト風の効果をつけて撮る（オールドポスター）

- 古いポスターのようなイラスト風の効果をつけて撮影できます。

魚眼レンズのような効果をつけて撮る（魚眼風）

魚眼レンズで撮ったようなデフォルメ効果をつけて撮影します。

1 ［ ］を選ぶ

- p.62の手順1～2の操作で［ ］を選びます。

2 効果を選ぶ

- ▼ボタンを押すと、［効果のレベル］が表示されます。
- ◀か▶を押して効果のレベルを選び、(FUNC. SET)を押します。
- ▶ 設定した効果で画面が表示されます。

3 撮影する

ミニチュア模型のように撮る（ジオラマ風）

指定した範囲の上下をぼかして撮ることで、ミニチュア模型のような効果をつけて撮影します。

1 ［ ］を選ぶ

- p.62の手順1～2の操作で［ ］を選びます。
- ▶ 画面に白い枠（ぼかさない範囲）が表示されます。

2 ピントが合う範囲と位置を指定する

- ▼を押します。
- ズームレバーを動かして枠の大きさを変えたり、▲か▼を押して枠の位置を変え、(FUNC. SET)を押します。

3 撮影する

- 手順2の画面で◀か▶を押すと枠が縦になり、◀か▶を押して位置を変えられます。▲か▼を押すと枠が横に戻ります。
- カメラを縦位置で構えると、枠の向きが変わります。
- ［▶▶］（倍速）は、ジオラマ風の動画を撮影するときに設定します（p.105）。

トイカメラのような効果をつけて撮る（トイカメラ風）

画像の四隅を暗くぼかして、全体の色調を変えることで、トイカメラで撮影したような効果をつけて撮影できます。

1 ［◙］を選ぶ

- p.62の手順1～2の操作で［◙］を選びます。

2 色調を選ぶ

- ▼を押します。
- ▶［色調］が表示されます。
- ◀か▶を押して色調を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶設定した色調で画面が表示されます。

3 撮影する

標準	トイカメラ風の画像になります。
暖色	［標準］より暖色系のトイカメラ風画像になります。
寒色	［標準］より寒色系のトイカメラ風画像になります。

単色で撮る（モノクロ）

画像を白黒、セピア調、青白にして撮影できます。

1 ［◪］を選ぶ

- p.62の手順1～2の操作で［◪］を選びます。

2 色調を選ぶ

- ▼を押します。
- ▶［色調］が表示されます。
- ◀か▶を押して色調を選び、(FUNC SET)を押します。
- ▶設定した色調で画面が表示されます。

3 撮影する

白黒	白黒で撮影できます。
セピア	セピア調で撮影できます。
青	青白で撮影できます。

ワンポイントカラーで撮る

画面内の指定した1色のみを残し、それ以外を白黒にして撮影できます。

1 [ワンポイントカラー] を選ぶ

- p.62の手順1～2の操作で [ワンポイントカラー] を選びます。

2 ▼を押す

- ▶ 色を変える前の画像とワンポイントカラーの画像が交互に表示されます。
- ▶ 初期状態では、残る色が緑色に設定されています。

3 残す色を指定する

- 残したい色が中央の枠いっぱいに入るようにして、◀を押します。
- ▶ 指定した色が取り込まれます。

取り込まれた色

4 残す色の範囲を指定する

- ▲か▼を押して、残したい色の範囲を変えます。
- 指定した色だけを残すときは－の値を大きくします。指定した色に近い色も残すときは+の値を大きくします。
- (FUNC. SET)を押すと撮影画面に戻ります。

- ストロボを使うと、思いどおりの画像にならないことがあります。
- 撮影シーンによっては、画像が粗くなったり、思いどおりの色にならないことがあります。

スイッチカラーで撮る

画面内の指定した1色を別の色に変えて撮影できます。別の色の取り込みは1色のみです。

1 [ﾉS] を選ぶ

● p.62の手順1～2の操作で [ﾉS] を選びます。

2 ▼を押す

▶ 色を変える前の画像とスイッチカラーの画像が交互に表示されます。

▶ 初期状態では、緑色を灰色に変えるよう設定されています。

3 変える前の色を指定する

● 中央の枠いっぱいに入るようにして ◀ を押します。

▶ 指定した色が取り込まれます。

4 変えたあとの色を指定する

● 中央の枠いっぱいに入るようにして ▶ を押します。

▶ 指定した色が取り込まれます。

5 変えたあとの色の範囲を指定する

- ▲か▼を押して、変えたい色の範囲を変えます。
- 指定した色だけを変えるときは－の値を大きくします。指定した色に近い色も変えるときは+の値を大きくします。
- (FUNC. SET)を押すと撮影画面に戻ります。

- ストロボを使うと、思いどおりの画像にならないことがあります。
- 撮影シーンによっては、画像が粗くなったり、思いどおりの色にならないことがあります。

短編動画を自動で作る（ムービーダイジェスト）

静止画を撮影しているだけで、1日をまとめた短編動画ができます。
静止画を撮影するたびに、その直前のシーンが動画として自動で記録されます。同じ日に記録された動画は、1つのファイルとして保存されます。

1 ［ ］を選ぶ

- p.62の手順1～2の操作で［ ］を選びます。

2 撮影する

- シャッターボタンを押して、静止画を撮影します。
- ▶ 撮影直前の約2～4秒間の動画も自動的に記録されます。

動画が記録されない

電源を入れたり［ ］モードを選ぶなど、カメラを操作した直後に静止画を撮影したときは、動画が記録されないことがあります。

ムービーダイジェストモードで作成された動画を見る

［ ］モードで作成された動画を、日付で選んで見ることができます（p.115）。

- 静止画と一緒に動画が撮影されるため、AUTO モードよりバッテリーの消耗が早くなります。
- ［ ］モードで作成された動画の画質は、［640］に固定されます。
- 次のときは、同じ日に［ ］モードで作成された動画でも、別ファイルとして保存されます。
  - 動画の容量が約4 GBになるか、記録時間が約1時間になったとき
  - 動画を保護したとき（p.124）
  - エリア設定を変えたとき（p.164）
  - フォルダが新しく作成されたとき（p.162）
- 動画には、カメラを操作したときの操作音が録音されます。
- シャッターボタンを半押ししたときの音、［操作音］、［セルフタイマー音］（p.158）などの電子音は鳴りません。

顔を見つけて撮る（オートシャッター）

笑顔を見つけて撮る（スマイル）

シャッターボタンを押さなくても、カメラが笑顔を検出するたびに、自動で撮影します。

1 ［😊］を選ぶ

- p.62の手順1～2の操作で［📷］を選んだあと、▼を押します。
- ◀か▶を押して［😊］を選び、(FUNC SET)を押します。
- ▶ 撮影準備に入り、［笑顔を検出中です］が表示されます。

2 カメラを人に向ける

- カメラが笑顔を検出するたびに、ランプ（前面）が光ったあと撮影されます。
- ◀を押すと笑顔の検出を中断できます。もう一度◀を押すと笑顔の検出を再開します。

? 笑顔が検出されない

カメラの方を向いて、歯が見えるように口を開けて笑うと検出されやすくなります。

撮影枚数を変える

手順1で［😊］を選んだあと、▲か▼を押します。

- 笑顔を検出するたびに撮影し続けるので、撮影が終わったら、他の撮影モードに変えることをおすすめします。
- シャッターボタンを押して撮影することもできます。

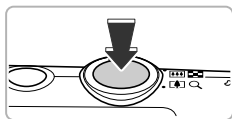
ウインクしたら撮る（ウインクセルフタイマー）

カメラを人に向けてシャッターボタンを押したあと、カメラがウインクを検出すると、約2秒後に撮影されます。

1 ［ ］を選ぶ

- p.62の手順1～2の操作で［ ］を選んだあと、▼を押します。
- ◀か▶を押して［ ］を選び、 を押します。

2 構図を決めてシャッターボタンを半押しする

- ウインクする人の顔に緑色の枠が表示されていることを確認します。

3 シャッターボタンを全押しする

▶ 撮影準備に入り、［ウインクすると撮影します］が表示されます。

▶ ランプ（前面）が点滅し、電子音が鳴ります。

4 カメラに向かってウインクする

▶ 枠が表示された人のウインクが検出されると、約2秒後に撮影されます。

- タイマーがはじまったあとに撮影を中止するときは、MENUボタンを押します。

ウインクが検出されない？

- 少し長めに、しっかりとウインクしてください。
- 帽子や髪で目が隠れていたり、眼鏡をかけていたりすると、ウインクが検出されないことがあります。

撮影枚数を変える

手順1で［］を選んだあと、▲か▼を押します。

- 両目をつむってもウインクとして検出されます。
- ウインクが検出されないときは、約15秒後に撮影されます。
- 人がいない構図でシャッターボタンを全押ししたときは、あとから構図に入った人のウインクで撮影がはじまります。

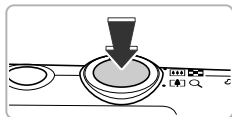
人が増えたら撮る（顔セルフタイマー）

シャッターボタンを押した人が構図に入って顔が検出（p.92）されると、約2秒後に撮影されます。集合写真などで撮影する人も一緒に写りたいときにおすすめです。

1 ［ ］を選ぶ

- p.62の手順1～2の操作で［ ］を選んだあと、▼を押します。
- ◀か▶を押して［ ］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 構図を決めてシャッターボタンを半押しする

- ピントが合った顔には緑色、それ以外の顔には白の枠が表示されていることを確認します。

3 シャッターボタンを全押しする

- ▶ 撮影準備に入り［顔が増えたら撮影します］が表示されます。
- ▶ ランプ（前面）が点滅し、電子音が鳴ります。

4 一緒に写る人が構図に入り顔をカメラに向ける

▶ 新しい顔が検出されると、ランプの点滅（ストロボ発光時は点灯）と電子音が速くなり、約2秒後に撮影されます。

● タイマーがはじまったあとに撮影を中止するときは、**MENU**ボタンを押します。

撮影枚数を変える

手順1で［ ］を選んだあと、▲か▼を押します。

一緒に写る人が構図に入っても顔を検出できないときは、約15秒後に撮影されます。

長秒時露光で撮る（長秒時撮影）

シャッタースピードを1～15秒の範囲に設定して、長秒時露光撮影ができます。なお、手ブレを防ぐため、三脚などでカメラを固定して撮影します。

1 ［★☽］を選ぶ

- p.62の手順1～2の操作で［★☽］を選びます。

2 シャッタースピードを選ぶ

- ▲を押します。
- ◀か▶を押してシャッタースピードを選び、(FUNC SET)を押します。

3 露出を確認する

- シャッターボタンを半押しすると、選んだシャッタースピードの露出で画面が表示されます。

4 撮影する

- 手順3でシャッターボタンを半押ししたときの画面の明るさは、撮影される画像と異なることがあります。
- シャッタースピードが1.3秒以上のときは、撮影後にノイズ低減処理を行うため、次の撮影までにしばらく時間がかかります。
- 三脚などでカメラを固定するときは、［手ブレ補正］を［切］にして撮影することをおすすめします（p.167）。

ストロボが発光すると、白トビした画像になることがあります。そのときは、ストロボを［⚡］にして撮影します。

高速で連続して撮る（ハイスピード連写）

シャッターボタンを全押ししている間、1秒間に最高約8.7枚の連続撮影ができます。

1 [ ] を選ぶ

- p.62の手順1～2の操作で [ ] を選びます。

2 撮影する

▶ シャッターボタンを全押ししている間、連続撮影されます。

- 記録画素数は［ M ］（1984 x 1488画素）に固定されます。
- ピント、明るさ、色あいは、1枚目の撮影で固定されます。
- 撮影シーンやカメラの設定、ズーム位置によっては、一定の間隔で撮影されなかったり、連続撮影の速度が遅くなることがあります。
- 撮影枚数が多くなると、連続撮影の速度が遅くなることがあります。

再生したときの表示について

1回に連続撮影された複数の画像が1つのグループにまとめられ（グループ化）、連続撮影の最初に撮影された画像のみが表示されます。また、この画像にはグループ化されていることを示す［SET ］が画面左上に表示されます。

グループ化された画像を消す（p.128）と、グループ内のすべての画像が消されますので十分注意してください。

- グループ化された画像を1枚ずつ見たり（p.121）、グループ化を解除できます（p.122）。
- グループ化された画像を保護（p.124）すると、グループ内のすべての画像が保護されます。
- 絞り込み再生（p.115）や連想再生（p.123）で、グループ化された画像を表示すると、グループ化が一時的に解除されて1枚ずつの表示になります。
- グループ化された画像は、お気に入り設定（p.130）、編集（p.135～140）、カテゴリー分け（p.132）、印刷（p.142）、印刷指定（p.151）、フォトブック指定（p.154）はできません。グループ化された画像を1枚表示（p.121）にするか、グループ化を解除（p.122）してから行ってください。

よい表情を逃さずに撮る（ベストセレクト連写）

連続撮影した5枚の画像の中から、顔の表情などを検出して、カメラが最適と判断した1枚だけを保存します。

1 ［ ］を選ぶ

- p.62の手順1～2の操作で［ ］を選びます。

2 撮影する

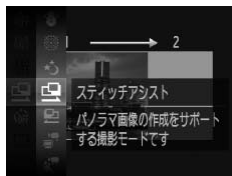
▶ シャッターボタンを全押しすると、5枚連続で撮影され、カメラが選んだ1枚の画像だけが保存されます。

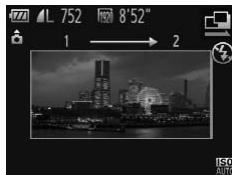
- 記録画素数は［ M ］（1984 x 1488画素）に固定されます。
- ピント、明るさ、色あいは、1枚目の撮影で固定されます。
- 撮影シーンによっては、思いどおりの画像が保存されないことがあります。

スティッチアシストで撮る

大きな被写体を分割して撮影し、パソコンで付属のソフトウェアを使って合成処理をすると、パノラマ画像が作れます。

1 [ ] か [ ] を選ぶ

● p.62 の手順 1 〜 2 の操作で [ ] または [ ] を選びます。

2 1枚目の画像を撮影する

▶ 1枚目の撮影で、露出や色あいが固定されます。

3 2枚目以降を撮影する

● 1 枚目の画像に重ねるようにして、2 枚目の画像を撮影します。

● 重ねかたが多少ズレても、合成時に自動補正されます。

● 2 枚目の撮影と同様の操作で最大 26 枚まで撮影できます。

4 撮影を終える

● (FUNC SET) を押します。

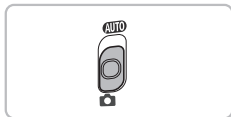
5 パソコンで合成する

● 画像の合成方法については、「ソフトウェアガイド」（p.2）を参照してください。

テレビに表示しながらの撮影はできません（p.171）。

5

目的の設定にして撮ってみよう

この章では、Pモードのいろいろな機能を使って、一歩進んだ撮影方法について説明します。

- モードスイッチが📷で、Pモードになっていることを前提に説明しています。
- Pは、Program AE（プログラムエーイー）の略です。
- この章で説明する機能をPモード以外で使うときは、それぞれの機能がどのモードで使えるか確認してください（p.188〜193）。

プログラムAEで撮る

いろいろな機能を自分好みに設定して撮影できます。
AEは、Auto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。
なお、撮影距離は、ズームレバーを[広角]側に押してもっとも広角側にしたときで約5 cm以上、[望遠]側に押してもっとも望遠側にしたときで約1 m以上になります。

1 Pモードにする

- p.62の手順1～2の操作で［P］を選びます。

2 目的に応じて各機能を設定する（p.83～102）

3 撮影する

シャッタースピードと絞り数値がオレンジ色で表示されたときは？

シャッターボタンを半押ししたときに適正露出が得られないと、シャッタースピードと絞り数値がオレンジ色で表示されます。次の設定で、適正露出が得られることがあります。

- ストロボを発光させる（p.83）
- ISO感度を高くする（p.85）

明るさを変える（露出補正）

カメラが決めた標準的な露出を、1/3段ずつ、±2段の範囲で補正できます。

1 露出補正を選ぶ

- ▲を押します。

2 明るさを補正する

- 画面の表示を見ながら、◀か▶を押して明るさを補正し、(FUNC./SET)を押します。
- ▶ 設定した補正量が表示されます。

ストロボを発光させる

ストロボを常に発光させて撮影できます。ストロボ撮影できる範囲は、ズームレバーを[広角]側に押してもっとも広角側にしたときで約50 cm – 4.0 m、[望遠]側に押してもっとも望遠側にしたときで約50 cm – 2.0 mです。

[⚡] を選ぶ

- ▶を押したあと、◀か▶を押して［⚡］を選び、(FUNC./SET)を押します。
- ▶ 設定されると［⚡］が表示されます。

色あいを調整する（ホワイトバランス）

ホワイトバランス（WB）は、撮影シーンにあわせて自然な色あいにする機能です。

1 ホワイトバランスを選ぶ

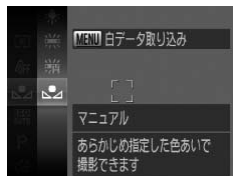
- (FUNC/SET)を押したあと、▲か▼を押して［AWB］を選び、もう一度(FUNC/SET)を押します。

2 項目を選ぶ

- ▲か▼を押して項目を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 設定した項目が表示されます。

AWB	オート	撮影シーンに応じて自動設定
☀	太陽光	晴天の屋外
☁	くもり	曇り空や日陰、薄暮
電球	電球	電球、電球色タイプ（3波長型）の蛍光灯
蛍光灯	蛍光灯	昼白色蛍光灯、白色蛍光灯、昼白色タイプ（3波長型）の蛍光灯
蛍光灯H	蛍光灯H	昼光色蛍光灯、昼光色タイプ（3波長型）の蛍光灯
マニュアル	マニュアル	マニュアルホワイトバランス（手動設定）

マニュアルホワイトバランス

撮影場所の光源にあわせてホワイトバランスを変えて、撮影時の光源に適した色あいで撮影できます。撮影場所の光源のもとで設定してください。

- 上記の手順2の操作で［マニュアル］を選びます。
- 画面いっぱいに白い無地の被写体が入るようにして、MENUボタンを押します。
- ▶ 白データが取り込まれて設定されると、画面の色あいが変わります。

白データを取り込んだあとにカメラの設定を変えると、適切な色あいにならないことがあります。

ISO感度を変える

1 ISO感度を選ぶ

- (FUNC. SET)を押したあと、▲か▼を押して［ISO AUTO］を選び、もう一度(FUNC. SET)を押します。

2 項目を選ぶ

- ▲か▼を押して項目を選び、(FUNC. SET)を押します。
- ▶ 設定した項目が表示されます。

ISO AUTO	撮影モードと撮影シーンに応じて自動設定	
ISO 100 ISO 200	低い	晴天の屋外
ISO 400 ISO 800	↕	曇り空、夕方
ISO 1600 ISO 3200	高い	夜景、暗い室内

ISO感度を変えるときの目安

- ISO感度を低くすると粗さが目立たない画像になりますが、撮影シーンによっては被写体ブレや手ブレがおきやすくなることがあります。
- ISO感度を高くするとシャッタースピードが速くなるため、被写体ブレや手ブレが軽減されたり、ストロボの光が遠くの被写体まで届くようになりますが、画像が粗くなります。

［ISO AUTO］では、シャッターボタンを半押しすると自動設定されたISO感度が画面に表示されます。

明るさを補正して撮る（i-コントラスト）

人の顔や背景など、一部が明るすぎたり暗すぎたりするときは、その部分を検出し、適切な明るさに自動補正して撮影することができます。また、画面全体で明暗差が小さいときは、くっきりした印象となるように自動補正して撮影することができます。

[i-コントラスト] を選ぶ

- MENUボタンを押して、[◘] タブの [i-コントラスト] を選び、◀か▶を押して [自動] を選びます。
- ▶ 設定されると [Ci] が表示されます。

- 撮影シーンによっては画像が粗くなったり、正しく補正されないことがあります。
- 撮影した画像を補正することもできます（p.139）。

連続して撮る

シャッターボタンを全押ししたままにすると、最高約3.5枚/秒の連続撮影ができます。

1 ドライブモードを選ぶ

- (FUNC/SET)を押したあと、▲か▼を押して［□］を選び、もう一度(FUNC/SET)を押します。

2 項目を選ぶ

- ▲か▼を押して［連続撮影］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 設定されると［連続撮影］が表示されます。

3 撮影する

- ▶ シャッターボタンを全押ししている間、連続撮影されます。

- セルフタイマー（p.55）とは一緒に使えません。
- ［ ］モード（p.63）では、連続撮影の速度が速くなります。
- 連続撮影中は、シャッターボタンを半押ししたときのピント位置と露出に固定されます。
- 撮影シーン、カメラの設定、ズーム位置によっては、一定の間隔で撮影されなかったり、連続撮影の速度が遅くなることがあります。
- 撮影枚数が多くなると、連続撮影の速度が遅くなることがあります。
- ストロボが発光するときは、連続撮影の速度が遅くなることがあります。

画像の色調を変える（マイカラー）

通常の撮影画像とは違った印象の画像にしたり、セピア調や白黒画像に変えることができます。

1 マイカラーを選ぶ

- (FUNC SET)を押したあと、▲か▼を押して［マイカラー切］を選び、もう一度(FUNC SET)を押します。

2 項目を選ぶ

- ▲か▼を押して項目を選び、(FUNC SET)を押します。
- ▶ 設定した項目が表示されます。

マイカラー切	—
くっきりカラー	コントラストと色の濃さを強調し、くっきりした印象の色調になります。
すっきりカラー	コントラストと色の濃さをおさえ、すっきりとした印象の色調になります。
セピア	セピア調になります。
白黒	白黒になります。
ポジフィルムカラー	「あざやかブルー」、「あざやかグリーン」、「あざやかレッド」の効果をあわせたもので、ポジフィルムのように自然で色鮮やかになります。
色白肌	人の肌が色白になります。
褐色肌	人の肌が褐色になります。
あざやかブルー	青色を強調します。空や海などがより鮮やかになります。
あざやかグリーン	緑色を強調します。山や草花などがより鮮やかになります。
あざやかレッド	赤色を強調します。赤い被写体がより鮮やかになります。
カスタムカラー	画像の色調を自分好みに設定できます（p.89）。

- ［Se］［BW］では、ホワイトバランス（p.84）は設定できません。
- ［L］［D］では、人の肌の色以外が変わることがあります。また、肌の色によっては、思いどおりの色にならないことがあります。

カスタムカラー

画像のコントラスト（明暗差）、シャープネス（先鋭度）、色の濃さ、赤、緑、青、肌色を、それぞれ5段階から選んで設定できます。

- p.88 の手順 2 の操作で［Ac］を選び、MENUボタンを押します。
- ▲か▼を押して項目を選び、◀か▶を押して値を設定します。
- 設定値が右側に行くほど強く／濃く／褐色（肌色）になり、左に行くほど弱く／薄く／色白（肌色）になります。
- MENUボタンを押すと設定されます。

近くの被写体を撮る（マクロ撮影）

［🌷］に設定すると、近いものだけにピントを合わせます。
ピントが合う範囲（フォーカスゾーン）は、ズームレバーを[W]側に押してもっとも広角側にしたときでレンズ先端から約1 – 50 cmです。

［🌷］を選ぶ

- ◀を押したあと、◀か▶を押して［🌷］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 設定されると［🌷］が表示されます。

ストロボが発光すると、画像の周辺部が暗くなることがあります。

うまく撮影するために

手ブレを防ぐため、三脚などでカメラを固定し、［⏱2］で撮影することをおすすめします（p.56）。

ズームバーの下にある黄色のバー表示の範囲は、［🌷］が灰色表示になりピントが合いません。

遠くの被写体を撮る（遠景撮影）

［▲］に設定すると、遠いものだけにピントを合わせます。カメラから3 m以上はなれた遠くの被写体を撮るとき、［▲］に設定するとより確実なピント合わせができます。

［▲］を選ぶ

- ◀を押したあと、◀か▶を押して［▲］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 設定されると［▲］が表示されます。

デジタルテレコンバーターを使う

レンズの焦点距離を1.5倍 / 2.0倍にできます。ズーム操作（デジタルズーム含む）で同じ倍率に拡大したときよりも、シャッタースピードが速くなるため手ブレを軽減できます。

［デジタルズーム］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［ ］タブの［デジタルズーム］を選び、◀か▶を押して内容を選びます。
- ▶ 画面が拡大表示されて、倍率が表示されます。

- 1.5倍 / 2.0倍時の焦点距離はそれぞれ42.0 – 336 mm / 56.0 – 448 mmです（35mmフィルム換算）。
- 記録画素数（p.59）が［ L ］［M1］のときは、倍率が青色で表示されて画像が粗くなります。
- デジタルズーム（p.53）とは一緒に使えません。
- デジタルテレコンバーターが使えるのは、縦横比が［4:3］のときのみです。
- ズームレバーを[ ]側に押してもっとも望遠側にしたときのシャッタースピードは、p.53の手順2の操作で被写体を同じような大きさに拡大したときのシャッタースピードと同じになることがあります。

AFフレームモードを変える

撮影シーンにあわせて、AF（自動ピント合わせ）フレームモードを変えられます。

［AFフレーム］を選ぶ

● MENUボタンを押して、［📷］タブの［AFフレーム］を選び、◀か▶を押して内容を選びます。

顔優先AiAF

- 人の顔を検出して、ピント、露出（評価測光時のみ）、色あい（［AWB］時のみ）を合わせます。
- カメラを被写体に向けると、主被写体と判断した顔に白のフレーム、他の顔には最大2つの灰色のフレームが表示されます。
- 検出した顔が動いていると判別したときは、一定の範囲で追尾します。
- シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った顔には緑色のフレーム（最大9個）が表示されます。

- 顔が検出されないときや、白のフレームが表示されず灰色のフレームのみが表示されたときは、シャッターボタンを半押しすると、ピントの合った位置に緑色のフレーム（最大9個）が表示されます。
- サーボAF（p.97）が［入］で顔が検出されないときに、シャッターボタンを半押しすると中央にフレームが表示されます。
- 顔として検出できない例
  - 被写体までの距離が遠い、または極端に近い。
  - 被写体が暗い、または明るい。
  - 顔が横や斜めを向いている、または一部が隠れている。
- 人の顔以外を、誤って検出することがあります。
- シャッターボタンを半押ししてピントが合わないときは、AF フレームは表示されません。

キャッチAF

ピントを合わせたい被写体を選んで、撮影できます（p.94）。

中央

AFフレームが中央1点になります。確実なピント合わせに有効です。

AFフレームを小さくする

- MENUボタンを押して、[■] タブの [AFフレームサイズ] で [小] を選びます。
- デジタルズーム（p.53）やデジタルテレコンバーター（p.91）使用時は、[標準] に設定されます。

シャッターボタンを半押ししてピントが合わないときは、黄色のAFフレームと［!］が表示されます。

構図を変えて撮る（フォーカスロック撮影）

シャッターボタンを半押ししている間はピントと露出が固定され、そのまま構図を変えて撮影できます。これをフォーカスロック撮影といいます。

1 ピントを合わせる

- 撮りたいものを画面の中央にして、シャッターボタンを半押しします。
- AF フレームが、被写体に緑色で表示されていることを確認します。

2 構図を変える

- シャッターボタンを半押ししたまま、カメラを動かして構図を変えます。

3 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。

ピントを合わせたい被写体を選んで撮る（キャッチAF）

ピントを合わせたい被写体を選んで、撮影できます。

1 [キャッチAF] を選ぶ

- MENUボタンを押して、[■] タブの [AFフレーム] を選び、◀か▶を押して [キャッチAF] を選びます。
- ▶ 画面中央に [ ] が表示されます。

2 ピントを合わせたい被写体を選ぶ

- 被写体に [ ] が重なるようにカメラを動かして◀を押します。

- ▶ 被写体が検出されると電子音が鳴り、[ ] 枠が表示されます（動いていても一定の範囲で追い続けます）。
- ▶ 被写体が検出できなくなったときは、[ ] が表示されます。
- 解除するときは、もう一度◀を押します。

3 撮影する

- シャッターボタンを半押しすると、[ ] が青色の [ ] に変わり、被写体を追い続けながら、ピントと露出を合わせ続けます（サーボAF）（p.97）。
- シャッターボタンを全押しして撮影します。
- ▶ 撮影後も [ ] が表示され、被写体を追い続けます。

- ◀ を押さずにシャッターボタンを半押ししても被写体を検出できます。撮影後は、画面中央に［⊹］が表示されます。
- ［サーボAF］（p.97）は［入］に固定されます。
- 被写体が小さすぎる、動きが速い、被写体と背景との明暗差や色の差が小さいときは、追尾できないことがあります。
- ［🌷］［▲］は設定できません。

ピント位置を拡大表示する

シャッターボタンを半押ししたときに、AFフレームの位置を拡大表示してピントを確認することができます。

1 ［ピント位置拡大］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［📷］タブの［ピント位置拡大］を選び、◀か▶を押して［入］を選びます。

2 ピントを確認する

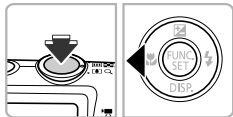
- シャッターボタンを半押しします。
- ▶ ［顔優先AiAF］（p.92）では、主被写体として検出された顔が拡大表示されます。
- ▶ ［中央］（p.93）では、中央のAFフレームが拡大表示されます。

❓ 拡大表示されない？

［顔優先AiAF］で、顔が検出できないときや、顔が画面に対して大きいとき、［中央］でピントが合わないときは拡大表示されません。

デジタルズーム（p.53）、デジタルテレコンバーター（p.91）、キャッチAF（p.94）、サーボAF（p.97）、テレビに表示しているとき（p.171）は拡大表示されません。

AFロックで撮る

ピントを固定できます。固定後はシャッターボタンから指を離しても、ピント位置は固定されたままになります。

1 ピントを合わせて固定する

- シャッターボタンを半押ししたまま、◀を押します。
- ▶ピントが固定され、[AFL] が表示されます。
- シャッターボタンから指を離してもう一度◀を押すと、[AFL] が消え解除されます。

2 構図を決めて撮影する

サーボAFで撮る

シャッターボタンを半押ししている間は被写体にピントと露出を合わせ続けるため、動いている被写体のシャッターチャンスを逃さずに撮影できます。

1 ［サーボAF］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［ ］タブの［サーボAF］を選び、◀か▶を押して［入］を選びます。

2 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押ししている間、青色でAFフレームが表示され、ピントと露出を合わせ続けます。

- 撮影シーンによっては、ピントが合わなくなることがあります。
- 暗い場所では、シャッターボタンを半押ししてもAFフレームが青色にならないときがあります。そのときは、設定しているAFフレームモードでピントと露出を合わせます。
- 適正露出が得られなくなると、シャッタースピードと絞り数値がオレンジ色で表示されます。いったんシャッターボタンから指を離して、もう一度シャッターボタンを半押ししてください。
- AFロック撮影はできません。
- メニューの［ ］タブの［ピント位置拡大］は設定できません。
- セルフタイマー（p.55）使用時は設定できません。

測光方式を変える

撮影シーンにあわせて、測光方式（明るさを測る特性）を変えられます。

1 測光方式を選ぶ

- FUNC.SETを押したあと、▲か▼を押して［評価測光］を選び、もう一度FUNC.SETを押します。

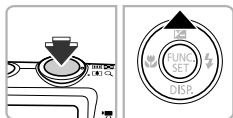
2 項目を選ぶ

- ▲か▼を押して項目を選び、FUNC.SETを押します。
- ▶ 設定した項目が表示されます。

項目	説明
評価測光	逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。撮影シーンに応じて、被写体が常に適正露出になるように自動補正します。
中央部重点平均測光	画面中央部に重点をおいて、画面全体を平均的に測光します。
スポット測光	画面中央に表示される［[ ]］（スポット測光枠）の範囲のみを測光します。

AEロックで撮る

露出を固定して撮影したり、ピントと露出を個別に設定して撮影することもできます。
AEは、Auto Exposure（オートエクスポージャー）の略です。

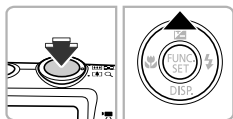
1 [(ⓟ)] を選ぶ（p.52）

2 露出を固定する

- 露出を固定したい被写体にカメラを向け、シャッターボタンを半押ししたまま、▲を押します。
- ▶ [AEL] が表示され、露出が固定されます。
- シャッターボタンから指を離してもう一度▲を押すと、[AEL] が消え解除されます。

3 構図を決めて撮影する

FEロックで撮る

ストロボ撮影時の露出を、AEロック撮影と同様に固定できます。
FEは、Flash Exposure（フラッシュエクスポージャー）の略です。

1 [⚡] を選ぶ（p.83）

2 ストロボ露出を固定する

- 露出を固定したい被写体にカメラを向け、シャッターボタンを半押ししたまま、▲を押します。
- ▶ ストロボが発光し、[FEL] が表示され、ストロボ発光量が記憶されます。
- シャッターボタンから指を離してもう一度▲を押すと、[FEL] が消え解除されます。

3 構図を決めて撮影する

スローシンクロで撮る

人などの主被写体は、ストロボが発光することで明るく撮影され、ストロボの光が届かない背景は、シャッタースピードを遅くすることで暗くなるのを軽減することができます。

1 [⚡★] を選ぶ

- ▶を押したあと、◀か▶を押して［⚡★］を選び、(FUNC SET)を押します。
- ▶ 設定されると［⚡★］が表示されます。

2 撮影する

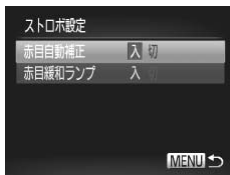
- ストロボが光っても、シャッター音が鳴り終わるまでは主被写体が動かないようにしてください。

> ⓘ 手ブレを防ぐため、三脚などでカメラが動かないように固定してください。また、三脚などでカメラを固定するときは、［手ブレ補正］を［切］にして撮影することをおすすめします（p.167）。

赤目自動補正

ストロボ撮影時に目が赤く写る現象を、自動補正して撮影できます。

1 ［ストロボ設定］を選ぶ

- MENU ボタンを押して［📷］タブの［ストロボ設定］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 設定する

- ▲か▼を押して［赤目自動補正］を選び、◀か▶を押して［入］を選びます。
- ▶ 設定されると［◎］が表示されます。

化粧などで目の周りが赤いときは、目以外を補正することがあります。

- 撮影した画像を補正することもできます（p.140）。
- ▶を押してからMENUボタンを押しても、手順2の画面を表示できます。

目をつむった人を確認する

撮影時に目をつむった可能性のある人を検出したときは、[ ] を表示してお知らせします。

1 [目つむり検出] を選ぶ

● MENUボタンを押して、[ ] タブの [目つむり検出] を選び、◀か▶を押して [入] を選びます。

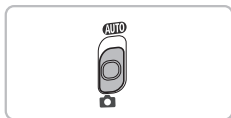
2 撮影する

▶ 目をつむった人を検出したときは、枠と [ ] が表示されます。

- [ ] [ ] で撮影枚数を2枚以上に設定したときは、最後に撮影した画像でのみ動作します。
- [ ] では設定できません。

6

動画のいろいろな機能を使ってみよう

この章では、1章の「動画を撮る」「動画を見る」の応用編として、さらにいろいろな機能を使って動画を撮る、見る方法について説明しています。

- モードスイッチが🎥になっていることを前提に説明しています。
- 章の後半で説明している動画の再生や編集は、▶ ボタンを押して、再生モードになっていることを前提に説明しています。

いろいろな動画を撮る

静止画と同じように、カメラが自動的に撮影シーンに最適な設定を行ったり、いろいろな効果をつけて動画を撮影することができます。

1 撮影モードを選ぶ

● p.62 の手順 1 ～ 2 の操作で撮影モードを選びます。

2 撮影する

● 動画ボタンを押します。

▶ 撮影モードや動画の画質（p.108）によっては、画面上下に黒帯が表示されます。この部分は撮影できません。

● 動画ボタンをもう一度押すと撮影が終わります。

	ポートレート	p.62
	ジオラマ風	p.105
	モノクロ	p.68
	極彩色	p.65
	オールドポスター	p.65
	ワンポイントカラー	p.69

	スイッチカラー	p.70
	ビーチ	p.63
	新緑/紅葉	p.63
	スノー	p.63
	打上げ花火	p.64

その他の撮影モード

［ ］［ ］モードでは、次のような動画が撮影できます。

iFrame動画	iFrame＊1に対応したソフトウェア＊2や機器での編集に適した動画が撮影できます。 記録画素数は［ 1280 ］（p.108）に固定されます。
ハイスピード動画	動きの速い被写体を撮影し、スローモーション再生することができます（p.106）。

＊1 Apple社が提唱する動画タイプです。

＊2 付属のソフトウェアを使うと、iFrame動画の編集や保存などを高速に行うことができます。

- 上記の表以外の撮影モードで動画ボタンを押しても、動画が撮影できます。
- あらかじめ設定したFUNC.メニューや撮影メニューの一部が、動画撮影時の設定にあわせて自動的に変わることがあります。
- ［ ］［ ］モードでも、動画撮影中以外にシャッターボタンを押すと静止画が撮影できます。

ミニチュア模型のような動画を撮る（ジオラマ風）

ミニチュア模型が動いているような動画が撮影できます。
画面上下の「ぼかす範囲」と「再生時の速さ」を選んで撮影すると、再生時には風景の中の人やものが早送りで動くので、ミニチュア模型のように見えます。なお、音声は録音されません。

1 ［ ］を選ぶ

- p.62の手順1～2の操作で［ ］を選びます。
- ▶画面に白い枠（ぼかさない範囲）が表示されます。

2 ピントの合う範囲と位置を指定する

- ▼を押します。
- ズームレバーを動かして枠の大きさを変えたり、▲か▼を押して枠の位置を変えます。

3 再生時の速さを選ぶ

- MENUボタンを押します。
- ◀か▶を押して倍速（速さ）を選びます。
- MENUボタンを押して撮影画面に戻ります。

4 撮影する

- 動画ボタンを押します。
- 動画ボタンをもう一度押すと撮影が終わります。

倍速と再生時間の目安（動画を1分間撮影したとき）

倍速	再生時間
5x	約12秒
10x	約6秒
20x	約3秒

- 画質は、縦横比で［4:3］を選んだときは［640］に、［16:9］を選んだときは［1280］に固定されます（p.58）。
- 手順2の画面で◀か▶を押すと枠が縦になり、◀か▶を押して位置を変えられます。▲か▼を押すと枠が横に戻ります。
- カメラを縦位置で構えると、枠の向きが変わります。
- シーンによっては思いどおりの効果が得られないことがあるので、事前に試し撮りをすることをおすすめします。

ハイスピード動画を撮る

動きの速い被写体を撮影し、スローモーション再生することができます。なお、音声は録音されません。

1 ［ ］を選ぶ

- p.62の手順1～2の操作で［ ］を選びます。

2 フレームレートを選ぶ

- (FUNC/SET)を押したあと、▲か▼を押して［240］を選び、もう一度(FUNC/SET)を押します。
- ▲か▼を押して項目を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 設定した項目が表示されます。

3 撮影する

- 動画ボタンを押します。
- ▶ 撮影時間に連動したバーが表示されます。なお、撮影できる時間は、最長約30秒です。
- 動画ボタンをもう一度押すと撮影が終わります。

フレーム数と再生時間（30秒間撮影したとき）

フレーム数	再生時間
240 240フレーム/秒	約4分
120 120フレーム/秒	約2分

ハイスピード動画で撮った動画を見る

- p.33の手順1〜3の操作で再生すると、スローモーション再生されます。
- ［ ］モードで撮影した動画は、付属のソフトウェアを使うと、再生速度を変えて見ることができます。「ソフトウェアガイド」（p.2）を参照してください。

- 記録画素数は、［240］のときは［320］（320 × 240 画素）に、［120］のときは［640］に固定されます。
- 撮影中はズームレバーを操作しても、ズームできません。
- ピント、露出、色あいは動画ボタンを押したときに固定されます。

画質を変える

3種類の画質から選べます。

1 画質を選ぶ

- (FUNC/SET)を押したあと、▲か▼を押して［1920］を選び、もう一度(FUNC/SET)を押します。

2 項目を選ぶ

- ▲か▼を押して項目を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 設定した項目が表示されます。

画質と1枚のカードに撮影できる時間

画質	記録画素数 フレーム数	内容	カード	
			4 GB	16 GB
1920	1920 x 1080画素 24フレーム/秒	Full HD（フルハイビジョン）画質で撮影できます。	約14分34秒	約59分40秒
1280	1280 x 720画素 30フレーム/秒	HD（ハイビジョン）画質で撮影できます。	約20分43秒＊1	約1時間 24分54秒＊2
640	640 x 480画素 30フレーム/秒	SD（スタンダード）画質で撮影できます。	約43分43秒	約2時間59分3秒

＊1 iFrame動画（p.104）では、約13分35秒
＊2 iFrame動画（p.104）では、約55分38秒

- 当社測定条件によるものです。
- 一度の撮影で動画の容量が 4 GB になるか、撮影時間が［1920］［1280］では約 10 分、［640］では約1時間になると、自動的に撮影が終わります。
- カードによっては、連続撮影時間に満たなくても、撮影が終わることがあります。SDスピードクラス6以上のカードを使用することをおすすめします。

［1920］［1280］では、画面上下に黒帯が表示されます。この部分は撮影できません。

ウィンドカットを使う

風が強いときに発生する雑音を低減できます。ただし、風がない場所で録音したときは、不自然な音になることがあります。

- MENUボタンを押して、[📷] タブの [ウィンドカット] を選び、◀か▶を押して [入] を選びます。

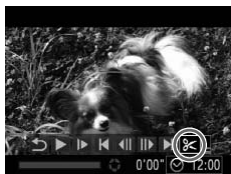
その他の撮影機能の操作方法

次の機能は、静止画と同じ操作方法で使えます。ただし、撮影モードによっては設定できなかったり、設定した内容が反映されないことがあります。

- **被写体を拡大する**
  撮影中のズーム操作音は記録されます。
- **セルフタイマーを使う（p.55）**
  撮影枚数は設定できません。
- **明るさを変える（露出補正）（p.83）**
  p.83の手順2の操作で(FUNC SET)を押す前に、動画ボタンを押します。
- **色あいを調整する（ホワイトバランス）（p.84）**
- **画像の色調を変える（マイカラー）（p.88）**
- **近くの被写体を撮る（マクロ撮影）（p.90）**
- **遠くの被写体を撮る（遠景撮影）（p.90）**
- **AFロックで撮る（p.96）**
- **AEロックで撮る（p.99）**
- **テレビを使って撮る（p.171）**
- **AF補助光（ランプ）を切る（p.165）**
- **グリッドラインを表示する（p.166）**
- **手ブレ補正の設定を変える（p.167）**
  ［入］、［切］の切り換えができます。

編集する

撮影した動画の前後を削除できます。

1 [✂] を選ぶ

- p.33の手順1〜3の操作で［✂］を選び、(FUNC SET)を押します。
- ▶ 動画編集パネルと動画編集バーが表示されます。

動画編集パネル

動画編集バー

2 編集範囲を指定する

- ▲か▼を押して［✂前］または［後✂］を選びます。
- ◀か▶を押して［▮］を動かすと、編集できるところで［✂］が表示されます。［✂前］を選ぶと［✂］位置より前部、［後✂］を選ぶと後部が削除されます。
- ［▮］を［✂］以外の位置に指定しても、［✂前］では1つ左側の［✂］位置よりも前部、［後✂］では1つ右側の［✂］位置よりも後部が削除されます。

3 編集した動画を確認する

- ▲か▼を押して［▶］を選び、(FUNC SET)を押すと、編集した動画が再生されます。
- もう一度編集するときは手順2の操作を行います。
- 編集を中止するときは、▲か▼を押して［↩］を選び(FUNC SET)を押したあと、◀か▶を押して［OK］を選び、もう一度(FUNC SET)を押します。

4 編集した動画を保存する

- ▲か▼を押して［ ］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ◀か▶を押して［新規保存］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 別動画として保存されます。

- 手順4で［上書き保存］を選んだときは、編集内容が上書きされるため、編集前の動画は残りません。
- カードの空き容量が足りないときは、［上書き保存］しか選べません。
- 動画の保存中にバッテリーがなくなると、保存できないことがあります。
- 編集するときは、フル充電されたバッテリーか AC アダプターキット（別売）（p.203）を使うことをおすすめします。

7

いろいろな再生と編集機能を使ってみよう

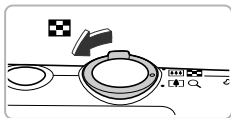
この章では、いろいろな画像の再生方法や編集方法について説明しています。

- ▶ボタンを押して、再生モードにしてから操作してください。

- パソコンで編集した画像やファイル名を変えた画像、このカメラ以外で撮影した画像は、再生や編集ができないことがあります。
- 編集機能（p.136～140）は、カードに空き容量がないと使えません。

画像を素早く探す

インデックス表示で画像を探す

複数の画像を一覧で表示して、目的の画像を素早く探せます。

1 ズームレバーを▦側に押す

▶ インデックス表示になります。

● ズームレバーを▦側に押すごとに、表示される画像の数が増えます。

● ズームレバーをQ側に押すごとに、表示される画像の数が減ります。

2 画像を選ぶ

● ▲▼◀▶を押して画像を選びます。

▶ 選ばれている画像にはオレンジ色の枠が表示されます。

● (FUNC./SET)を押すと選ばれている画像が1枚表示になります。

画像を素早く切り換えて探す

◀か▶を1秒以上押すと、画像を一列に表示しながら素早く画像を探せます。また、日付ごとにジャンプすることもできます（スクロール再生）。

画像を選ぶ

● 1枚表示にして、◀か▶を1秒以上押すと左の画面が表示されます。この状態で◀か▶を押して画像を選びます。

● (FUNC./SET)を押すと1枚表示に戻ります。

● スクロール再生中に▲か▼を押すと、日付ごとにジャンプして画像を探せます。

この効果を使わないようにするには、MENUボタンを押して［▶］タブの［スクロール再生］を選び、［切］を選びます。

ムービーダイジェストモードで作成された動画を見る

［ ］モード（p.72）で作成された動画を、日付で選んで見ることができます。

1 ［ ］を選ぶ

- を押したあと、▲か▼を押して［ ］を選び、もう一度を押します。

2 再生する動画の日付を選ぶ

- ▲か▼を押します。

3 再生する

- を押します。
- ▶ 動画が再生されます。

条件で絞り込んで画像を表示する

カード内に多くの画像があるときは、条件を指定して表示する画像を絞り込むことができます。この状態で画像をまとめて保護したり（p.124）、消したり（p.128）することができます。

1 ［ ］を選ぶ

- を押したあと、▲か▼を押して［ ］を選び、もう一度を押します。

2 条件を選ぶ

- ▲か▼を押して条件を選び、を押します。

3 絞り込み再生で見る

- ▲か▼を押して表示する対象を選び、(FUNC/SET)を押します（[★] のときを除く）。
- ▶ 絞り込み再生になり、黄色の枠が表示されます。
- ◀か▶を押すと選んだ対象の画像のみが表示されます。
- 手順 2 で ［ ］ を選ぶと絞り込み再生が解除されます。

絞り込み条件

★	お気に入り	お気に入り設定した画像（p.130）を表示
	日付	指定した撮影日の画像を表示
	マイカテゴリー	指定したカテゴリーの画像（p.132）を表示
	静止画/動画	静止画、動画、［ ］モードで作成された動画のいずれかを表示

対象が選べない？

目的の条件と一致する画像がないときは、条件を選べません。

絞り込み再生について

絞り込み再生の状態（手順3）で、「画像を素早く探す」（p.114）、「スライドショーで見る」（p.117）、「拡大して見る」（p.120）などで、絞り込んだ画像を見ることができます。また、「保護する」（p.124）、「まとめて消す」（p.128）、「印刷指定（DPOF）」（p.149）、「フォトブック指定」（p.154）で「すべての絞り込み対象画像」を指定すると、絞り込んだ画像をまとめて操作することができます。
ただし、カテゴリーを変えたり（p.132）、画像を編集して新規保存（p.136）などを行うとメッセージが表示され、絞り込み再生が解除されます。

スライドショーで見る

カードに記録されている画像を自動的に再生します。画像1枚あたりの表示時間は約3秒です。

1 [⎘] を選ぶ

- (FUNC/SET)を押したあと、▲か▼を押して [⎘] を選び、もう一度(FUNC/SET)を押します。

2 効果を選ぶ

- ▲か▼を押して効果を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ [画像読み込み中] が数秒間表示されたあと、スライドショーがはじまります。
- 絞り込み再生中（p.115）は、絞り込み対象の画像のみが再生されます。
- もう一度(FUNC/SET)を押すと一時停止／再開ができます。
- MENUボタンを押すと終わります。

- 再生中に◀か▶を押すと画像を切り換えられ、◀か▶を押したままにすると早送りできます。
- スライドショー中に節電機能（p.50）は働きません。

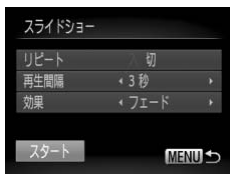
設定を変える

スライドショーの繰り返しや再生画像1枚あたりの表示時間、切り換わるときの効果を変えられます。画像を切り換えたときの効果（再生効果）は6種類から選べます。

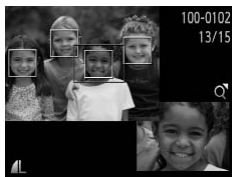
1 [スライドショー] を選ぶ

- MENUボタンを押して、[▶] タブの [スライドショー] を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 設定する

- ▲か▼を押して項目を選び、◀か▶を押して設定します。
- [スタート] を選んで(FUNC/SET)を押すと、指定した設定でスライドショーがはじまります。
- MENUボタンを押すとメニュー画面に戻ります。

[効果] で [バブル] を選んだときは、[再生間隔] は変えられません。

ピント位置を確認する（フォーカスチェッカー）

撮影時にピント合わせをしたAFフレームの位置を、拡大表示することができます。

1 ▼を押して、ピント位置確認表示にする（p.42）

▶ ピント合わせを行ったAFフレームの位置に、白のフレームが表示されます。

▶ 再生時に検出された顔の位置には、灰色のフレームが表示されます。

▶ オレンジ色のフレームの箇所が拡大表示されます。

2 拡大表示する箇所を変える

● ズームレバーをQ側に一度押します。

▶ 左の画面が表示されます。

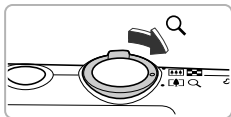
● 複数のフレームが表示されているときは、(FUNC SET)を押すと別のフレームに移動します。

3 拡大率や表示位置を変える

● ズームレバーを操作して表示倍率を変えたり、▲▼◀▶を押して表示位置を変えながら確認します。

● MENUボタンを押すと手順1に戻ります。

動画ではピント位置の確認はできません。

拡大して見る

表示位置の目安

ズームレバーを🔍側に押す

- 拡大表示になり、押し続けると最大約 10 倍まで拡大できます。
- ▲▼◀▶を押すと、表示位置が移動します。
- ズームレバーを▪側に押すと縮小表示になり、押し続けると1枚表示に戻ります。
- ［SET ⧉］が表示されている状態で(FUNC/SET)を押すと［SET ⧉］表示に切り換わり、◀か▶を押すと拡大したまま画像を切り換えられます。もう一度(FUNC/SET)を押すともとに戻ります。

- 拡大表示のときにMENUボタンを押すと、1枚表示に戻すことができます。
- 動画では拡大表示できません。

グループ化された画像を1枚ずつ見る

［ ］モード（p.78）で撮影された画像はグループ化されて表示されますが、グループ内の画像を1枚ずつ見ることもできます。

1 グループ化された画像を選ぶ

- ◀か▶を押して［SET ］が表示された画像を選びます。

2 ［ ］を選ぶ

- (FUNC. SET)を押したあと、▲か▼を押して［ ］を選び、もう一度(FUNC. SET)を押します。

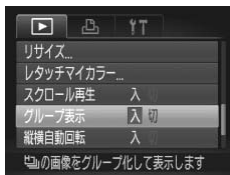
3 グループ内の画像を1枚ずつ見る

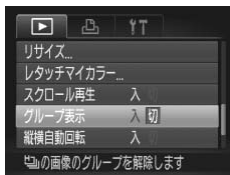
- ◀か▶を押すとグループ内の画像のみが表示されます。
- (FUNC. SET)を押したあと、▲か▼を押して［ ］を選び、もう一度(FUNC. SET)を押すとグループ再生が解除されます。

グループ再生について

グループ再生の状態（手順3）で(FUNC. SET)を押すと表示されるメニューの機能を使ったり、「画像を素早く探す」（p.114）、「拡大して見る」（p.120）こともできます。また、「保護する」（p.124）、「まとめて消す」（p.128）、「印刷指定（DPOF）」（p.149）、「フォトブック指定」（p.154）で「グループ内の全画像」を指定すると、グループ内のすべての画像をまとめて操作することができます。

グループ化を解除する

［⊡］モードで撮影された画像のグループ化を解除して、1枚ずつの画像として表示することができます。

1 ［グループ表示］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［グループ表示］を選びます。

2 設定する

- ◀か▶を押して［切］を選びます。
- MENUボタンを押すと設定され、1枚表示に戻ります。
- ▶［⊡］モードで撮影したすべての画像のグループ化が解除されて、1枚ずつの画像として表示されます。
- 元に戻すときは、上記の操作で［入］を選びます。

グループ化された画像を1枚ずつ見ているとき（p.121）は、グループ化を解除できません。

いろいろな画像を表示する（連想再生）

表示している画像をもとに、4つの画像をカメラが選んで表示します。その中から1つ選ぶとさらに4つの画像が表示されるので、思いがけない順番の再生が楽しめます。いろいろなシーンの画像をたくさん撮ったあとなどにおすすめです。

1 ［ ］を選ぶ

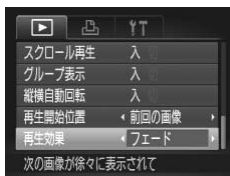
- FUNC./SETを押したあと、▲か▼を押して［ ］を選び、もう一度FUNC./SETを押します。
- ▶ 4枚の画像が候補として表示されます。

2 画像を選ぶ

- ▲▼◀▶を押して次に見たい画像を選びます。
- ▶ 選んだ画像が画面中央に表示され、次の4枚の候補が表示されます。
- FUNC./SET を押すと画面中央の画像が画面いっぱいに表示されます。もう一度FUNC./SETを押すともとの表示に戻ります。
- MENU ボタンを押すと 1 枚表示に戻ります。

- このカメラで撮影した静止画だけが連想再生の対象になります。
- 次のときは［ ］を使えません。
  - このカメラで撮影した静止画が50枚に満たないとき
  - 対象の画像以外を表示しているとき
  - 表示する画像を絞り込んでいるとき

画像を切り換えたときの効果を変える

1枚表示で画像を切り換えたときの見えかた（効果）を、3種類から選べます。

［再生効果］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［再生効果］を選び、◀か▶を押して効果を選びます。

保護する

大切な画像をカメラの消去機能（p.30、128）で誤って消さないよう、保護することができます。

保護する

- FUNC./SETを押したあと、▲か▼を押して［O┳］を選び、もう一度FUNC./SETを押します。
- ▶［保護しました］が表示されます。
- 解除するときは、上記の操作でもう一度［O┳］を選び、FUNC./SETを押します。

カードを初期化（p.23、159）すると、保護された画像も消えます。

保護された画像は、カメラの消去機能では消えません。画像を消すときは、保護を解除してください。

メニューから操作する

1 ［保護］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［保護］を選び、(FUNC./SET)を押します。

2 指定方法を選ぶ

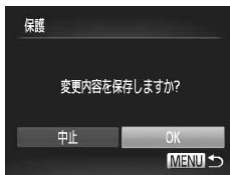
- ▲か▼を押して指定方法を選び、(FUNC./SET)を押します。
- MENUボタンを押すとメニュー画面に戻ります。

1枚ずつ指定する

1 ［画像指定］を選ぶ

- 上記の手順2の操作で［画像指定］を選び、(FUNC./SET)を押します。

2 画像を選び指定する

- ◀か▶を押して画像を選び、(FUNC./SET)を押します。
- ▶［⊶］が表示されます。
- もう一度(FUNC./SET)を押すと［⊶］が消え、解除されます。
- 別の画像も指定するときは、上記の操作を繰り返します。

3 保護する

● MENUボタンを押すと確認画面が表示されます。

● ◀か▶を押して［OK］を選び、(FUNC/SET)を押します。

> 手順3の操作をする前に、撮影モードに切り換えたり電源を切ったときは、保護されません。

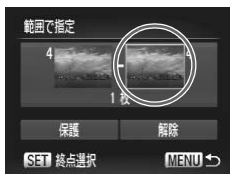
範囲で指定する

1 ［範囲で指定］を選ぶ

● p.125の手順2の操作で［範囲で指定］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 始点の画像を指定する

● (FUNC/SET)を押します。

● ◀か▶を押して画像を選び、(FUNC/SET)を押します。

3 終点の画像を指定する

- ▶を押して［終点選択］にし、(FUNC/SET)を押します。

- ◀か▶を押して画像を選び、(FUNC/SET)を押します。
- 始点より前の画像は選べません。

4 保護する

- ▼を押して［保護］を選び、(FUNC/SET)を押します。

すべての画像を指定する

1 ［全画像］を選ぶ

- p.125の手順2の操作で［全画像］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 保護する

- ▲か▼を押して［保護］を選び、(FUNC/SET)を押します。

「範囲で指定する」の手順4、「すべての画像を指定する」の手順2で［解除］を選ぶと、選んだ画像の保護をまとめて解除することができます。

まとめて消す

画像を選んでまとめて消すことができます。消した画像は復元できないので、十分に確認してから消してください。保護された画像（p.124）は消えません。

指定方法を選ぶ

1 ［消去］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［消去］を選び、FUNC./SETを押します。

2 指定方法を選ぶ

- ▲か▼を押して指定方法を選び、FUNC./SETを押します。
- MENUボタンを押すとメニュー画面に戻ります。

1枚ずつ指定する

1 ［画像指定］を選ぶ

- 上記の手順2の操作で［画像指定］を選び、FUNC./SETを押します。

2 画像を選ぶ

- p.125 の手順 2 の操作で画像を選ぶと、［✓］が表示されます。
- もう一度FUNC./SETを押すと［✓］が消え、解除されます。
- 別の画像も指定するときは、上記の操作を繰り返します。

3 消す

- MENUボタンを押すと確認画面が表示されます。
- ◀か▶を押して［OK］を選び、(FUNC SET)を押します。

範囲で指定する

1 ［範囲で指定］を選ぶ

- p.128の手順2の操作で［範囲で指定］を選び、(FUNC SET)を押します。

2 画像を指定する

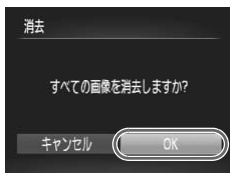
- p.126の手順2～3の操作で指定します。

3 消す

- ▼を押して［消去］を選び、(FUNC SET)を押します。

すべての画像を指定する

1 ［全画像］を選ぶ

- p.128の手順2の操作で［全画像］を選び、(FUNC SET)を押します。

2 消す

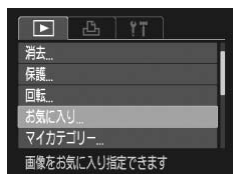
- ◀か▶を押して［OK］を選び、(FUNC SET)を押します。

お気に入り設定をする

お気に入りを設定すると、設定した画像だけをかんたんに分類できます。設定した画像だけを絞り込んで見る、保護する、消すの操作ができます（p.115）。

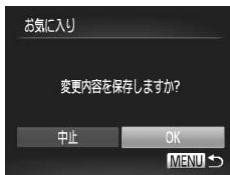
設定する

- FUNC.SETを押したあと、▲か▼を押して［★］を選び、もう一度FUNC.SETを押します。
- ▶［お気に入り指定しました］が表示されます。
- 解除するときは、上記の操作でもう一度［★］を選び、FUNC.SETを押します。

メニューから操作する

1 ［お気に入り］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［お気に入り］を選び、FUNC.SETを押します。

2 画像を選ぶ

- ◀か▶を押して画像を選び、FUNC.SETを押します。
- ▶［★］が表示されます。
- もう一度FUNC.SETを押すと［★］が消え、解除されます。
- 別の画像も選ぶときは、上記の操作を繰り返します。

3 設定する

- MENUボタンを押すと確認画面が表示されます。
- ◀か▶を押して［OK］を選び、(FUNC./SET)を押します。

手順3の操作をする前に、撮影モードに切り換えたり電源を切ったときは、お気に入りが設定されません。

Windows 7またはWindows Vistaをお使いのときは、お気に入り設定した画像をパソコンに取り込むと、評価が3（★★★☆☆）に設定されます（動画を除く）。

画像を分類する（マイカテゴリー）

画像を種類別に分類できます。また、種類別に絞り込んで表示した状態（p.115）で次の機能を使うと、分類した画像をまとめて操作することができます。

- スライドショーで見る（p.117）、保護する（p.124）、まとめて消す（p.128）、印刷指定（DPOF）（p.149）、フォトブック指定（p.154）

撮影時には、シーンに応じて自動で分類されます。
：顔が検出された画像、または［ ］［ ］モードで撮影した画像
：AUTOモード時に［ ］［ ］［ ］と判別された画像、または［ ］［ ］モードで撮影した画像
：［ ］［ ］［ ］モードで撮影した画像

1 ［ ］を選ぶ

- FUNC.SETを押したあと、▲か▼を押して［ ］を選び、もう一度FUNC.SETを押します。

2 カテゴリーを選ぶ

- ▲か▼を押してカテゴリーを選び、FUNC.SETを押します。
- ▶［✓］が表示されます。
- もう一度FUNC.SETを押すと［✓］が消え、解除されます。

3 設定する

- MENUボタンを押すと確認画面が表示されます。
- ◀か▶を押して［OK］を選び、FUNC.SETを押します。

手順3の操作をする前に、撮影モードに切り換えたり電源を切ったときは、マイカテゴリーが設定されません。

メニューから操作する

1 ［マイカテゴリー］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［マイカテゴリー］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 指定方法を選ぶ

- ▲か▼を押して指定方法を選び、(FUNC/SET)を押します。
- MENUボタンを押すとメニュー画面に戻ります。

1枚ずつ指定する

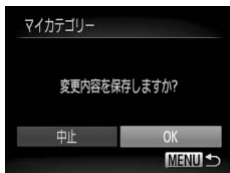
1 ［画像指定］を選ぶ

- 上記の手順2の操作で［画像指定］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 画像を選ぶ

- ◀か▶を押して画像を選びます。

3 カテゴリーを選ぶ

- ▲か▼を押してカテゴリーを選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶［✓］が表示されます。
- もう一度(FUNC/SET)を押すと［✓］が消え、解除されます。
- 別の画像も選ぶときは、上記の操作を繰り返します。

4 設定する

- MENUボタンを押すと確認画面が表示されます。
- ◀か▶を押して［OK］を選び、(FUNC/SET)を押します。

手順4の操作をする前に、撮影モードに切り換えたり電源を切ったときは、マイカテゴリーが設定されません。

範囲で指定する

1 ［範囲で指定］を選ぶ

- p.133の手順2の操作で［範囲で指定］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 画像を指定する

- p.126の手順2～3の操作で指定します。

3 カテゴリーを選ぶ

- ▼を押して種類の項目を選び、◀か▶を押してカテゴリーを選びます。

4 設定する

- ▼を押して［設定］を選び、(FUNC/SET)を押します。

手順4で［解除］を選ぶと、［範囲で指定］した画像のカテゴリーを、まとめて解除することができます。

回転する

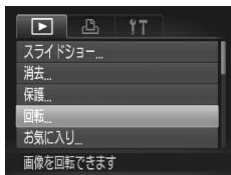
画像の向きを変えて保存することができます。

1 [回転] を選ぶ

- (FUNC/SET) を押したあと、▲か▼を押して [回転] を選び、もう一度(FUNC/SET)を押します。

2 回転する

- ◀か▶を押すと指定した方向に90度単位で回転します。
- (FUNC/SET)を押すと設定されます。

メニューから操作する

1 [回転] を選ぶ

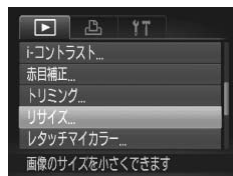
- MENUボタンを押して、[▶] タブの [回転] を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 回転する

- ◀か▶を押して画像を選びます。
- (FUNC/SET)を押すたびに90度単位で回転します。
- MENUボタンを押すとメニュー画面に戻ります。

- 画質が [1920] [1280] の動画は回転できません。
- [縦横自動回転] が [切] のときは回転できません(p.168)。

画像を小さくする（リサイズ）

撮影した画像を小さな記録画素数にして、別画像として保存できます。

1 ［リサイズ］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［リサイズ］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 画像を選ぶ

- ◀か▶を押して画像を選び、(FUNC/SET)を押します。

3 大きさを選ぶ

- ◀か▶を押して大きさを選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶［新規保存しますか?］が表示されます。

4 新規保存する

- ◀か▶を押して［OK］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶別画像として保存されます。

5 画像を確認する

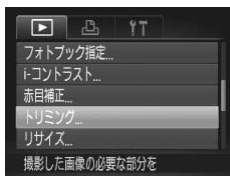
- MENUボタンを押すと［保存した画像を表示します］が表示されます。
- ◀か▶を押して［はい］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶保存した画像が表示されます。

- 撮影した画像の記録画素数よりも大きくはできません。
- 手順3で［XS］にした画像は、編集できません。
- 動画は編集できません。

画像を切り抜く（トリミング）

撮影した画像の必要な部分を切り抜き、別画像として保存できます。

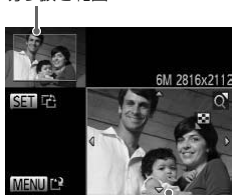
切り抜き範囲

切り抜き範囲の表示

切り抜き後の記録画素数

1 ［トリミング］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［トリミング］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 画像を選ぶ

- ◀か▶を押して画像を選び、(FUNC/SET)を押します。

3 切り抜く範囲を調整する

▶ 画像を切り抜く範囲が枠で表示されます。

▶ 左上にもと画像、右下に切り抜き後の画像が表示されます。

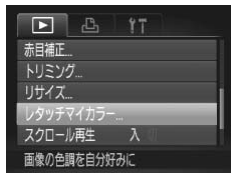
- ズームレバーを動かすと枠の大きさが変えられます。
- ▲▼◀▶を押すと枠の位置が移動できます。
- (FUNC/SET)を押すと枠の縦横が変えられます。
- MENUボタンを押します。

4 新規保存して画像を確認する

- p.136の手順4～5の操作を行います。

- 記録画素数が［ S ］の画像（p.60）や、リサイズした［ XS ］の画像（p.136）は、編集できません。
- トリミングできる画像の縦横比率は編集前と同じです。
- トリミングした画像の記録画素数は、トリミング前の画像より小さくなります。
- 動画は編集できません。

画像の色調を変える（レタッチマイカラー）

画像の色調を変え、別画像として保存できます。各項目の内容はp.88を参照してください。

1 ［レタッチマイカラー］を選ぶ

● MENUボタンを押して、［▶］タブの［レタッチマイカラー］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 画像を選ぶ

● ◀か▶を押して画像を選び、(FUNC/SET)を押します。

3 項目を選ぶ

● ◀か▶を押して項目を選び、(FUNC/SET)を押します。

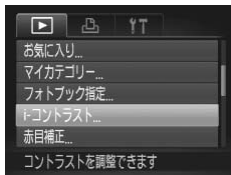
4 新規保存して画像を確認する

● p.136の手順4～5の操作を行います。

同じ画像に対して色調を繰り返し変えると、画質が徐々に低下したり、思いどおりの色にならないことがあります。

- 撮影時のマイカラー（p.88）と色調が若干異なることがあります。
- 動画の色調は変えられません。

明るさを補正する（i-コントラスト）

人の顔や背景など、一部が暗く撮影された画像は、その部分を検出し、最適な明るさに自動補正します。また、画像全体で明暗差が小さい画像は、くっきりした印象となるように自動補正します。補正方法は4種類から選べ、別画像として保存できます。

1 ［i-コントラスト］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［i-コントラスト］を選び、FUNC/SETを押します。

2 画像を選ぶ

- ◀か▶を押して画像を選び、FUNC/SETを押します。

3 項目を選ぶ

- ◀か▶を押して項目を選び、FUNC/SETを押します。

4 新規保存して画像を確認する

- p.136の手順4〜5の操作を行います。

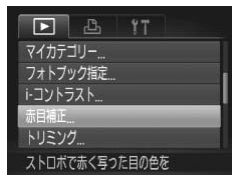
- 画像によっては、画像が粗くなったり、正しく補正されないことがあります。
- 同じ画像に対して補正を繰り返すと、画像が粗くなることがあります。

［自動］では思いどおりに補正されない？

［弱］［中］［強］のいずれかを選んで補正します。

動画の補正はできません。

赤目を補正する

目が赤く撮影されてしまった画像の赤目部分を自動的に補正して、別画像として保存できます。

1 ［赤目補正］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［赤目補正］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 画像を選ぶ

- ◀か▶を押して画像を選びます。

3 補正する

- (FUNC/SET)を押します。
- ▶ 検出された赤目部分が補正され、補正した部分に枠が表示されます。
- 「拡大して見る」（p.120）の操作で画像を拡大／縮小できます。

4 新規保存して画像を確認する

- ▲▼◀▶を押して［新規保存］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 別画像として保存されます。
- p.136の手順5の操作を行います。

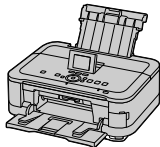
- 画像によっては、正しく補正されないことがあります。
- 手順4で［上書き保存］を選んだときは、補正内容で上書きされるため、補正前の画像は残りません。
- 保護されている画像は上書き保存できません。

動画の補正はできません。

8

印刷してみよう

この章では、撮影した画像を別売のキヤノン製PictBridge対応プリンターで印刷する方法や、印刷する画像の指定方法について説明しています。

キヤノン製PictBridge対応プリンター

- ここでは、キヤノン製コンパクトフォトプリンターSELPHY CPシリーズを使って説明しています。プリンターによっては表示される画面やできることが異なります。プリンターの使用説明書もあわせて参照してください。

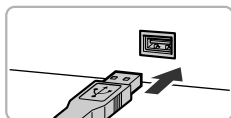
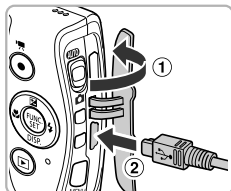
印刷する

かんたん印刷

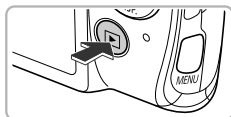
撮影した画像は、カメラとPictBridge（ピクトブリッジ）対応プリンター（別売）を付属のインターフェースケーブル（p.2）でつないで、かんたんに印刷できます。

1 カメラとプリンターの電源を切る

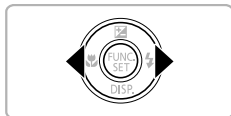
2 カメラとプリンターをつなぐ

- ふたを開き（①）、ケーブルの小さい方のプラグを図の向きにして、カメラの端子にしっかりと差し込みます（②）。
- ケーブルの大きい方のプラグをプリンターに差し込みます。プリンターとのつなぎかたについては、プリンターの使用説明書を参照してください。

3 プリンターの電源を入れる

4 カメラの電源を入れる

- ▶ボタンを押して電源を入れます。

5 画像を選ぶ

- ◀か▶を押して画像を選びます。

6 [🖶] を選ぶ

- (FUNC/SET) を押したあと、▲か▼を押して [🖶] を選び、もう一度(FUNC/SET)を押します。

7 印刷する

- ▲か▼を押して［印刷］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 印刷がはじまります。
- 別の画像を印刷するときは、印刷が終わったあと、手順5〜6の操作を繰り返します。
- 印刷が終わったらカメラとプリンターの電源を切り、ケーブルを抜きます。

- キヤノン製 PictBridge 対応プリンター（別売）については、p.204 を参照してください。
- 一部のキヤノン製 PictBridge 対応プリンター（別売）では、インデックス印刷ができないことがあります。

印刷設定をする

1 カメラとプリンターをつなぐ

- p.142～143の手順1～6の操作で左の画面を表示します。

2 項目を選ぶ

- ▲か▼を押して項目を選びます。

3 設定内容を選ぶ

- ◀か▶を押して設定内容を選びます。

(日付/画像番号)	標準設定	プリンターの設定にしたがいます。
	日付	日付を入れて印刷します。
	画像番号	画像番号を入れて印刷します。
	両方	日付と画像番号の両方を印刷します。
	切	—
(画像補正)	標準設定	プリンターの設定にしたがいます。
	切	—
	入	撮影時の情報を使って最適な設定で印刷します。
	赤目1	赤く写った目を補正します。
(枚数)	印刷枚数	印刷枚数を指定します。
トリミング	—	印刷する範囲を指定します（p.145）。
用紙設定	—	用紙サイズやレイアウトなどを指定します（p.146）。

画像を切り抜いて印刷する（トリミング）

画像の一部分を切り抜いて印刷することができます。

1 ［トリミング］を選ぶ

- p.144の手順1～2の操作で［トリミング］を選び、FUNC./SETを押します。
- ▶ 切り抜く範囲を示す枠が表示されます。

2 切り抜く範囲を指定する

- ズームレバーを動かして枠の大きさを変えます。
- ▲▼◀▶を押して枠の位置を変えます。
- FUNC./SETを押すと枠が回転します。
- MENUボタンを押したあと、▲か▼を押して［領域確定］を選び、FUNC./SETを押します。

3 印刷する

- p.143の手順7の操作で印刷します。

- 画像が小さすぎたり、縦横比によっては、トリミングできないことがあります。
- カメラで［日付写し込み］の指定をして撮影した画像をトリミングすると、日付が正しく印刷されないことがあります。

用紙サイズやレイアウトを選んで印刷する

1 [用紙設定] を選ぶ

- p.144の手順1～2の操作で[用紙設定]を選び、(FUNC SET)を押します。

2 用紙サイズを選ぶ

- ▲か▼を押して項目を選び、(FUNC SET)を押します。

3 用紙タイプを選ぶ

- ▲か▼を押して項目を選び、(FUNC SET)を押します。

4 レイアウトを選ぶ

- ▲か▼を押して項目を選び、(FUNC SET)を押します。
- [複数画像] を選んだときは、◀か▶を押して印刷枚数を選びます。

5 印刷する

レイアウトで設定できる項目

標準設定	プリンターの設定にしたがいます。
フチあり	フチをつけて印刷します。
フチなし	フチなしで印刷します。
複数画像	1枚の用紙に印刷する画像の枚数を選びます。
IDフォト	証明写真用の画像を印刷します。 記録画素数がLで、縦横比が4:3の画像にのみ指定できます。
固定サイズ	印刷する大きさを指定します。 L判、はがき、ワイドサイズでのみ指定できます。

証明写真を印刷する

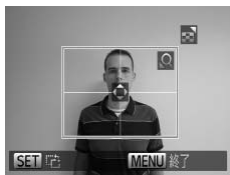
1 ［IDフォト］を選ぶ

- p.146の手順1～4の操作で［IDフォト］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 長辺と短辺の長さを選ぶ

- ▲か▼を押して項目を選びます。
- ◀か▶を押して長さを選び、(FUNC/SET)を押します。

3 印刷する範囲を選ぶ

- p.145 の手順 2 の操作で印刷する範囲を選びます。

4 印刷する

動画を印刷する

1 カメラとプリンターをつなぐ

● p.142 の手順1～6の操作で動画を選び、左の画面を表示します。

2 印刷方法を選ぶ

● ▲か▼を押して［ ］を選び、◀か▶を押して印刷方法を選びます。

3 印刷する

動画の印刷方法

1コマ	表示されているシーンを静止画として印刷します。
連続コマ	動画から一定の間隔で抜き出したシーンを、1枚の用紙に並べて印刷します。［キャプション］を［入］にすると、フォルダ番号、画像番号、コマの経過時間を同時に印刷できます。

- 印刷中に を押すと、印刷を中止します。
- CP720／CP730以前のキヤノンPictBridge対応プリンターでは、［IDフォト］や［連続コマ］は指定できません。

印刷指定（DPOF）

カード内の画像から印刷したい画像や印刷枚数などを指定して、一括印刷（p.153）や写真店への印刷注文をすることができます（最大998画像）。なお、この指定方法は、DPOF（Digital Print Order Format）規格に準拠しています。

動画は指定できません。

FUNC.メニューで印刷指定する

撮影直後や画像の再生中に、FUNC.メニューで印刷指定（DPOF）ができます。

1 画像を選ぶ

- ◀か▶を押して画像を選び、(FUNC/SET)を押します。

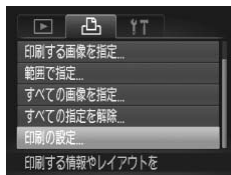
2 [⎙] を選ぶ

- ▲か▼を押して［⎙］を選び、(FUNC/SET)を押します。

3 印刷予約をする

- ▲か▼を押して印刷枚数を指定し、◀か▶を押して［予約する］を選び、(FUNC/SET)を押します。

印刷内容を指定する

印刷タイプや日付、画像番号といった印刷内容を設定できます。この設定は、印刷指定したすべての画像に共通して適用されます。

1 ［印刷の設定］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［凸］タブの［印刷の設定］を選び、(FUNC SET)を押します。

2 設定する

- ▲か▼を押して項目を選び、◀か▶を押して設定します。
- MENUボタンを押すと設定され、メニュー画面に戻ります。

印刷タイプ	スタンダード	1枚の用紙に1枚の画像を印刷
	インデックス	1枚の用紙に縮小画像を複数印刷
	両方	スタンダードとインデックスの両方を印刷
日付	入	撮影日を入れて印刷
	切	—
画像番号	入	画像番号を入れて印刷
	切	—
印刷後指定解除	入	印刷後、画像の印刷指定をすべて解除
	切	—

- プリンターまたは写真店によっては、設定した内容が反映されないことがあります。
- 他のカメラで設定したカードをこのカメラに入れると、［ ! ］が表示されることがあります。このカメラで設定を変えると、設定済みの内容がすべて書き換えられることがあります。
- ［日付］を［入］に設定すると、お使いのプリンターによっては、日付が重複して印刷されることがあります。

- ［インデックス］に設定したときは、［日付］と［画像番号］の両方を［入］にはできません。
- 日付の並びは、MENUボタンを押して［ץ†］タブの［日付/時刻］の設定内容で印刷されます（p.20）。

1枚ずつ枚数を指定する

1 ［印刷する画像を指定］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［凸］タブの［印刷する画像を指定］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 画像を選ぶ

- ◀か▶を押して画像を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 枚数指定ができるようになります。
- ［インデックス］では、指定されると［✓］が表示され、もう一度(FUNC/SET)を押すと解除されて［✓］が消えます。

3 枚数を設定する

- ▲か▼を押して枚数を指定します（最大99枚）。
- 手順2～3の操作を繰り返して、画像と枚数を指定します。
- ［インデックス］では枚数の指定ができません。手順2の操作で画像のみを選んでください。
- MENUボタンを押すと設定され、メニュー画面に戻ります。

範囲で指定する

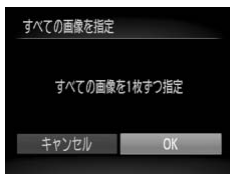
1 ［範囲で指定］を選ぶ

- p.151の手順1の操作で［範囲で指定］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 画像を指定する

- p.126の手順2～3の操作で指定します。

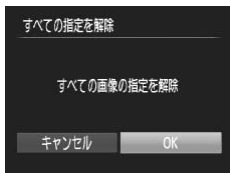
3 印刷指定する

- ▲か▼を押して［画像指定］を選び、(FUNC/SET)を押します。

すべての画像を指定する

1 ［すべての画像を指定］を選ぶ

- p.151の手順1の操作で［すべての画像を指定］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 印刷指定する

- ◀か▶を押して［OK］を選び、(FUNC/SET)を押します。

すべての指定を解除する

1 ［すべての指定を解除］を選ぶ

- p.151の手順1の操作で［すべての指定を解除］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 指定を解除する

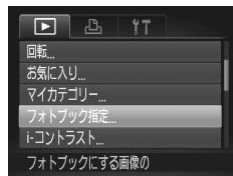
- ◀か▶を押して［OK］を選び、(FUNC/SET)を押します。

印刷指定（DPOF）した画像を印刷する

- 印刷指定した画像（p.149 ～ 152）があるときは、カメラとPictBridge対応プリンターをつなぐと左の画面が表示されます。▲か▼を押して［すぐに印刷］を選び、(FUNC SET)を押すと、印刷指定した画像をかんたんに印刷できます。
- 印刷を中断して再開したときは、続きの画像から印刷されます。

フォトブック指定

カード内の画像からフォトブックに使いたい画像を指定（最大998画像）し、付属のソフトウェア（p.2）を使ってパソコンに取り込むと、指定した画像が専用のフォルダにコピーされて、インターネットでのフォトブック注文や、お使いのプリンターでの印刷をするときに便利です。

指定方法を選ぶ

1 ［フォトブック指定］を選ぶ

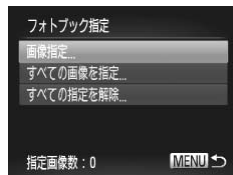
- MENUボタンを押して、［▶］タブの［フォトブック指定］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 設定する

- ▲か▼を押して指定方法を選び、(FUNC/SET)を押します。
- MENUボタンを押すとメニュー画面に戻ります。

他のカメラで設定したカードをこのカメラに入れると、［❗］が表示されることがあります。このカメラで設定を変えると、設定済みの内容がすべて書き換えられることがあります。

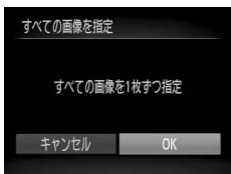
パソコンに取り込んだあとは「ソフトウェアガイド」（p.2）やお使いのプリンターの使用説明書もあわせて参照してください。

1枚ずつ指定する

1 ［画像指定］を選ぶ

- 上記の手順2の操作で［画像指定］を選び、(FUNC/SET)を押します。

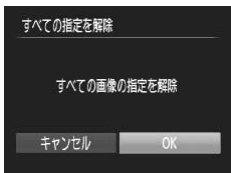
2 画像を選ぶ

- ◀か▶を押して画像を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶［✓］が表示されます。
- もう一度(FUNC/SET)を押すと解除され、［✓］が消えます。
- 別の画像も指定するときは、上記の操作を繰り返します。
- MENUボタンを押すと設定され、メニュー画面に戻ります。

すべての画像を指定する

1 ［すべての画像を指定］を選ぶ

- p.154の手順2の操作で［すべての画像を指定］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 印刷指定する

- ◀か▶を押して［OK］を選び、(FUNC/SET)を押します。

すべての指定を解除する

1 ［すべての指定を解除］を選ぶ

- p.154の手順2の操作で［すべての指定を解除］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 指定を解除する

- ◀か▶を押して［OK］を選び、(FUNC/SET)を押します。

9

カメラの設定を自分好みに変えよう

カメラの各種設定を撮影スタイルにあわせて変えられます。
章の前半では、ふだん使う上で便利な機能について説明しています。
章の後半では、撮影機能や再生機能を目的にあわせて変える方法について説明しています。

カメラの設定を変える

メニューの［YT］タブで設定します。ふだん使う上での便利な機能を自分好みに設定することができます（p.45）。

音を変える

カメラの各種動作音を変えられます。

- ［音の選択］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▲か▼を押して項目を選びます。
- ◀か▶を押して内容を選びます。

1	オリジナルの音が登録されています。 音は変えられません。
2	オリジナルの音が登録されています。 付属のソフトウェアを使って変えられます（p.2）。

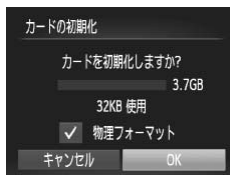
［シャッター音］を変えても、［ ］モード（p.78）のシャッター音には反映されません。

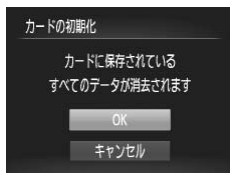
機能の説明を表示しない

FUNC.メニュー（p.44）やメニュー（p.45）で項目を選ぶと、機能の説明が表示されます。この説明を表示しないようにすることができます。

- ［機能ガイド］を選び、◀か▶を押して［切］を選びます。

カードを物理フォーマット（初期化）する

［カードが異常です］のメッセージが表示されたとき、カメラが正しく動作しない、カードへの画像記録／再生時の読み出しや連続撮影速度が遅くなった、動画撮影が途中で止まるなどのときに行います。物理フォーマットをすると、カード内のすべてのデータは消され、もとに戻すことはできません。カード内の画像をパソコンにコピーするなどしてから物理フォーマットをしてください。

1 ［物理フォーマット］を選ぶ

- ［カードの初期化］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▲か▼を押して［物理フォーマット］を選び、◀か▶を押して［✓］を表示します。
- ▲▼◀▶を押して［OK］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 物理フォーマットをする

- ▲か▼を押して［OK］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 物理フォーマットがはじまります。
- ▶ 物理フォーマットが終わると［カードの初期化が完了しました］が表示されます。

3 物理フォーマットを終える

- (FUNC/SET)を押します。

- 物理フォーマットはカード内の全記憶領域を初期化するため、「カードを初期化する」（p.23）よりも時間がかかります。
- 物理フォーマット中に［中止］を選ぶと、初期化を中止できます。中止してもデータはすべて消去されますが、カードは問題なく使えます。

起動画面を変える

電源を入れたときに表示される起動画面を変えられます。

- ［起動画面］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ◀か▶を押して内容を選びます。

	起動画面は表示されません。
1	オリジナルの画像が登録されています。画像は変えられません。
2	オリジナルの画像が登録されています。撮影した画像を登録したり、付属のソフトウェアを使って変えることができます。

撮影した画像を起動画面にする

1 再生モードにする

- ▶ボタンを押します。

2 ［起動画面］を選ぶ

- ［起動画面］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ◀か▶を押して[2]を選び、(FUNC/SET)を押します。

3 画像を選ぶ

- ◀か▶を押して［OK］を選び、(FUNC/SET)を押すと登録されます。

(!) 起動画面を登録すると、以前の登録内容は消えます。

付属のソフトウェアで音や起動画面を登録する

付属のソフトウェアに用意されている専用の各種動作音や起動画面を、カメラに登録することができます。また、CANON iMAGE GATEWAYからダウンロードした専用の各種動作音や起動画面を、カメラに登録することもできます。詳しくは「ソフトウェアガイド」（p.2）を参照してください。

画像番号のつけかたを変える

撮影した画像には、撮影した順に0001～9999の番号がつけられ、1つのフォルダに2000枚ずつ保存されます。この画像番号のつけかたを変えることができます。

- ［画像番号］を選び、◀か▶を押して内容を選びます。

通し番号	画像番号9999の画像が撮影／保存されるまでは、カードを変えて撮影しても連番になります。
オートリセット	カードを変えたり、フォルダが新しく作られたときは、画像番号が0001に戻ります。

- ［通し番号］［オートリセット］とも、変えるカードに画像が入っているときは、その画像番号の続き番号になることがあります。画像番号0001の画像から順に保存したいときは、初期化（p.23）したカードをお使いください。
- フォルダ構造や保存される画像については、「ソフトウェアガイド」（p.2）を参照してください。

フォルダを撮影日ごとに作る

撮影した画像を保存するフォルダは月ごとに作成されますが、撮影日ごとに作成することもできます。

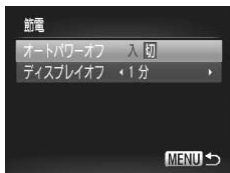
- ［フォルダ作成］を選び、◀か▶を押して［毎日］を選びます。
- 撮影日ごとに新しいフォルダが作られ、撮影した画像が保存されます。

レンズ収納時間を変える

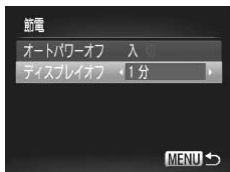
撮影状態から▶ボタンを押して約1分経過すると、安全のためレンズが収納されます（p.29）。▶ボタンを押すとすぐにレンズが収納されるようにしたいときは、収納時間を［0秒］に設定します。

- ［レンズ収納時間］を選び、◀か▶を押して［0秒］を選びます。

節電機能を切る

節電機能（p.50）を［切］にできます。バッテリーの消耗を防ぐため、通常は［入］をおすすめします。

- ［節電］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▲か▼を押して［オートパワーオフ］を選び、◀か▶を押して［切］を選びます。
- ［切］にすると節電機能は働きません。電源の切り忘れに注意してください。

画面が消えるまでの時間を変える

節電機能（p.50）が働いて、画面が自動的に消えるまでの時間を設定できます。なお、［オートパワーオフ］が［切］のときも働きます。

- ［節電］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▲か▼を押して［ディスプレイオフ］を選び、◀か▶を押して時間を選びます。
- バッテリーの消耗を防ぐため、通常は［1分］以下をおすすめします。

世界時計を使う

海外へ旅行するときなど、あらかじめ訪問先（旅行先）のエリアを登録しておくと、エリアを切り換えるだけで、登録したエリアの日時で記録できます。日付／時刻を設定しなおす必要がなく便利です。
なお、世界時計を使うには、あらかじめ「日付／時刻を設定する」（p.20）で日付／時刻と自宅エリアを設定してください。

1 訪問先のエリアを設定する

- ［エリア設定］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▲か▼を押して［✈訪問先］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ◀か▶を押して訪問先エリアを選びます。
- ▲か▼を押して［☀］にすると、サマータイム（1時間プラスされます）に設定されます。
- (FUNC/SET)を押します。

2 訪問先のエリアに切り換える

- ▲か▼を押して［✈訪問先］を選び、MENUボタンを押します。
- ▶ 撮影画面（p.183）に［✈］が表示されます。

［✈］の状態で日付／時刻を変える（p.21）と、［自宅］の日時も自動的に変わります。

撮影機能の設定を変える

モードスイッチを■にしてPモードにし、メニューの［■］タブで設定します（p.45）。

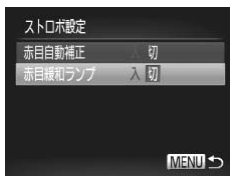
ここで説明する機能をPモード以外で使うときは、それぞれの機能がどのモードで使えるか確認してください（p.192～193）。

AF補助光（ランプ）を切る

暗いところでシャッターボタンを半押しすると、ピントを合わせるためにランプ（前面）が点灯します。このランプを点灯しないようにすることができます。

- ［AF補助光］を選び、◀か▶を押して［切］を選びます。

赤目緩和機能（ランプ）を切る

暗いところでのストロボ撮影では、人の目が赤く撮影されることを緩和するため、ランプ（前面）が点灯します。このランプを点灯しないようにすることができます。

- ［ストロボ設定］を選び、(FUNC SET)を押します。
- ▲か▼を押して［赤目緩和ランプ］を選び、◀か▶を押して［切］を選びます。

撮影直後の画像表示時間を変える

撮影直後に画像が表示される時間を変えられます。

● ［撮影の確認］を選び、◀か▶を押して内容を選びます。

2〜10秒	設定した時間だけ画像を表示します。
ホールド	シャッターボタンを半押しするまで画像を表示します。
切	画像は表示されません。

撮影直後の画面表示を変える

撮影直後の画像表示を変えることができます。

● ［レビュー情報］を選び、◀か▶を押して内容を選びます。

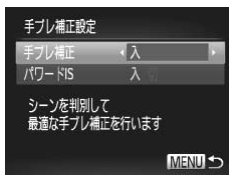
非表示	撮影した画像だけを表示します。
詳細表示	詳細情報表示（p.186）になります。
ピント確認	AFフレームの位置を拡大表示して、ピントを確認することができます。操作方法は、「ピント位置を確認する（フォーカスチェッカー）」（p.119）と同じです。

グリッドラインを表示する

撮影のときに垂直、水平の目安になる格子線を画面上に表示することができます。

● ［グリッドライン］を選び、◀か▶を押して［入］を選びます。

「グリッドライン」は画像に記録されません。

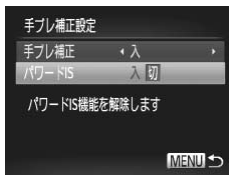
手ブレ補正の設定を変える

- [手ブレ補正設定] を選び、FUNC SETを押します。
- ▲か▼を押して［手ブレ補正］を選び、◀か▶を押して内容を選びます。

入	撮影状況に最適な手ブレ補正に自動設定（マルチシーンIS）されます（p.185）。
撮影時＊	撮影される瞬間のみ手ブレを補正します。
切	手ブレ補正を切ります。

＊ 動画を撮影するときは、［入］の設定に変わります。

手ブレを補正しきれないときは、三脚などでカメラを固定してください。また、三脚などでカメラを固定するときは、［切］にすることをおすすめします。

パワードIS機能を切る

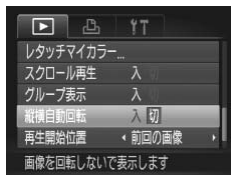
パワードISは、動画を望遠にして撮影するときのゆっくりとした手ブレを補正します。ただし、歩きながら撮影するときや被写体の動きにあわせてカメラを大きく動かしたときなどは、思いどおりの効果が得られないことがあります。そのようなときは、パワードISを［切］に設定します。

- [手ブレ補正設定] を選び、FUNC SETを押します。
- ▲か▼を押して［パワードIS］を選び、◀か▶を押して［切］を選びます。

［手ブレ補正］が［切］のときは、［パワードIS］の設定は反映されません。

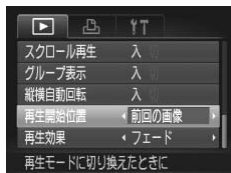
再生機能の設定を変える

▶ボタンを押して、メニューの［▶］タブで設定します（p.45）。

自動回転機能を切る

縦位置で撮影した画像をカメラで見るときは、自動回転して縦位置で表示されます。この機能を使わないようにできます。

- ［縦横自動回転］を選び、◀か▶を押して［切］を選びます。

- ［切］にすると、画像の回転（p.135）はできません。また、すでに回転させていた画像も、もとの向きで表示されます。
- 連想再生（p.123）では、［切］に設定しても、縦位置で撮影された画像は縦位置で、撮影後に回転させた画像は回転した状態で表示されます。

再生したときに表示する画像を選ぶ

- ［再生開始位置］を選び、◀か▶を押して内容を選びます。

前回の画像	再生したときに、前回最後に再生した画像が表示されます。
最新の画像	再生したときに、撮影した最新画像が表示されます。

10

カメラを使うときに役立つ情報

別売アクセサリー（p.203）の使いかた、Eye-Fiカード（別売）の使いかた、「故障かな？と思ったら」のほか、画面表示の一覧やカメラの機能一覧を掲載しています。

テレビで見る

ステレオAVケーブル AVC-DC400ST（別売）（p.204）でカメラとテレビをつないで、カメラを操作すると、撮影した画像をテレビで見ることができます。

2 カメラとテレビをつなぐ

- ふたを開き（①）、ケーブルのプラグをカメラの端子にしっかりと差し込みます（②）。

- ケーブルのプラグを、図のようにテレビの入力端子へしっかりと差し込みます。

4 カメラの電源を入れる

- ▶ボタンを押して電源を入れます。
- ▶ 画像がテレビに表示されます（カメラの画面には何も表示されません）。
- 見終わったらカメラとテレビの電源を切ってから、ケーブルを抜きます。

? 画像がテレビに正しく表示されないときは？

出力方式（NTSC/PAL）があわないと、画像が正しく表示されません。**MENU**ボタンを押して、［ŶŤ］タブの［ビデオ出力方式］で出力方式を変えてください（日本国内の出力方式は、「NTSC」です）。

テレビを使って撮る

カメラの画面表示をテレビに表示して撮影できます。

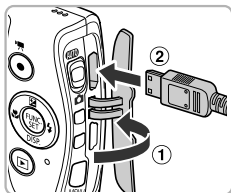
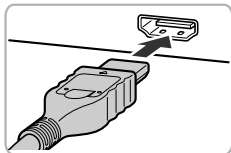
- 「テレビで見る」（p.170）の手順でカメラとテレビをつなぎます。
- 撮影操作は、カメラの画面を使ったときと同じです。

HDMIケーブル HTC-100（別売）でHD（ハイビジョン）対応テレビにつないだときは、テレビに表示できません。

HDMIケーブル（別売）でつないで見る

HDMIケーブル HTC-100（別売）（p.204）でカメラとHD対応テレビをつないで、カメラを操作すると、撮影した画像をテレビで見ることができます。

1 カメラとテレビの電源を切る

2 カメラとテレビをつなぐ

- ふたを開き（①）、ケーブルのプラグをカメラの端子にしっかりと差し込みます（②）。

- ケーブルのプラグを、図のようにテレビのHDMI入力端子へしっかりと差し込みます。

3 画像を表示する

- p.170の手順3～4の操作で画像を表示します。

HD対応テレビにつないだときは、操作音は鳴りません。

テレビのリモコンで操作する

HDMI機器制御機能（HDMI CEC）対応のテレビとカメラをつなぐと、テレビのリモコンで画像の切り換えや、スライドショーなどの操作ができます。テレビによっては、テレビ側の設定が必要です。詳しくは、テレビの使用説明書を参照してください。

1 ［HDMI機器制御］を選ぶ

- MENUボタンを押して、[ƳƮ]タブの[HDMI機器制御］を選び、◀か▶を押して［入］を選びます。

2 テレビとカメラをつなぐ

- p.171の手順1～2の操作でテレビとカメラをつなぎます。

3 画像を表示する

- テレビの電源を入れ、カメラの▶ボタンを押します。
- ▶ 画像がテレビに表示されます（カメラの画面には何も表示されません）。

4 テレビのリモコンで操作する

- リモコンの◀か▶で画像を選びます。
- 決定ボタンを押すとテレビに操作パネルが表示されます。◀か▶で項目を選び、もう一度決定ボタンを押します。

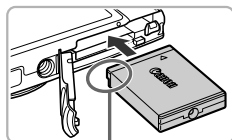
テレビに表示される操作パネル一覧

↩	戻る	メニューが消えます。
⧉	グループ再生	ハイスピード連写で撮影された画像を表示します（グループ化された画像を選んでいるときのみ表示）。
▶	動画再生	動画を再生します（動画を選んでいるときのみ表示）。
⟳	スライドショー	画像を自動的に再生します。再生中にリモコンの◀か▶を押すと画像を切り換えられます。
⊞	インデックス表示	画像を一覧で表示します。
DISP.	情報表示切り換え	画面の表示を切り換えます（p.42）。

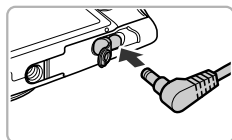
- カメラの MENU ボタンを押すなど、カメラを操作して表示を変えたときは、テレビのリモコンでの操作ができなくなります。カメラで1枚表示に戻してからリモコンで操作してください。
- HDMI機器制御機能（HDMI CEC）に対応したテレビであっても、正しく動作しないことがあります。

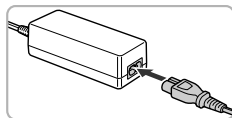
家庭用電源でカメラを使う

ACアダプターキット ACK-DC60（別売）を使うと、バッテリーの残量を気にせずにカメラを使うことができます。

1 カメラの電源を切る

端子部

2 カプラーを入れる

- p.17の手順2の操作でふたを開きます。
- カプラーを図の向きにして、p.17 の手順3のバッテリーを入れる方法と同じ操作でカプラーを入れます。
- p.18の手順5の操作でふたを閉めます。

3 プラグをカプラーにつなぐ

- カバーを開き、アダプターのプラグをカプラーの端子にしっかりと差し込みます。

4 電源コードを取り付ける

- 電源コードをアダプターに差し込み、プラグをコンセントに差し込みます。
- カメラの電源を入れると、カメラが使えます。
- 使い終わったら、カメラの電源を切ってからプラグをコンセントから抜いてください。

カメラの電源を入れたまま、プラグや電源コードを抜かないでください。撮影した画像が消えたり、カメラが故障することがあります。

ACアダプターキット ACK-DC10（別売）も、同様に使うことができます。

Eye-Fiカードを使う

Eye-Fiカードを使うときは、その国や地域で使用が認められているか、必ず事前にご確認ください（p.16）。

セットアップしたEye-Fiカードをカメラに入れると、撮影した画像をワイヤレスでパソコンに自動転送したり、オンライン上のサービスにアップロードしたりできます。
画像の転送はEye-Fiカードの機能です。カードのセットアップ方法、使用方法、転送時の不具合などについては、カードの使用説明書を参照するかカードメーカーにお問いあわせください。

Eye-Fiカードの使用中は、次のことに注意してください。

- ［Eye-Fi通信］を［しない］に設定（p.176）しても、電波が発信されることがあります。病院や航空機内など電波の発信が禁止されている場所では、事前にEye-Fiカードを取り出しておいてください。
- 画像が転送できないときは、カードやパソコンの設定を確認してください。詳しくはカードの使用説明書を参照してください。
- 無線LANの接続状態によっては、画像の転送に時間がかかったり、転送が中断したりすることがあります。
- Eye-Fiカードは、通信機能があるため、熱くなることがあります。
- バッテリーの消耗が早くなります。
- カメラの動作が遅くなります。［Eye-Fi通信］を［しない］に設定すると解決することがあります。

Eye-Fiカードをカメラに入れると、撮影画面（情報表示時）や再生画面（簡易情報表示時）で通信状態を確認できます。

（灰色点灯）	未接続
（白点滅）	接続中
（白点灯）	転送待機
（アニメーション）	転送中
	中断
	Eye-Fiカード情報取得エラー（電源を入れなおしてください。繰り返し表示されるときは、カードの異常が考えられます。）

転送された画像には、［ ］が表示されます。

- 画像の転送中は、節電機能が働きません（p.50）。
- ［ ］モードを選んでいるときは、Eye-Fi通信が中断されます。ほかの撮影モードに変えるか、再生モードにすると再開されますが、［ ］モードで作成された動画は重複して転送されることがあります。

通信情報を確認する

接続先SSIDや通信状態を確認できます。

[通信情報一覧] を選ぶ

- MENUボタンを押して、[ҮҮ] タブの [Eye-Fi設定] を選び、(FUNC SET)を押します。
- ▲か▼を押して [通信情報一覧] を選び、(FUNC SET)を押します。
- ▶ 通信情報一覧が表示されます。

Eye-Fi通信をしない

Eye-Fi通信をしない設定にできます。

[Eye-Fi通信] で [しない] を選ぶ

- MENUボタンを押して、[ҮҮ] タブの [Eye-Fi設定] を選び、(FUNC SET)を押します。
- ▲か▼を押して [Eye-Fi通信] を選び、◀か▶を押して [しない] を選びます。

? [Eye-Fi設定] が表示されない？

Eye-Fiカードを入れていないときや、ライトプロテクトスイッチがあるEye-Fiカードのスイッチを「LOCK」側にして入れているときは表示されません。そのため、ライトプロテクトスイッチがあるEye-Fiカードのスイッチを「LOCK」側にして入れているときは、設定を変えることができませんので注意してください。

故障かな？と思ったら

「カメラが故障したのかな？」と考える前に、次の例を参考に確認してください。ただし、問題が解決しないときは、別紙の修理受付センターへご相談ください。

電源

電源ボタンを押してもカメラが動作しない

- 指定されたバッテリーで、残量があることを確認してください（p.15）。
- バッテリーが正しい向きで入っているか確認してください（p.17）。
- カード／バッテリー収納部ふたが閉じているか確認してください（p.18）。
- バッテリーの端子が汚れているとバッテリー性能が低下します。綿棒などで端子を拭き、バッテリーを数回入れなおしてください。

バッテリーの消耗が早い

- 低温下ではバッテリー性能が低下します。端子カバーをつけて、ポケットなどでバッテリーを温めてからお使いください。

レンズが出たままで収納されない

- 電源を入れたまま、カード／バッテリー収納部ふたを開けないでください。ふたを閉じたあと、電源を入れてからもう一度切ってください（p.18）。

テレビ表示

テレビに表示できない／画面が乱れる（p.170）

撮影

撮影できない

- 再生モードのとき（p.22）は、シャッターボタンを半押ししてください（p.25）。

暗い場所での画面表示がおかしい（p.43）

撮影中の画面表示がおかしい

次のときは、静止画には記録されませんが、動画には記録されます。注意してください。

- 蛍光灯やLEDなどの照明下で撮影すると、画面がちらついたり横帯が表示されたりすることがあります。

シャッターボタンを押したら、画面に［⚡］が点滅表示されて撮影できない（p.28）

シャッターボタンを半押ししたときに、［手ブレ警告］が表示される（p.52）

- ［手ブレ補正］を［入］にしてください（p.167）。
- ストロボを［⚡］にしてください（p.83）。
- ISO感度を高くしてください（p.85）。
- 三脚などでカメラを固定してください。また、三脚などでカメラを固定するときは、［手ブレ補正］を［切］にして撮影することをおすすめします（p.167）。

画像がボケて撮影される
- シャッターボタンを半押ししてピントを合わせてから、撮影してください（p.25）。
- 撮影距離範囲内に被写体をおさめて撮影してください（p.198）。
- ［AF補助光］を［入］にしてください（p.165）。
- 意図しない機能（マクロ撮影など）が設定されていないか確認してください。
- フォーカスロック、AFロックで撮影してください（p.93、96）。

シャッターボタンを半押ししても、AFフレームが表示されずピントが合わない
- 被写体の明暗差がある部分を画面中央にしてシャッターボタンを半押しするか、半押しを何度か繰り返すとAFフレームが表示され、ピントが合うことがあります。

被写体が暗すぎる
- ストロボを［⚡］にしてください（p.83）。
- 露出補正で明るさを補正してください（p.83）。
- i-コントラストで補正してください（p.86、139）。
- スポット測光またはAEロックで撮影してください（p.98、99）。

被写体が明るすぎる（白トビする）
- ストロボを［🚫］にしてください（p.52）。
- 露出補正で明るさを補正してください（p.83）。
- スポット測光またはAEロックで撮影してください（p.98、99）。
- 被写体にあたっている照明を弱めてください。

ストロボが光ったのに暗い画像になる（p.28）
- ストロボ撮影に適した距離で撮影してください（p.83）。
- ISO感度を高くしてください（p.85）。

ストロボ撮影した画像の被写体が明るすぎる（白トビする）
- ストロボ撮影に適した距離で撮影してください（p.83）。
- ストロボを［🚫］にしてください（p.52）。

ストロボ撮影時、画像に白い点などが写る
- 空気中のちりなどにストロボ光が反射しました。

画像が粗い感じになる
- ISO感度を低くして撮影してください（p.85）。
- 撮影モードによってはISO感度が高くなるため、粗い感じの画像になることがあります（p.64）。

目が赤く写る（p.101）
- ［赤目緩和ランプ］を［入］に設定してください（p.165）。ストロボ撮影のときは、ランプ（前面）（p.40）が点灯して、約1秒間は赤目現象を緩和するため撮影できません。また、写される人がランプを見ているときに効果があります。「室内を明るくする」、「写したい人に近づく」と効果が上がります。
- 赤目補正で補正してください（p.140）。

カードへの画像の記録時間が長い、または連続撮影速度が遅くなった
- カードをこのカメラで物理フォーマットしてください（p.159）。

撮影機能やFUNC.メニューの設定ができない
- 設定できる項目は撮影モードによって変わります。「撮影機能一覧」、「FUNC.メニュー一覧」、「撮影タブメニュー 一覧」（p.188〜193）で確認してください。

動画撮影

正しい撮影時間が表示されない、または中断される
- カードをこのカメラで初期化するか、書き込み速度の速いカードを使ってください。撮影時間が正しく表示されないときも、カードには実際に撮影した時間の動画が撮影されています（p.23、32）。

画面に［ ! ］が表示され、撮影が自動的に終わった
カメラの内部メモリーが少なくなりました。次の方法を試してください。
- カードをこのカメラで物理フォーマットする（p.159）。
- 画質を変える（p.108）。
- 書き込み速度の速いカードを使う（p.108）。

被写体がゆがんで見える
- 撮影中に被写体がカメラの前を素早く横切ったときは、ゆがんで見えることがあります。これは故障ではありません。

再生

再生できない
- パソコンでファイル名やフォルダ構造を変えると再生できないことがあります。ファイル名やフォルダ構造については、「ソフトウェアガイド」（p.2）を参照してください。

再生が中断する、または音声が途切れる
- このカメラで物理フォーマットしたカードを使ってください（p.159）。
- 動画を、読み込み速度の遅いカードにコピーして再生すると、再生が一瞬中断することがあります。
- パソコンで動画を再生するとき、パソコンの性能によっては、画像がフレーム（コマ）落ちしたり、音声が途切れたりすることがあります。

カード

カードが認識されない
- カードを入れたままで、もう一度電源を入れなおしてください（p.17）。

パソコン

画像をパソコンに取り込めない

カメラとパソコンをケーブルでつないで取り込むときは、次の操作で画像の取り込み速度を遅くすることで、問題が解決できることがあります。

- ▶ボタンを押して再生モードにしたあと、MENUボタンを押したまま、▲と(FUNC SET)を同時に押します。表示された画面で◀か▶を押して［B］を選び、(FUNC SET)を押します。

Eye-Fiカード

画像が転送できない（p.175）

画面に表示されるメッセージ一覧

画面にメッセージが表示されたときは、次のように対応してください。

カードがありません

- カードが正しい向きで入っていません。カードを正しい向きで入れます（p.17）。

カードがロックされています

- SD メモリーカード、SDHC メモリーカード、SDXC メモリーカード、Eye-Fi カードのスイッチが「LOCK」側（書き込み禁止）になっています。スイッチを書き込みできる方へ切り換えます（p.17）。

記録できません

- カードが入っていない状態で撮影しました。撮影するときは、カードを正しい向きで入れます（p.17）。

カードが異常です（p.159）

- 初期化したカードを正しい向きで入れても同じ表示が出るときは、別紙の修理受付センターへご相談ください（p.17）。

カード残量が足りません

- カードの空き容量がないため、撮影（p.26、31、51、61、81、103）や編集（p.136～140）はできません。画像を消して（p.30、128）空き容量を作るか、空き容量のあるカードに交換します（p.17）。

バッテリーを交換してください（p.17）

画像がありません

- カードに表示できる画像が入っていません。

保護されています（p.124）

認識できない画像です／互換性のないJPEGです／画像が大きすぎます／再生できません（AVI）／RAW

- 非対応の画像やデータが壊れている画像は表示できません。
- パソコンで加工したり、ファイル名を変えたりした画像や、このカメラ以外で撮影した画像は、表示できないことがあります。

拡大できない画像です／連想再生できない画像です／回転できない画像です／処理できない画像です／登録できない画像です／処理できません／指定できない画像です

- 非対応の画像は、拡大（p.120）、連想再生（p.123）、お気に入り設定（p.130）、カテゴリー分け（p.132）、回転（p.135）、編集（p.136～140）、印刷指定（p.149）、フォトブック指定（p.154）、起動画面への登録（p.160）はできません。
- パソコンで編集した画像やファイル名を変えた画像、このカメラ以外で撮影した画像は、拡大、連想再生、お気に入り設定、カテゴリー分け、回転、編集、印刷指定、フォトブック指定、起動画面への登録はできないことがあります。
- 動画は、拡大（p.120）、連想再生（p.123）、編集（p.136 ～ 140）、印刷指定（p.149）、フォトブック指定（p.154）、起動画面への登録（p.160）はできません。

指定範囲が正しくありません

- 画像を範囲指定（p.126、129、134、152）するとき、始点に終点より遅い番号の画像、または終点に始点より早い番号の画像を指定しようとしました。

指定枚数の上限を超えています

- 印刷指定（p.149）やフォトブック指定（p.154）の画像を998枚より多く指定しました。指定する画像を998枚以下にします。
- 印刷指定（p.149）やフォトブック指定（p.154）を正しく保存できませんでした。指定枚数を減らして、もう一度指定します。
- 保護（p.124）、消去（p.128）、お気に入り（p.130）、マイカテゴリー（p.132）、印刷指定（p.149）、フォトブック指定（p.154）で、501枚以上の画像を指定しようとしました。

通信エラー

- カードに大量の画像（1000 枚程度）があるため、パソコンに画像を取り込んだり印刷したりできません。パソコンへ取り込むときは、カードリーダー（市販品）を使います。印刷するときは、プリンターのカードスロットにカードを差して印刷します。

ファイル名が作成できません

- カメラが作成しようとしたフォルダや画像と同じファイル名があるとき、画像番号が最大値になっているときは、フォルダや画像が作成できません。[ᛘᛘ] メニューで［画像番号］を［オートリセット］に変えるか（p.161）、カードを初期化します（p.23）。

レンズエラーを検知しました

- レンズ動作中にレンズを押さえたり、ホコリや砂ボコリの立つ場所などでカメラを使うと表示されることがあります。
- 頻繁に表示されるときは故障が考えられますので、別紙の修理受付センターへご相談ください。

カメラがエラーを検知しました（エラー番号）

- 撮影直後に表示されたときは、撮影されていないことがあります。再生して画像を確認してください。
- 頻繁に表示されるときは故障が考えられますので、エラー番号（Exx）を控えて、別紙の修理受付センターへご相談ください。

ファイルエラー

- パソコンで加工したり、このカメラ以外で撮影した画像は印刷できないことがあります。

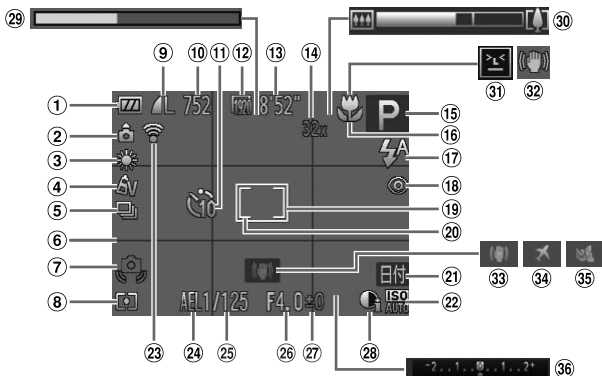
印刷エラー

- 用紙サイズの設定を確認してください。正しく設定されていてもこのエラーが表示されるときは、プリンターの電源を入れなおして、もう一度設定してください。

インク吸収体が満杯です

- パーソナル機器修理受付センターまたはお近くの修理受付窓口にインク吸収体の交換を依頼してください。

画面の表示内容一覧

撮影時（情報表示あり）

① バッテリー残量表示（p.15）
② カメラ位置＊
③ ホワイトバランス（p.84）
④ マイカラー（p.88）
⑤ ドライブモード（p.87）
⑥ グリッドライン（p.166）
⑦ 手ブレ警告（p.28）
⑧ 測光方式（p.98）
⑨ 圧縮率（画質）（p.59）／記録画素数（p.59、108）
⑩ 撮影可能枚数（p.60）
⑪ セルフタイマー（p.55、56）
⑫ 画質（p.108）
⑬ 撮影可能時間（p.108）
⑭ デジタルズーム倍率（p.53）、デジタルテレコンバーター（p.91）
⑮ 撮影モード（p.188）、シーンアイコン（p.184）
⑯ フォーカスゾーン（p.90）、AFロック（p.96）
⑰ ストロボモード（p.52、83、100）
⑱ 赤目自動補正（p.101）
⑲ AFフレーム（p.92）
⑳ スポット測光枠（p.98）
㉑ 日付写し込み（p.54）
㉒ ISO感度（p.85）
㉓ Eye-Fi通信状態（p.175）
㉔ AEロック（p.99）、FEロック（p.99）
㉕ シャッタースピード
㉖ 絞り数値
㉗ 露出補正量（p.83）
㉘ i-コントラスト（p.86）
㉙ ハイスピード動画撮影時間（p.106）
㉚ ズームバー（p.26）
㉛ 目つむり検出（p.102）
㉜ 手ブレ補正（p.185）
㉝ 手ブレ補正（p.167）
㉞ エリア設定（p.164）
㉟ ウィンドカット（p.109）
㊱ 露出補正バー（p.83）

＊ ：通常、 ：カメラを縦位置に構えたとき
撮影時にカメラの向きを検知して最適な撮影ができるよう制御され、再生時には、カメラが縦向きでも横向きでも、画像が自動的に回転して正位置で見ることができます。
ただし、カメラを真上や真下に向けると正しく検出できないことがあります。

シーンのアイコン

AUTO モードでは、カメラが判別したシーンを示すアイコンが表示され、ピント合わせや被写体の明るさ、色あいが最適になるよう自動設定されます。

被写体／背景	人			人以外の被写体			背景色
		動いているとき	顔の一部が暗いとき		動いているとき	近いとき	
明るい							灰色
逆光			—				
青空を含む							水色
逆光			—				
夕景	—					—	オレンジ色
スポットライト							紺色
暗い							
三脚使用時	＊	—		＊	—		

＊ 撮影シーンが暗いときに、三脚などでカメラを固定すると表示されます。

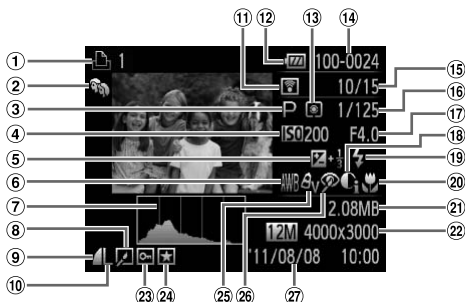
手ブレ補正アイコン

撮影状況に最適な手ブレ補正に自動設定（マルチシーンIS）されます。また、AUTOモードでは以下のアイコンが表示されます。

	静止画を撮影するときの手ブレを補正		動画を撮影するときの手ブレを補正し、歩きながら撮影するときなどの大きな手ブレも補正（ダイナミックモード）
	静止画を流し撮りで撮るときのブレを補正*		動画を望遠にして撮影するときなどの、ゆっくりとした手ブレを補正（パワードIS）
	マクロ撮影するときの手ブレを補正（ハイブリッドIS）		三脚などでカメラを固定したときは、手ブレ補正が不要なため停止

* 動く被写体をカメラで追いながら撮影（流し撮り）するときに表示されます。左右方向に動く被写体を追うと、上下方向の手ブレだけが補正されて、左右方向の補正は停止します。また、上下方向に動く被写体を追うと、左右方向の手ブレだけが補正されます。

［手ブレ補正］を［切］に設定（p.167）すると、手ブレが補正されなくなり、アイコンも表示されなくなります。

再生時（詳細情報表示）

① 動画（p.31、33）、ハイスピード連写（p.78）、印刷予約（p.149）
② マイカテゴリー（p.132）
③ 撮影モード（p.188）
④ ISO感度（p.85）、倍速（p.105）
⑤ 露出補正量（p.83）
⑥ ホワイトバランス（p.84）
⑦ ヒストグラム（p.43）
⑧ グループ再生（p.121）、画像編集（p.136～140）
⑨ 圧縮率（画質）（p.59）
⑩ 記録画素数（p.59、108）、MOV（動画）
⑪ Eye-Fi転送済み画像（p.175）
⑫ バッテリー残量表示（p.15）
⑬ 測光方式（p.98）
⑭ フォルダ番号－画像番号（p.161）
⑮ 再生画像番号／総画像数
⑯ シャッタースピード（静止画）、画質/フレーム数（動画）（p.108）
⑰ 絞り数値
⑱ i-コントラスト（p.86、139）
⑲ ストロボ発光（p.83）
⑳ フォーカスゾーン（p.90）
㉑ ファイルサイズ（p.60、108）
㉒ 静止画：記録画素数（p.60）
動画：撮影時間（p.108）
㉓ 保護（p.124）
㉔ お気に入り（p.130）
㉕ マイカラー（p.88、138）
㉖ 赤目補正（p.101、140）
㉗ 撮影日時（p.20）

テレビに表示しているときは、一部の情報が表示されないことがあります。

「動画を見る」（p.33）で表示される動画操作パネル一覧

↩	終了
▶	再生
❙▶	スロー再生（◀か▶を押して再生速度を変更）（音声は再生されません）
❙◀	前スキップ*（FUNC SETを押したままにすると連続してスキップ）
◀❙❙	フレーム戻し（FUNC SETを押したままにすると早戻し）
❙❙▶	フレーム送り（FUNC SETを押したままにすると早送り）
▶❙	次スキップ*（FUNC SETを押したままにすると連続してスキップ）
✂	編集（p.111）
🖨	PictBridge対応プリンターとつないだとき（p.142）に表示

* 約4秒前または後のフレームを表示

動画再生中に◀か▶を押すと、前スキップ、次スキップができます。

機能／メニュー 一覧

撮影機能一覧

機能 ＼ 撮影モード		AUTO							
			P						
露出補正（p.83）		–	○	○	○	○	○	○	○
AE/FEロック＊1（p.99）		–	○	○	–	–	–	–	–
フォーカスゾーン（p.90）		○	○	○	○	○	○	○	○
		–	○	○	○	–	–	–	–
キャッチAF（p.94）		○	○	–	○	○	–	–	–
ストロボ（p.52、83、100）		○	○	○	○	○	○	○	○
		–	○	○	○	○	○	○	○
		＊2	○	○	–	–	–	–	–
		○	○	○	○	○	○	○	○
AFロック（p.96）		–	○	○	–	–	–	–	–
画面の表示（p.42）	情報表示なし	○	○	○	○	○	–	–	–
	情報表示あり	○	○	○	○	○	○	○	○

＊1 FEロックは［ ］では不可
＊2 選択不可。ただし状況に応じて［ ］
＊3 選択不可。ただし発光時は［ ］

○	–	○	○	○	○	○	○	○	–	–	○	○	○	○	–	○	–	–
–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	○	○	○	○
○	–	–	○	–	–	–	○	○	○	○	○	○	○	–	○	–	–	–
–	–	–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	–	–	–	–
–	–	–	–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	○	○	–	–
–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	*3	○	–	–
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	○	–	–	–
○	○	○	○	–	–	–	–	○	○	–	○	○	○	○	○	–	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○選択可能または自動設定　—選択不可

FUNC.メニュー 一覧

機能＼撮影モード		AUTO	P	(モード)	(モード)	(モード)	(顔セルフタイマー)		
測光方式（p.98）		○	○	○	○	○	○	○	○
		–	○	○	–	–	–	–	–
マイカラー（p.88）	OFF	○	○	○	○	○	○	○	○
	V N Se ＊1 BW ＊1 P L D B G R C ＊2	–	○	○	–	–	○	○	○
ホワイトバランス（p.84）	AWB	○	○	○	○	○	○	○	○
	H ＊3	–	○	○	–	–	○	○	○
ISO感度（p.85）	ISO AUTO	○	○	○	○	○	○	○	○
	ISO 100 ISO 200 ISO 400 ISO 800 ISO 1600 ISO 3200	–	○	○	–	–	–	–	–
セルフタイマー（p.55、56）	OFF	○	○	○	○	○	○	○	○
	10 2 C	○	○	○	○	○	–	–	–
セルフタイマー設定（p.56）	時間＊4	○	○	○	○	○	–	–	–
	枚数＊5	○	○	–	○	○	–	–	–
ドライブモード（p.87）		○	○	○	○	○	○	○	○
		–	○	–	○	○	–	–	–
静止画アスペクト比（p.58）	16:9 3:2 4:3 1:1	○	○	–	○	○	○	○	○
記録画素数（p.59）	L	○	○	○	○	○	○	○	○
	M1 M2	○	○	○	○	○	○	○	○
	M	–	–	–	–	–	–	–	–
	S	○	○	○	○	○	○	○	○
圧縮率（p.59）		○	○	○	○	○	○	○	○
動画の画質（p.106、108）	1920	○	○	○	○	○	○	○	○
	1280	○	○	○	○	○	○	○	○
	640	○	○	○	○	○	○	○	○
	240 120	–	–	–	–	–	–	–	–

＊1 ホワイトバランスは選択不可　＊2 コントラスト、シャープネス、色の濃さ、赤・緑・青・肌色を5段設定
＊3［ ］［ ］は取り込み不可　＊4 枚数設定不可のモードでは0秒設定不可
＊5 枚数設定不可のモードでは1枚固定

○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	○	○	－
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	○	○	－
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
－	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
－	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
－	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－	－
－	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－	－	－
－	－	－	－	－	＊6	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－	－
－	－	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－
○	○	○	○	○	＊7	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
○	○	○	○	○	＊7	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－
－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○

＊6［4:3］［16:9］のみ選択可

＊7 縦横比の設定に連動して自動設定（p.106）

○選択可能または自動設定　－選択不可

撮影タブメニュー 一覧

機能 ＼ 撮影モード			AUTO	P						
AFフレーム（p.92）	顔優先AiAF＊1		○	○	○	○	○	○	○	○
	キャッチAF		＊2	○	–	○	○	–	–	–
	中央		–	○	○	○	○	–	–	–
AFフレームサイズ＊3（p.93）	標準		–	○	○	○	○	–	–	–
	小		–	○	○	○	○	–	–	–
デジタルズーム（p.53）	入		○	○	○	○	○	○	○	○
	切		○	○	○	○	○	○	○	○
	テレコン1.5x / テレコン2.0x		–	○	–	–	–	–	–	–
ピント位置拡大（p.95）	入		○	○	–	○	–	○	○	○
	切		○	○	○	○	○	○	○	○
サーボAF（p.97）	入		–	○	–	○	○	–	–	–
	切＊4		○	○	○	○	–	○	○	○
AF補助光（p.165）	入		○	○	○	○	○	○	○	○
	切		○	○	○	○	○	–	○	○
ストロボ設定（p.101、165）	赤目自動補正	入	○	○	○	○	○	○	○	○
		切	○	○	○	○	○	○	○	○
	赤目緩和ランプ	入 / 切	○	○	○	○	○	○	○	○
i-コントラスト（p.86）	自動		○	○	○	–	–	–	–	–
	切		–	○	○	○	○	○	○	○
ウィンドカット（p.109）	入 / 切		○	○	○	○	○	○	○	○
撮影の確認（p.166）	切 / 2～10秒 / ホールド		○	○	○	○	○	○	○	○
レビュー情報（p.166）	非表示		○	○	○	○	○	○	○	○
	詳細表示 / ピント確認		○	○	○	○	○	○	○	○
目つむり検出（p.102）	入		○	○	○	○	○	○	○	○
	切		○	○	○	○	○	○	○	○
グリッドライン（p.166）	入		○	○	○	○	○	○	○	○
	切		○	○	○	○	○	○	○	○
手ブレ補正設定（p.167）	手ブレ補正	切	○	○	○	○	○	○	○	○
		入	○	○	○	○	○	○	○	○
		撮影時	–	○	○	○	○	○	○	○
	パワードIS	入	○	○	○	○	○	○	○	○
		切	○	○	○	○	○	○	○	○
日付写し込み（p.54）	切		○	○	○	○	○	○	○	○
	日付のみ / 日付+時刻		○	○	○	○	○	○	○	○

＊1 顔が検出されないときの動作は撮影モードによって異なる　＊2 選択不可。ただし▲で可能（p.28）
＊3 AFフレームで［中央］選択時に可　＊4 AUTOモードでは動きを検出したときは［入］

○	○	○	○	－	－	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	－	○	○
○	－	－	○	－	－	－	○	○	○	○	○	○	○	－	○	－	－	－
○	－	－	○	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	－	－	○	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	－	－	○	－	－	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	－	○	○
－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	○	○	○	○	－	○	－
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
○	○	－	○	－	－	－	○	○	○	○	○	○	○	－	○	－	－	－
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
－	－	－	○	－	－	－	○	○	○	○	○	○	○	－	－	－	－	－
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
－	－	－	○	－	－	－	－	－	－	－	○	○	○	－	○	－	－	－
－	－	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	－	－
－	－	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	－	－
○	○	－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
－	－	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－	－
－	－	－	○	－	－	－	－	○	○	○	○	○	○	－	－	－	－	－
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	○	○	○	○	－	－	－

○選択可能または自動設定　－選択不可

設定タブメニュー 一覧

項目	内容	参照ページ
消音	する / しない*	p.46
音量	各種操作音を5段階に設定	p.47
音の選択	各種操作音の選択	p.158
機能ガイド	入* / 切	p.158
液晶の明るさ	5段階で設定	p.48
起動画面	起動画面の選択と登録	p.160
カードの初期化	記録内容を初期化して消去	p.23、159
画像番号	通し番号* / オートリセット	p.161
フォルダ作成	毎月* / 毎日	p.162
レンズ収納時間	1分* / 0秒	p.162
節電	オートパワーオフ：入* / 切 ディスプレイオフ：10 – 30秒 / 1* – 3分	p.50、163
エリア設定	自宅* / 訪問先	p.164
日付 / 時刻	日付 / 時刻の設定	p.21
ビデオ出力方式	NTSC* / PAL	p.170
HDMI機器制御	入 / 切*	p.172
Eye-Fi設定	Eye-Fi通信の設定（Eye-Fiカード挿入時のみ表示）	p.175
言語	表示言語を選択	p.22
カメラ設定初期化	カメラの設定を初期状態に戻す	p.49

* 初期設定

▶ 再生タブメニュー 一覧

項目	内容	参照ページ
スライドショー	画像の自動再生	p.117
消去	画像の消去（画像指定／範囲で指定／全画像）	p.128
保護	画像の保護（画像指定／範囲で指定／全画像）	p.124
回転	画像の縦横回転	p.135
お気に入り	お気に入りの登録／解除	p.130
マイカテゴリー	画像の分類（画像指定／範囲で指定）	p.132
フォトブック指定	フォトブック印刷する画像を指定／解除	p.154
i-コントラスト	静止画の暗い部分やコントラストを補正	p.139
赤目補正	静止画の赤目部分を補正	p.140
トリミング	静止画の切り抜き	p.137
リサイズ	静止画を小さくして保存	p.136
レタッチマイカラー	静止画の色調を変える	p.138
スクロール再生	入* / 切	p.114
グループ表示	入* / 切	p.122
縦横自動回転	入* / 切	p.168
再生開始位置	前回の画像* / 最新の画像	p.168
再生効果	フェード* / スライド1 / スライド2 / 切	p.124

* 初期設定

印刷タブメニュー 一覧

項目	内容	参照ページ
印刷	印刷画面を表示（プリンター接続時）	—
印刷する画像を指定	印刷する画像を1枚ずつ指定	p.151
範囲で指定	印刷する画像を、始点／終点の範囲で指定	p.152
すべての画像を指定	すべての画像を印刷する画像に指定	p.152
すべての指定を解除	すべての印刷指定を解除	p.152
印刷の設定	印刷のスタイルを設定	p.150

再生モードのFUNC.メニュー 一覧

項目	内容	参照ページ
回転	表示している画像の回転	p.135
印刷予約	表示している静止画の印刷予約、解除（プリンター接続時は［印刷］）	p.149
保護	表示している画像の保護、解除	p.124
お気に入り	表示している画像のお気に入り設定、解除	p.130
消去	表示している画像の消去	p.30
グループ再生	ハイスピード連写の画像を1枚ずつ再生	p.121
動画再生	動画再生の開始	p.33
ムービーダイジェスト再生	ムービーダイジェストモードで作成された動画を再生	p.115
連想再生	連想再生の開始	p.123
絞り込み再生	表示する画像の絞り込み、解除	p.115
スライドショー	画像の自動再生	p.117
マイカテゴリー	画像の分類	p.132

日ごろの取り扱いについて

- カメラは精密機器です。落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- カメラを磁石やモーターなどの、強力な磁場を発生させる装置の近くに、絶対に置かないでください。電磁波により、カメラが誤作動したり、記録した画像が消えたりすることがあります。
- カメラや画面に水滴や汚れがついたときは、眼鏡拭きなどのやわらかい布で拭き取ってください。ただし、強くこすったり、押したりしないでください。
- 有機溶剤を含むクリーナーなどでは、絶対にカメラや画面を拭かないでください。
- レンズにゴミがついているときは、市販のブロアーで吹き飛ばすだけにしてください。汚れがひどいときは、別紙の修理受付センターにご相談ください。
- カメラを寒いところから急に暑いところへ移すと、カメラに結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから暑いところへ移すときは結露の発生を防ぐため、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから取り出してください。
- 結露が発生したときは、故障の原因となりますのでカメラを使わないでください。バッテリー、カードをカメラから取り出し、水滴が消えてから、カメラを使ってください。

主な仕様

撮像素子
　カメラ部有効画素数 約1210万画素

撮影レンズ
　焦点距離 .... 5.0 (W) – 40.0 (T) mm
（35mmフィルム換算：28 (W) – 224 (T) mm）
　ズーム倍率 8倍
　撮影距離 .... 1 cm – ∞ (W)、1 m – ∞ (T)
・マクロ時は1 – 50 cm (W)
　防振機構（IS）..............................レンズシフト式

映像エンジン .... DIGIC 4

液晶モニター
　形式 .... TFTカラー（広視野角タイプ）
　画面サイズ 3.0型
　有効画素数.....................................約46.1万ドット
　アスペクト比 4:3
　機能 ....輝度調節（5段階）、LCDブースター付き

フォーカス
　制御方式...オートフォーカス：シングル（オート時はコンティニュアス）、サーボAF・サーボAE
　AFフレーム ....顔優先AiAF / キャッチAF / 中央

測光方式..評価 / 中央部重点平均 / スポット

露出補正（静止画）/
露出シフト（動画）.............................±2段（1/3段ステップ）

ISO感度
（標準出力感度・推奨露光指数）.......オート、ISO 100/200/400/800/1600/3200（撮影モード「P」時）

ホワイトバランス...............................オート / 太陽光 / くもり / 電球 / 蛍光灯 / 蛍光灯H / マニュアル

シャッタースピード .... 1 – 1/2000秒
15 – 1/2000秒（すべての撮影モードを合わせたシャッタースピード範囲）

絞り
　方式 ....円形絞り
　F値.. F3.0 – F9.0 (W)、F5.9 – F18 (T)

ストロボ
　発光モード.....................................オート / 常時発光 / スローシンクロ / 発光禁止
　調光範囲 .... 50 cm – 4.0 m (W)、50 cm – 2.0 m (T)

撮影モード..オート*[1]、P、ムービーダイジェスト、ポートレート、キッズ&ペット、オートシャッター*[2]、ハイスピード連写、ベストセレクト連写、手持ち夜景、ローライト、魚眼風、ジオラマ風、トイカメラ風、モノクロ、極彩色、オールドポスター、ワンポイントカラー、スイッチカラー、ビーチ、新緑/紅葉、スノー、打上げ花火、長秒時撮影、スティッチアシスト、iFrame動画、ハイスピード動画
・動画撮影は動画ボタンによる
*1 動画時もこだわりオート可能
*2 スマイル、ウインクセルフタイマー、顔セルフタイマー

デジタルズーム.................................静止画/動画：約4.0倍（光学 x デジタル：最大約32倍）
セーフティズーム、デジタルテレコンバーター

連続撮影
速度...約3.5枚/秒（撮影モード「P」時）
約8.7枚/秒（撮影モード「ハイスピード連写」時）

撮影枚数（CIPA準拠）......................約210枚

記録媒体 ....SDメモリーカード / SDHCメモリーカード / SDXCメモリーカード

ファイルフォーマット ....DCF準拠、DPOF対応（Version 1.1）

データタイプ
静止画..................................Exif 2.3（JPEG）
動画....................................MOV（画像：H.264、音声：リニアPCM（ステレオ））

記録画素数
静止画...【16:9】
ラージ：4000 x 2248 / ミドル1：2816 x 1584 / ミドル2：1920 x 1080 / スモール：640 x 360
【3:2】
ラージ：4000 x 2664 / ミドル1：2816 x 1880 / ミドル2：1600 x 1064 / スモール：640 x 424
【4:3】
ラージ：4000 x 3000 / ミドル1：2816 x 2112 / ミドル2：1600 x 1200 / スモール：640 x 480
【1:1】
ラージ：2992 x 2992 / ミドル1：2112 x 2112 / ミドル2：1200 x 1200 / スモール：480 x 480

動画 .... 【iFrame動画】
1280 x 720（30 fps＊[1]）
【ハイスピード動画】
640 x 480（撮影時は120 fps＊[2]、再生時は30 fps＊[1]）/
320 x 240（撮影時は240 fps＊[3]、再生時は30 fps＊[1]）
【ジオラマ風】
1280 x 720＊[4] / 640 x 480＊[4]
【上記以外】
1920 x 1080（24 fps＊[5]）/ 1280 x 720（30 fps＊[1]）/
640 x 480（30 fps＊[1]）
＊1 実際のフレームレートは29.97 fps
＊2 実際のフレームレートは119.88 fps
＊3 実際のフレームレートは239.76 fps
＊4 撮影時は6 fps / 3 fps / 1.5 fps、再生時は30 fps＊[1]
＊5 実際のフレームレートは23.976 fps

インターフェース .... Hi-Speed USB
HDMI出力
アナログ音声出力（ステレオ）
アナログ映像出力（NTSC/PAL）

ダイレクトプリント規格 .... PictBridge

電源.. バッテリーパック NB-4L
コンパクトパワーアダプター CA-DC10
（ACアダプターキット ACK-DC60に付属）

大きさ（CIPA準拠）................... 95.8 x 56.8 x 22.1 mm

質量（CIPA準拠）............................ 約140 g（電池・メモリーカード含む）
約121 g（本体のみ）

バッテリーパック NB-4L

形式 .... リチウムイオン充電池
公称電圧 .... DC 3.7 V
公称容量 .... 760 mAh
充放電回数 約300回
使用温度 .... 0 – 40℃
大きさ .... 35.4 x 40.3 x 5.9 mm
質量 .... 約17 g

バッテリーチャージャー CB-2LV

定格入力 .... AC 100 V – 240 V（50/60 Hz）、0.1 A（100 V）– 0.06 A（240 V）
定格出力 .... DC 4.2 V、0.65 A
充電時間 .... 約1時間30分（NB-4L充電時）
充電表示 .... 充電中：オレンジ色点灯、充電完了：緑色点灯
使用温度 .... 0 – 40℃
大きさ .... 53.0 x 86.0 x 19.5 mm
質量 .... 約60 g

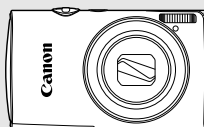
- 記載データはすべて当社試験基準によります。
- 製品の仕様および、外観の一部を予告なく変更することがあります。

注意
指定外のバッテリーを使うと、爆発などの危険があります。使用済みのバッテリーは、各自治体のルールにしたがって処分してください。

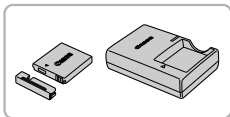
Li-ion

- 不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。
  詳細は、一般社団法人JBRCのホームページをご参照ください。
  ホームページ：http://www.jbrc.com
- プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。

接続マップ

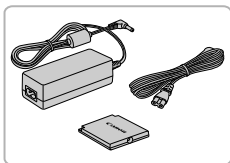
付属品
リストストラップ
WS-DC11
バッテリーパック NB-4L
（端子カバーつき）＊
バッテリーチャージャー
CB-2LV＊
DIGITAL
CAMERA
Solution Disk
インターフェースケーブル
IFC-400PCU＊
＊別売りも用意されています。
メモリーカード
カードリーダー
Windows/Macintosh
キヤノン製PictBridge対応プリンター
ステレオAVケーブル AVC-DC400ST
テレビ
HDMIケーブル HTC-100

別売アクセサリー

必要に応じてお買い求めの上、ご利用ください。なお、アクセサリーは、諸事情により予告なく販売を終了することがあります。また、地域によってはお取り扱いがないことがあります。

電源

バッテリーパック NB-4L

- 充電式のリチウムイオン電池です。

バッテリーチャージャー CB-2LV

- バッテリーパック NB-4L用のバッテリーチャージャーです。

ACアダプターキット ACK-DC60

- 家庭用電源でカメラを使えます。カメラを長時間連続して使うときや、プリンターやパソコンとつなぐときには、このACアダプターキットをお使いになることをおすすめします（カメラ内のバッテリーは充電できません）。

ACアダプターキット ACK-DC10もお使いになれます。

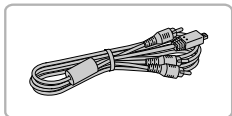
海外での使用について

バッテリーチャージャーやACアダプターキットは、AC 100 – 240 V 50/60 Hzの地域で使えます。
プラグの形状があわないときは、市販の電源プラグ変換アダプターを使ってください。なお、海外旅行用の電子式変圧器は故障の原因になりますので絶対に使わないでください。

ストロボ

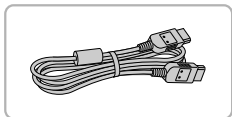
ハイパワーフラッシュ HF-DC2

- 被写体が遠すぎて内蔵ストロボの光が届かないときに使う外付けストロボです。なお、ハイパワーフラッシュ HF-DC1もお使いになれます。

その他

ソフトケース IXC-450

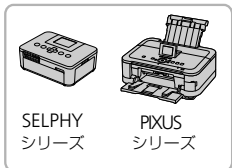
- カメラをキズやホコリから守ります。

ステレオAVケーブル AVC-DC400ST

- テレビを使って画像を撮影したり見たりすることができます。

HDMIケーブル HTC-100

- カメラとハイビジョンテレビの HDMI 端子をつなぐケーブルです。

プリンター

SELPHY シリーズ　PIXUS シリーズ

キヤノン製PictBridge対応プリンター

- キヤノン製の PictBridge 対応プリンターをつなぐと、パソコンを使わずに、撮影した画像を印刷できます。
  製品の詳細については、ホームページやカタログでご確認いただくか、お客様相談センターへお問いあわせください。

アクセサリーはキヤノン純正品のご使用をおすすめします

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組みあわせてお使いになった場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。
なお、純正品以外のアクセサリーの不具合（例えばバッテリーパックの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

索引

【さ】

【た】

【な】

【は】

【ま】

【ら】

アフターサービス期間について

本製品のアフターサービス期間は、製品の製造打切り後5年間です。
なお、弊社の判断によりアフターサービスとして同一機種または同程度の仕様の製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことや、対応OSが変更になることがあります。

妨害電波自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。カメラユーザーガイド（本書）にしたがって正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

適正な動作のために、キヤノン純正の専用アクセサリーと組みあわせてお使いいただくことを推奨いたします。

商標、ライセンスについて

- DCFは、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。
- SDXCロゴはSD-3C, LLC.の商標です。
- 本機器は、Microsoftからライセンスされたex FAT技術を搭載しています。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing,LLCの商標または登録商標です。
- iFrameロゴおよびiFrameシンボルはApple Inc.の商標です。
- This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard.
  ＊ 規定により英語で表記しています。

このガイドについて

- 内容の一部または全部を無断で転載することは、禁止されています。
- 内容に関しては、将来予告なく変更することがあります。
- イラストや画面表示は、実際と一部異なることがあります。
- このカメラを運用した結果については、上記にかかわらず責任を負いかねますので、ご了承ください。

Canon

キヤノン株式会社
キヤノンマーケティングジャパン株式会社
〒108-8011 東京都港区港南2-16-6

製品取り扱い方法に関するご相談窓口

お客様相談センター　050-555-90005

受付時間：平日 9：00〜20：00／土・日・祝日 10：00〜17：00
（1月1日〜1月3日は休ませていただきます）

※海外からご利用の方、または 050 からはじまる IP 電話番号をご利用いただけない方は、043-211-9630をご利用ください。

※受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

Li-ion

リチウムイオン電池のリサイクルにご協力ください。

CDP-J456-010